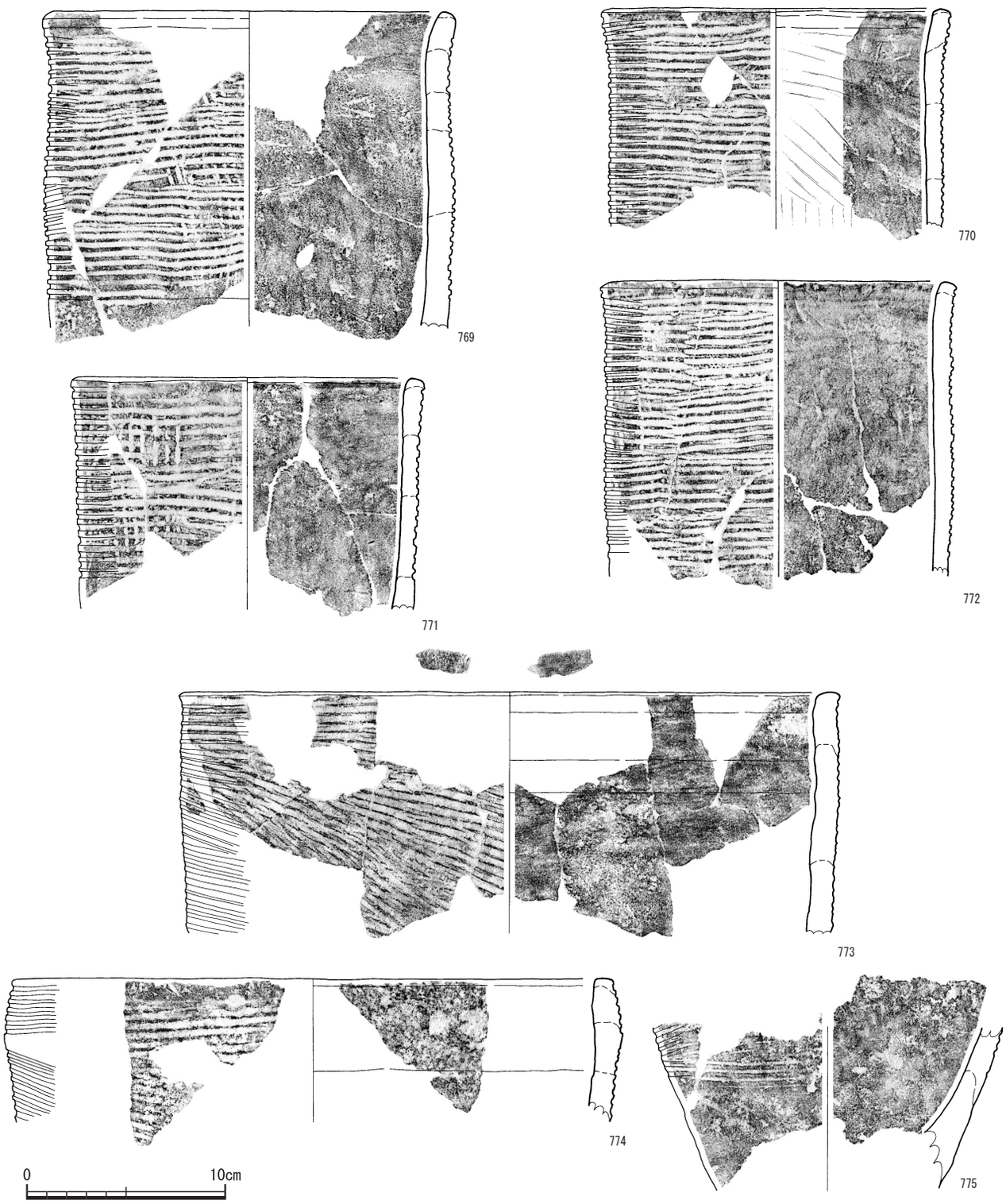
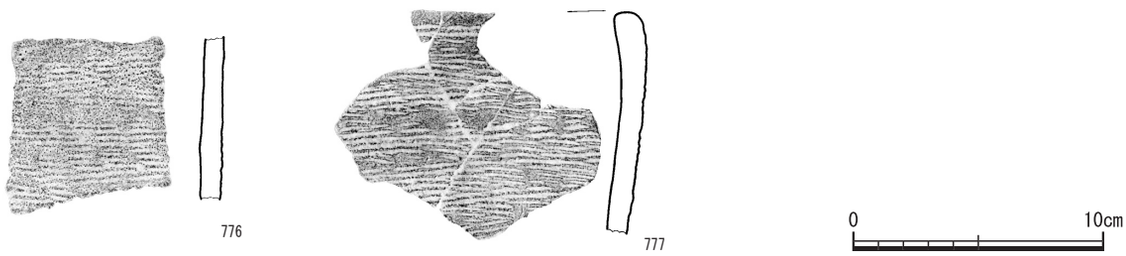


第344図　縄文早期土器実測図（117）（7.1群土器/桐木調査区出土）



第345図　縄文早期土器実測図（118）（7.1群土器/耳取調査区出土）

第95表　縄文早期土器観察表（53）（6群土器-21）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
339	739	6.601	●10484(G-43/Ⅶ) ●一括(-/-)	黒,砂粒	工具ナデ→ナデ	-	-
339	740	6.601	◎18102(G-43/Ⅶ) ●10477(G-43/Ⅶ) ●10479(G-43/Ⅶ)	黒,砂粒	ハケ→丁寧なナデ	-	-
339	741	6.602	○3667(C-13/Ⅳ) ○35226(E-10/Ⅶ下) ○36250(D-11/Ⅴ) ○36670(D-10/Ⅵ) ○40756(D-9/Ⅷ) ○59426(E-8/Ⅷ)	黒,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	口唇部:ナデ	-
339	742	6.601	●10523(G-42/Ⅶ) ○10438(C-12/Ⅴ下)	黒,砂粒	横ハケ→粗いナデ	-	砂粒多量
339	743	6.602	○40058(C-12/Ⅹ) ○59426(E-8/Ⅷ) ○60648(E-8/Ⅷ下)	黒,砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	ナデ	混和材:黒雲母
339	744	6.602	○1699(E-9/Ⅶ) ○2038(E-9/Ⅶ) ○2042(E-9/Ⅶ) ○35276(E-9/Ⅶ下) ○59371(E-8/Ⅶ下) ○59408(E-8/Ⅶ下) ○59409(E-8/Ⅶ下) ○59411(E-8/Ⅷ上)	黒,細粒	斜ケズリ粗いナデ,横ケズリ→粗いナデ	ナデ	混和材:黒雲母
340	745	6.602	▲19488(-/-)	黒,輝,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ,横ハケ→ナデ	-	-
340	746	6.602	▲19484(-/-)	輝,角,雲,細粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ,横ハケ→ナデ	-	細粒多量
341	747	6.711	▲10317(I-5/Ⅶ)	輝,雲,細粒,赤粒	横ケズリ→丁寧なナデ	-	黒曜石,胎土精選
341	748	6.711	▲10314(I-4/Ⅶ)	輝,雲,細粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	-	黒曜石,胎土精選
341	749	6.711	▲13650(I-4/Ⅶ)	輝,角,雲,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	黒曜石,胎土精選
341	750	6.711	▲9283(J-3/Ⅶ)	輝,角,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	黒曜石,胎土精選
341	751	6.711	▲8221(J-3/Ⅶ) ▲9272(J-3/Ⅷ下)	輝,角,黒,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	黒曜石,胎土精選
341	752	6.711	▲19493(-/-)	輝,雲,細粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	-	黒曜石,胎土精選
341	753	6.711	▲19497(-/-)	輝,雲,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	黒曜石,胎土精選
341	754	6.711	▲9528(G-3/Ⅶ)	輝,雲,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	黒曜石,胎土精選
341	755	6.711	▲12775(J-3/Ⅶ) ▲13210(J-3/Ⅷ上)	輝,雲,細粒	横ケズリ→丁寧なナデ	-	黒曜石,胎土精選
341	756	6.711	▲10188(I-5/Ⅶ)	輝,雲,細粒	横ケズリ→丁寧なナデ	-	黒曜石,胎土精選
341	757	6.711	▲10303(J-5/Ⅶ) ▲12877(I-5/Ⅶ)	輝,雲,細粒,赤粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	-	黒曜石,胎土精選
341	758	6.711	▲8216(J-3/Ⅶ)	輝,黒,細粒,赤粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	底面:ハケ→ナデ	黒曜石,胎土精選
342	759	6.711	◎9721(あ-13/Ⅶ) ◎11248(A-12/Ⅶ下) ◎11251(A-12/Ⅶ下) ◎11262(A-12/Ⅶ) ◎13371(A-11/Ⅶ) ◎13372(A-11/Ⅶ) ◎13374(A-12/Ⅶ) ○37236(A-12/Ⅶ上) ○37237(A-12/Ⅶ上) ○37785(B-12/Ⅶ) ○37856(A-12/Ⅶ) ○37997(B-11/Ⅶ) ○37999(B-11/Ⅶ) ○38052(A-12/Ⅶ) ○38054(A-12/Ⅶ) ○38058(A-12/Ⅷ上) ○38827(A-12/Ⅶ) ○40188(A-12/Ⅷ脚) ○40490(C-9/Ⅶ) ○40949(C-8/Ⅶ下) ○50811(A-13/Ⅶ) ○53638(B-13/Ⅶ下)	角,輝,砂粒	ケズリ→斜ヘラナデ	口唇部:ヘラナデ	混和材:角閃石,内面スス付着
343	760	6.812	▲8959(I-4/Ⅶ) ▲10639(I-4/Ⅶ) ▲16276(H-5/Ⅶ下) ▲19417(-/-) ▲19418(-/-) ▲19420(-/-) ▲19421(-/-) ▲19426(-/-)	輝,角,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-

第96表　縄文早期土器観察表（54）（6群土器-22/7群土器/8群土器-１）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
343	761	6.812	▲10622(H-4/Ⅶ) ▲10750(H-5/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-
343	762	6.812	▲8410(G-4/Ⅶ) ▲9543(G-3/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	口唇部:ハケ→ナデ	-
343	763	6.812	▲10542(F-5/Ⅶ) ▲10641(I-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	-	細粒多量
343	764	6.812	▲19450(-/-)	角,輝,雲,砂粒	横,斜ケズリ→ナデ	口唇部:ハケ→ナデ	細粒多量
343	765	6.812	▲10621(H-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	-	口唇部:ハケ→ナデ	細粒多量
343	766	6.812	▲12849(I-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	-	細粒多量
343	767	6.812	▲8271(G-3/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	口唇部:ハケ→ナデ	細粒多量
343	768	6.812	▲19449(-/-)	角,輝,雲,砂粒	斜ハケ→ナデ	-	細粒多量
344	769	7.1	○37316(E-9/Ⅷ) ○59383(E-9/Ⅶ下) ○60211(E-8/Ⅷ)	砂粒	ハケ→ナデ,縦ヘラナデ	口唇部:ハケ→ナデ,横ハケ→ナデ	-
344	770	7.1	○60240(E-8/Ⅷ)	砂粒,黒	丁寧な横ナデ,斜ナデ	-	-
344	771	7.1	○55193(G-10/Ⅷ)	砂粒,角	丁寧なナデ	-	-
344	772	7.1	○40948(C-8/Ⅶ下) ○41424(C-8/Ⅶ) ○41426(C-8/Ⅶ下)	角,砂粒	丁寧なナデ	口唇部:ナデ	-
344	773	7.1	○57459(D-23/Ⅶ下) ○68230(F-24/Ⅶ下) ○71066(F-23/Ⅶ) ○71729(D-22/Ⅶ) ○71733(D-22/Ⅶ) ○71734(D-22/Ⅶ) ○71735(D-22/Ⅶ)	角,砂粒	ナデ,ケズリ→丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
344	774	7.1	○57889(C-24/Ⅷ)	角,砂粒	ナデ	-	-
344	775	7.1	○42181(C-9/Ⅷ上) ○51167(D-9/Ⅶ) ○55760(H-8/Ⅶ) ○55763(H-8/Ⅶ) ○60252(E-7/Ⅷ)	輝,角,砂粒	ハケ→丁寧なナデ	丁寧なナデ	-
345	776	7.1	▲13665(I-4/Ⅶ)	輝,角,雲,細粒	斜ケズリ→粗いナデ	-	胎土精選
345	777	7.1	▲0(-/-)	輝,角,雲,微粒	ミガキに近い丁寧なナデ	口唇部:ミガキに近い丁寧なナデ	胎土精選
347	778	8	●±10(-/-) ●±12(-/-) ●±13(-/-) ●±14(-/-) ●±15(-/-) ●±16(-/-) ●±17(-/-) ●±18(-/-) ●±19(-/-) ●±2(-/-) ●±20(-/-) ●±21(-/-) ●±22(-/-) ●±23(-/-) ●±24(-/-) ●±27(-/-) ●±28(-/-) ●±3(-/-) ●±30(-/-) ●±4(-/-) ●±5(-/-) ●±7(-/-) ●±8(-/-) ●±9(-/-)	輝,砂粒,角,赤粒	横ハケ→ナデ	-	外面スス付着
349	779	8	●8632(く-28/Ⅶ)	黒,砂粒	指頭痕→ナデ,ハケナデ	-	混和材:黒雲母,外面スス付着
349	780	8	●1553(し-35/Ⅶ)	角,細粒	指頭痕→ナデ	口唇部:工具ナデ	-
349	781	8	○67894(I-13/Ⅶ) ○67938(I-13/Ⅶ下) ○67939(I-13/Ⅶ) ○67944(I-14/Ⅶ下) ○67945(I-14/Ⅶ) ○67956(I-13/Ⅶ下) ○68042(H-13/Ⅷ) ○68049(H-14/Ⅵa) ○68076(H-14/Ⅶ)	輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
349	782	8	●±10(-/-) ●±11(-/-) ●±4(-/-)	輝,角,細粒	横ハケ→ナデ	-	補修孔:外径9mm,内径6mm

で構成され，また細かい粒度の鉱物を多く含む土器が主体を占めることが指摘できる。ここで注目できるのは，本類に帰属する土器の多くに黒曜石を含ませた可能性の高いことが特記できる

さて，出土分布図から本類に属する土器は主に，耳取調査区北側地点のうち，特に耳取調査区Ｇ～Ｊ-３～５区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区あ～Ｂ-11～13区周辺とに集中していることが指摘できる(第336図・第274～278図参照)。この分布域は，第４群土器第３類土器の分布域と概ね重なることが指摘でき，注目できる。

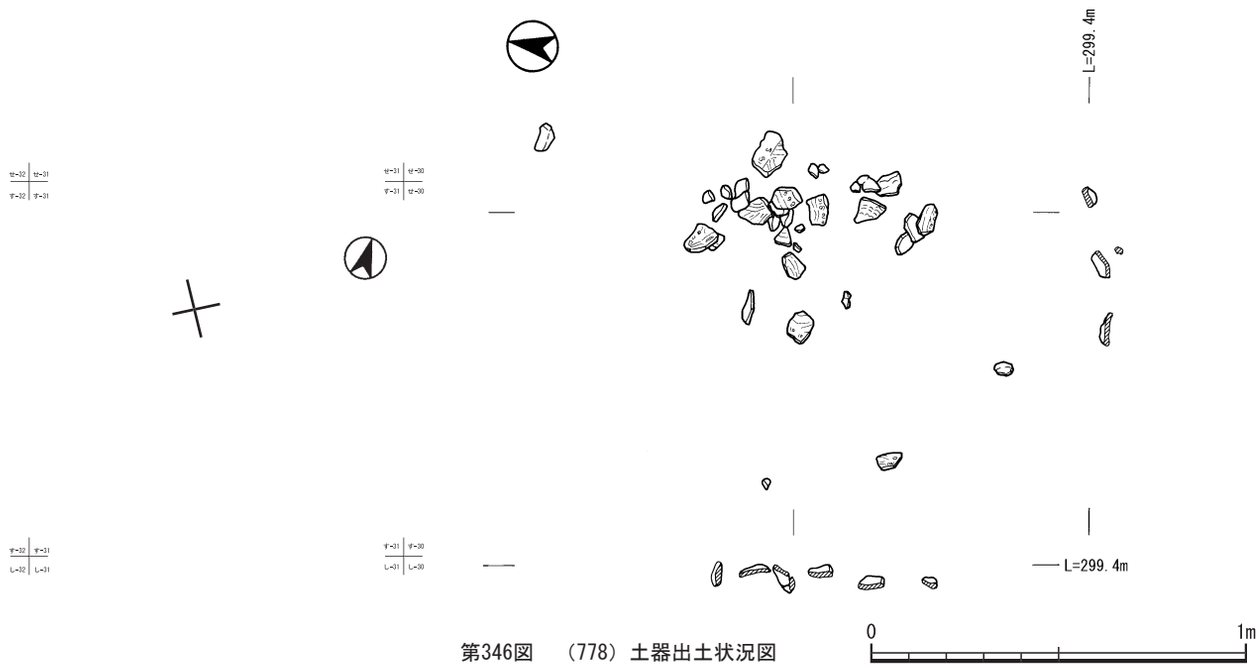
第６群土器第８類土器(分類記号6.8，第343図760～768)

第６群土器第８類土器に属する土器を９点資料化した。

本類土器は，第７群土器に属する円筒形条痕文土器に押型文を施す土器を指標とする。また，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類は行うことができず，１種類に限られるという特徴が挙げられる。

器形的特徴としては，口唇端部に水平な平坦面を作出し，口縁部外面から胴部にかけては，ほとんど膨らまず，直行して胴部下半部へ移行するのが特徴である。また口縁部内面と胴部内面の境は強く「く」字状に屈曲し，胴部内面は直線的になることが指摘できる。さらに本遺跡では胴部下半部から底部にかけての接合資料が無く，形態は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には文様を施さず，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に横位方向の押型文を施すことが指摘できる。さらに口縁部内面には横位方



第346図　(778) 土器出土状況図

向の押型文を１条から数条巡らす特徴がある。また本類土器では，第２種土器に分類できる粗大な楕円押型文を施す土器のみが観られた。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具による横位方向あるいは斜位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また口唇上端部においても同様の調整が行われる。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石，雲母で構成されることが指摘できる。また，粗い粒度の鉱物と細かい粒度の鉱物とで構成されることと，細かい粒度の鉱物が胎土中に含まれる量が特に多いことが指摘できる。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｆ～Ｉ－３～５区周辺に集中していること(第336図・第274図～第278図参照)，桐木調査区では確認できていないことなどが指摘できる。

ここで注目できるのは，器形的特徴として口縁部内面と胴部内面の境が強く屈曲し，口縁部外面から胴部外面にかけてほぼ直線的形態を呈するという特徴は，第６群土器第３類土器と共通する特徴である。しかし第６群土器第３類土器は，縦位方向の押型文を施すのが特徴であり本類土器の施文的特徴と異なる点であり，今後注意を要する。

第７群土器(第344・345図769～777)

第７群土器に属する土器は，いわゆる円筒形条痕文土器である。本群に属する土器は層位的には，主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層であるⅧ層や上層のⅥ層やⅤ層からも出土しており，地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域があることが認められる。

器形的特徴としては，口縁形態が平口縁を呈し，胴部下半から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる，円筒形を呈する土器であることが指摘できる。

さらに口縁部形態から次の３種に分類できる。

第１は，口縁部が若干外に開き，胴部がわずかに膨らむ土器(第344図769,777)である。

第２は，口縁部から胴部にかけて直行する土器(第344図771,772)である。

第３は，口縁部が内傾もしくは内弯し，口唇部は水平な平坦面を作出する土器(第344図774，第345図777)である。

施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて，貝殻腹縁部を使用した条痕文を横位方向あるいは斜位方向に数十条巡らす(第344図770,774)のが特徴である。また横位方向の貝殻条痕文の下には，縦位方向の貝殻条痕が窺える土器(第344図769,771,772)もある。

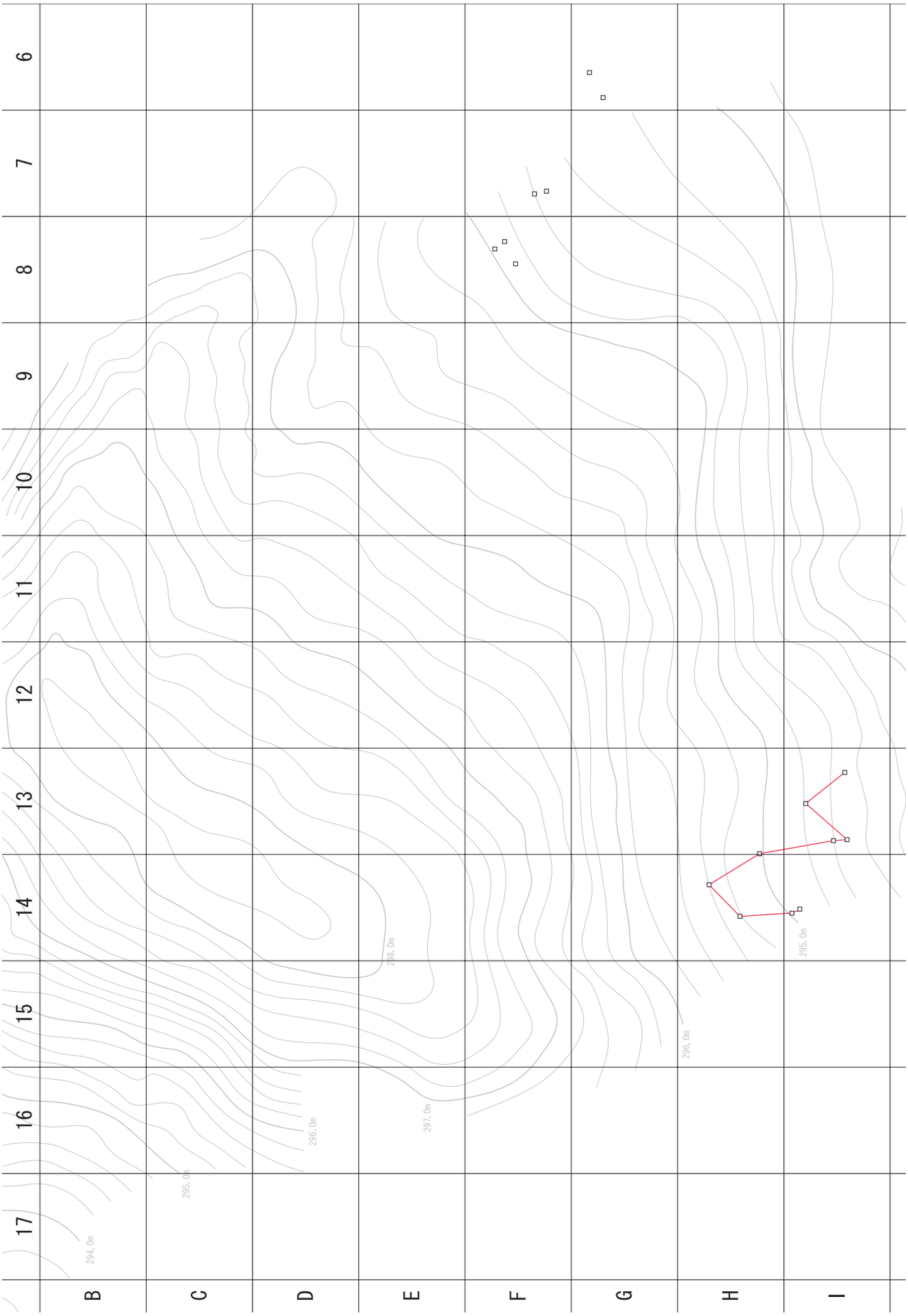
本類土器は，水ノ江和同により一野式とされ，また木崎康弘により中原式とされた土器群である。

調整方法としては，内器面では，最終調整として丁寧なナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，直前調整として木製工具によるハケ調整を行う土器や，最終調整としてミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器が観られることが指摘できる。

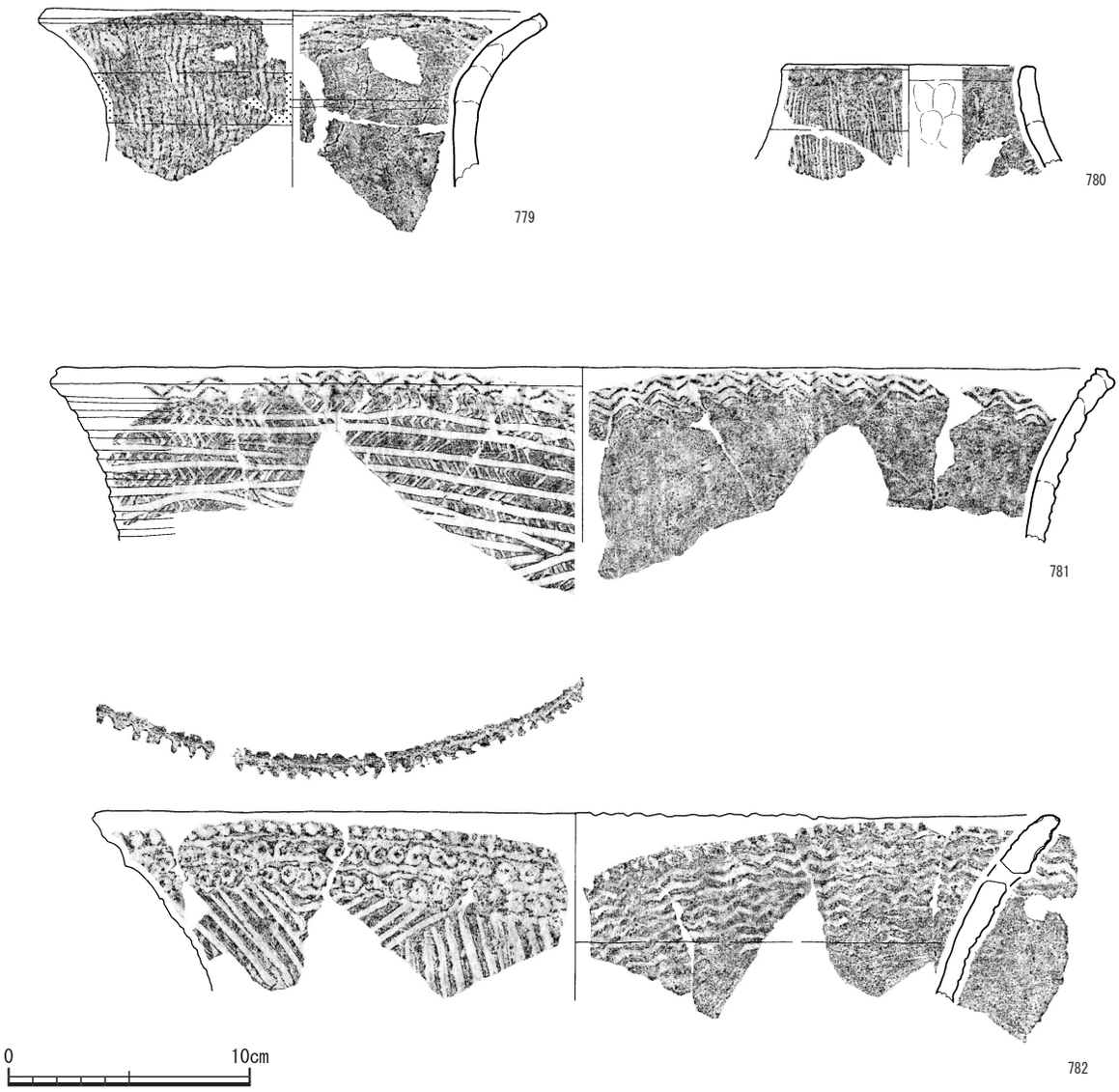
本タイプ土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石と粗い粒度の鉱物とで構成される土器が多いことが指摘できる。また細かい粒度の鉱物で構成される土器(第345図776,777)は，胎土が精選されていることが指摘できる。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｃ～Ｈ－７～９区周辺と，桐木調査区南側地区のうち，特に桐木調査区Ｃ～Ｆ－22～24区周辺とに部分的に出土していること(第337図・第274図～第278図参照)が指摘できる。

第347図　縄文早期土器実測図（119）（8.0群土器/桐木調査区出土）



第348図　縄文早期土器分布図49（第８群土器，1/500）



第349図　縄文早期土器実測図（120）（8.0群土器/桐木調査区出土）

第８群土器(第347・349図778～782)

第８群土器に属する土器は，その施文的特徴および器形的特徴からも分類を行うことはできなかった。本群に属する土器は，層位的には主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層のⅧ層や，上層のⅥ層やⅤ層からも出土していることから，地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域があることが認められる。第８群土器に属する土器を５点資料化した。

本遺跡からは深鉢形土器(第347図778，第349図779,781,782)と壺形土器(第349図780)とが出土した。

深鉢形土器は，器形的特徴としては，口縁部が大きく外反し，頸部がくびれるのが特徴である。本遺跡からは胴部中央部から底部にかけての接合資料が無く，詳細は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には，口唇内面部と口唇外面部とに刻みを施す土器(第347図778，第349図782)と，横位方向に山形押型文を施す土器(第349図781)とがあるのが特徴である。口縁部文様帯には，２～３条横位方向に貼付した突帯上には先端が中空の棒状工具により刺突連点文を施す土器(第347図778，第348図782)がある。頸部文様帯には棒状工具による沈線で直線文や曲線文，折帯文を構成するのが特徴である。これらの土器のなかには，地文として縦位方向に山形押型文を施す土器(第347図778，第349図781)がみうけられる。頸部文様帯と胴部文様帯との境には刺突連点文を施す突帯を横位方向に巡らす。さらに口縁部内面には横位方向に山形押型文を施している。

本遺跡から出土した壺形土器は，器形的特徴としては，口縁部がほぼ直行し，無頸壺に近いタイプの土器である。肩部はなで肩を呈するのが特徴である。施文的特徴としては，原体幅約14㎜を測る撚糸文を縦位方向に施すのが特徴である。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具

による横位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，直前調整として指頭押圧調整の痕跡が観られる土器があることも指摘できる。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石で構成されることが指摘できる。また，粗い粒度の鉱物で構成される土器と細かい粒度の鉱物とで構成される土器とがあることや，本遺跡から出土した黒雲母を含む土器は少なかったが，胎土中に多く含む土器であり，混和材として含ませた可能性の高いことなどが特記できる。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｆ・Ｇ-６～８区周辺と，桐木調査区Ｈ・Ｉ-13・14区周辺とに集中していること(第338図・第348図参照)が指摘できる。

４　縄文時代早期後葉の土器群

桐木耳取遺跡で出土した縄文時代早期後葉の時期に属する土器は，概要の項で示したように７群に大別できた。

さて出土分布図から縄文時代早期後葉の土器群は，耳取調査区北側地区および耳取調査区南側地区，桐木調査区北側地区そして桐木調査区西側地区に散在して出土したことが指摘できる(第350図参照)。本群に属する土器は層位的にはⅦ層を中心にⅧ層でも出土しており，後世の撹乱が認められる。

さらに，土器型式別に細別が可能であるため，順次報告を行うことにする。

第９群土器(第362・363図783～786)

第９群土器に属する土器は，その頸部文様帯における施文的特徴の違いからさらに２類に分類できた。

本群に属する土器は，層位的には主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層のⅧ層からも出土していることから，地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域が認められる。

第９群土器に属する土器を４点資料化した。

共通した特徴としては，次の４点を挙げることができる。

器形的特徴では，口縁形態が波状口縁を呈し，口唇部は丸く収め，口縁部形態は肥厚せず大きく外反し，頸部から胴部上半部にかけてすぼまることが指摘できる。

また施文的特徴では，口唇部文様帯上端に刻みを施し，口縁部文様帯上端に刻みを施した貼付突帯を横位方向に数条巡らすことが特徴である。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具による横位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整もしくは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。直前調整としてケズリ調整の痕跡を残す土器も観られる。

胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石と概ね細かい粒度の鉱物とで構成され，特に胎土が精選されている土器がみられることが特記できる。

第９群土器第１類土器(分類記号9.1，第362図783)

第９群土器第１類土器に属する土器を１点を資料化した。

器形的特徴としては，胴部下半から底部までの接合資料がないため，先述の「共通した特徴」の域を出ない。

施文的特徴としては，頸部文様帯から胴部文様帯にかけて，棒状工具を使用した山形状の二重平行沈線文を縦位方向に施すことが本類細別の最大の指標である。

さて，出土分布図からは，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ｉ-17～19区周辺に集中していること(第351図・第354・355図参照)が指摘できる。

第９群土器第２類土器(分類記号9.2，第362・363図784～786)

第９群土器第２類土器に属する土器を３点を資料化した。

器形的特徴としては，第362図784では，胴部中央部で強く屈曲し，胴部下半部では直線的にすぼまることが指摘でき，「共通した特徴」に属する形態である。施文的特徴としては，頸部文様帯から胴部文様帯上半部にかけては単節斜行縄文(ＬＲ)を施すことと，胴部中央の屈曲部に刻みを施した貼付突帯を横位方向に２条巡らすこととを，挙げることができる。

ここで注目できるのは，第363図785・786であり，共に頸部下端部から胴部にかけての資料で，全体形は不明である。

器形的特徴としては，頸部下端部から胴部上端部にかけて屈曲し，胴部上半部は緩やかに膨らむことが指摘できる。

また施文的特徴としては，２タイプが認められる。

まず第１のタイプに属する第363図785は，頸部文様帯から胴部文様帯では波頂部下に瘤状突起と縦位方向に連続した突帯とを貼付した後に，棒状工具を使用して斜位方向や縦位方向の沈線文と，刺突連点文とで文様を構成する土器である。

また第２のタイプに属する第363図786は，胴部文様帯には単節斜行縄文(ＲＬ)を施し，頸部下端から胴部上端にかけての屈曲部には，刻みを施した貼付突帯を横位方向に１条巡らす土器である。

さて，出土分布図からは，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区く～こ-26～28区周辺では集中して出土していることと，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｅ～Ｈ-７～11区周辺では部分的に出土していること(第351図・第354・355図参照)が指摘できる。

第10群土器(第364図787～792)

第10群土器に属する土器は，その施文的特徴および器形的特徴からも分類を行うことはできなかった。

本群に属する土器は，層位的には主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層のⅧ層からも出土している。

第10群土器に属する土器を７点資料化した。

本遺跡からは深鉢形土器(第364図787,788,790～792)と，壺形土器(第364図789)とが出土した。

本遺跡出土の深鉢形土器では，器形的特徴としては，口縁形態が，ごく浅い波状口縁を呈する土器(第364図787)と，平口縁を呈する土器(第364図788)とがあることを指摘できる。また口唇部が丸く収まり，口縁部形態は肥厚せずそのまま外反するする特徴は，第９群土器と共通である。

施文的特徴としては，口縁部文様帯には縦位方向や斜位方向の沈線文を施すのが本群細別の最大の指標である。さらに胴部文様帯には，単節斜行縄文(ＲＬ)を縦位方向に施す土器(第364図790,791)と，沈線文と刺突連点文とで文様を構成する土器(第364図792)とがあるのを指摘できる。

本遺跡出土の壺形土器は，頸部から胴部上半部にかけての資料が出土した。器形的特徴としては，頸部と肩部との境は内面で特に強く屈曲し，胴部中央部にかけて強く張る形態を呈するのが特徴である。

施文的特徴としては，頸部文様帯から胴部文様帯にかけて単節斜行縄文(ＲＬ)を縦位方向および横位方向に施した後に，頸部文様帯から肩部文様帯には横位方向と縦位方向の沈線文で文様を構成するのを挙げることができる。

本群土器の調整方法では，内器面では直前調整として木製工具による横位方向のハケ調整あるいは縦位方向のケズリ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行うのが特徴である。

本群土器の胎土中鉱物は，主に角閃石や輝石と概ね細かい粒度の鉱物とで構成されていることが指摘できる。また，本遺跡から出土した黒雲母を含む土器は少なかったが，胎土中には多量に含む土器であり，混和材として含ませた可能性の高いことなどが特記できる。

さて，出土分布図からは，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｄ・Ｅ-７・８区周辺では部分的に出土し，桐木調査区Ｈ・Ｉ-12～14区周辺では集中して出土していること(第352図・第356・357図参照)が指摘できる。

第11群土器(第365～368図793～822)

第11群土器に属する土器は，その器形的特徴および施文的特徴からの違いからさらに２類に分類できた。

本群に属する土器は，層位的には主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層のⅧ層や，上層のⅥ層やⅤ層からも出土していることから，地層の横転や後世の攪乱が激しかった区域があることが認められる。

第11群土器に属する土器を30点資料化した。

共通した特徴としては，次の２点を挙げることができる。

器形的特徴としては，まず口縁形態には浅い波状口縁を呈する土器と，平口縁を呈する土器とがあることが指摘できる。頸部から口縁部にかけて外反し，胴部形態は中央部が緩やかに膨らむ直立した形態を呈することが挙げられる。

施文的特徴としては，口縁部文様帯には，沈線文と刺突連点文とで山形文，波状文，折帯文や曲線文などの文様を構成する土器と，棒状工具により羽状文を施す土器とがある。また胴部文様帯には，結節縄文を施すのが本群土器細別の最大の指標である。

本群土器の調整方法としては，内器面では直前調整として木製工具による横位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。また，横位方向のケズリ調整の痕跡が認められる土器がある。

本群土器の胎土中鉱物は，主に角閃石と輝石などで構成される土器と，主に黒雲母と輝石などで構成される土器とがみられた。角閃石でも黒雲母でもともに胎土中に多量に含む土器があり，混和材として含ませた可能性の高いことなどが特記できる。また，細かい粒度の鉱物で構成される土器が主体を占め，粗い粒度の鉱物で構成される土器は少ないことが指摘できる。さらに胎土中の鉱物の粒度がさらに精選された土器も見受けられた。

ここで注目できるのは，第366図804および第368図815の２点である。共に外面に化粧土が塗布され，赤く発色しているのが特徴である。

第11群土器第１類土器(分類記号11.1，第365図793～799，第366図800,801)

第11群土器第１類土器に属する土器を７点を資料化した。

器形的特徴としては，口縁形態には，浅い波状口縁を呈する土器(第365図793，第366図800・801)と，平口縁を呈する土器(第365図794・795)とを指摘できる。口縁部は頸部にかけて外反し，端部には小さな三角形状の突帯を巡らせ，肥厚帯部を作出する。胴部形態は中央部が緩やかに膨らむ直立した形態を呈することが挙げられる。

施文的特徴としては，口唇部上端と口縁下端部とには棒状工具による刻みを施し，口縁部文様帯には沈線文で，山形文や波状文などの文様を構成させるのが特徴である。胴部文様帯には縦位方向に結節縄文を施す。本遺跡で出土した施文原体は，２段左撚(ＬＲ)の原体で施文する土器が主体を占めていることを指摘できる。

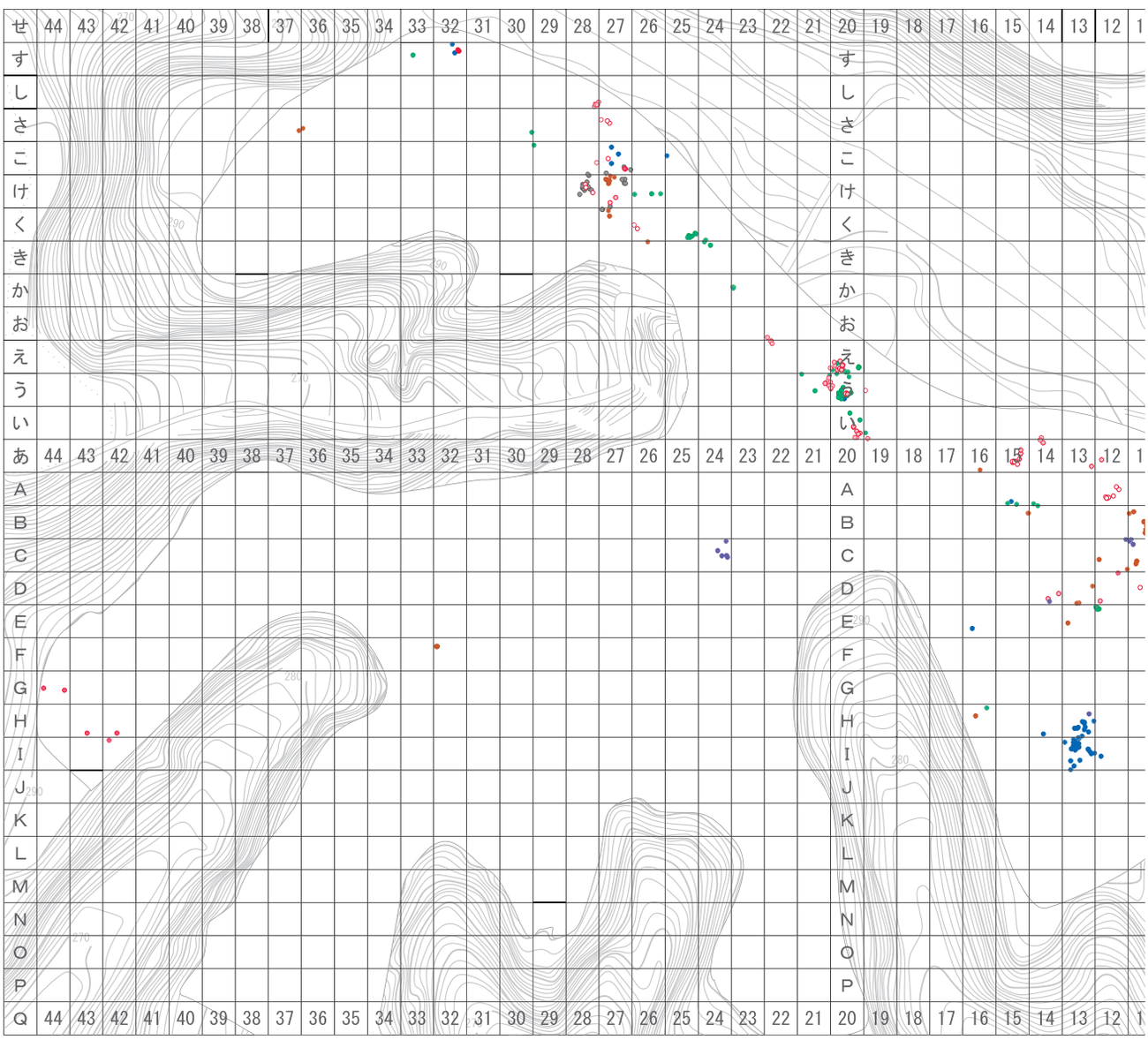
さて，出土分布図からは，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ｉ・Ｊ-18・19区周辺では集中して出土していること(第353図・第358～361図参照)が指摘できる。

第11群土器第２類土器(分類記号11.2，第366～368図802～822)

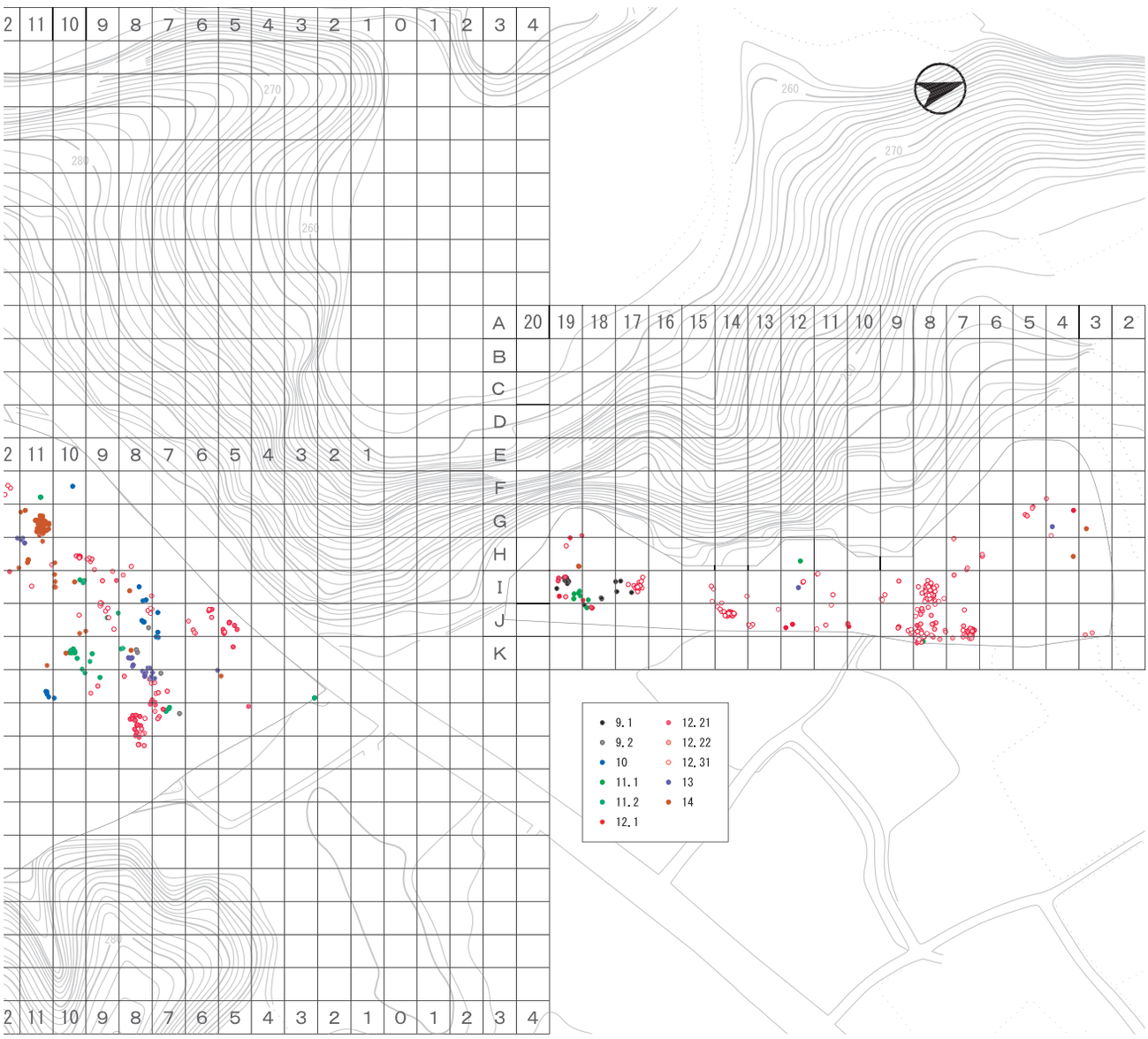
第11群土器第２類土器に属する土器を23点を資料化した。

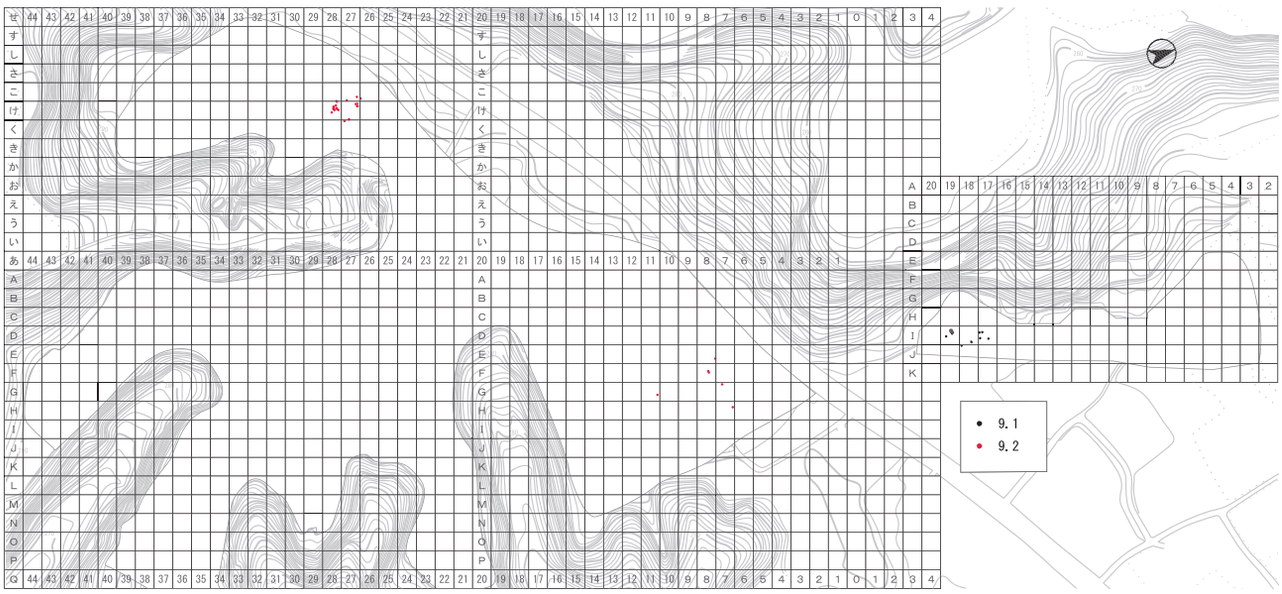
器形的特徴としては，口縁形態には，浅い波状口縁を呈する土器(第366図802～804，第367図805,806,808,809,811，第368図813)と，平口縁を呈する土器(第367図807・810，第368図812)とを指摘できる。口縁部には，外反形態を呈する土器(第366図804，第367図805,807～811)と，直立形態を呈する土器(第366図803，第367図806，第368図812・813)の２種類が認められる。

口縁部形態には２種類がある。第１種は，口縁端部に粘土を張り付けて，幅広の口縁部肥厚帯を作出する土器(第366図

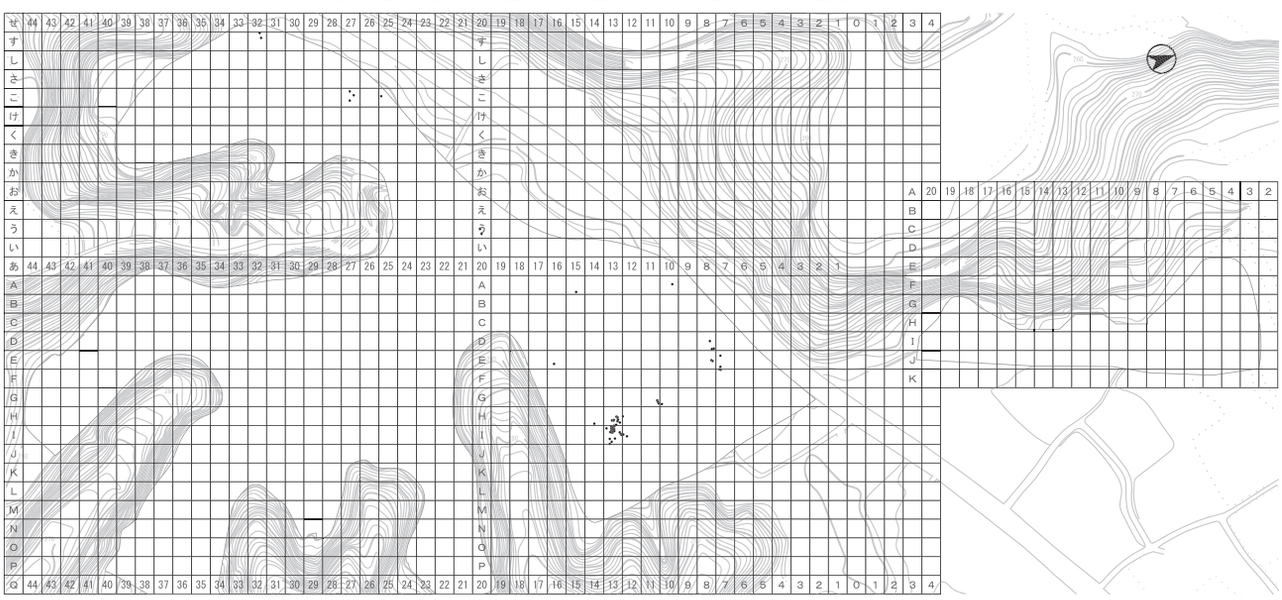


第350図　縄文早期土器分布図50（1/2000）

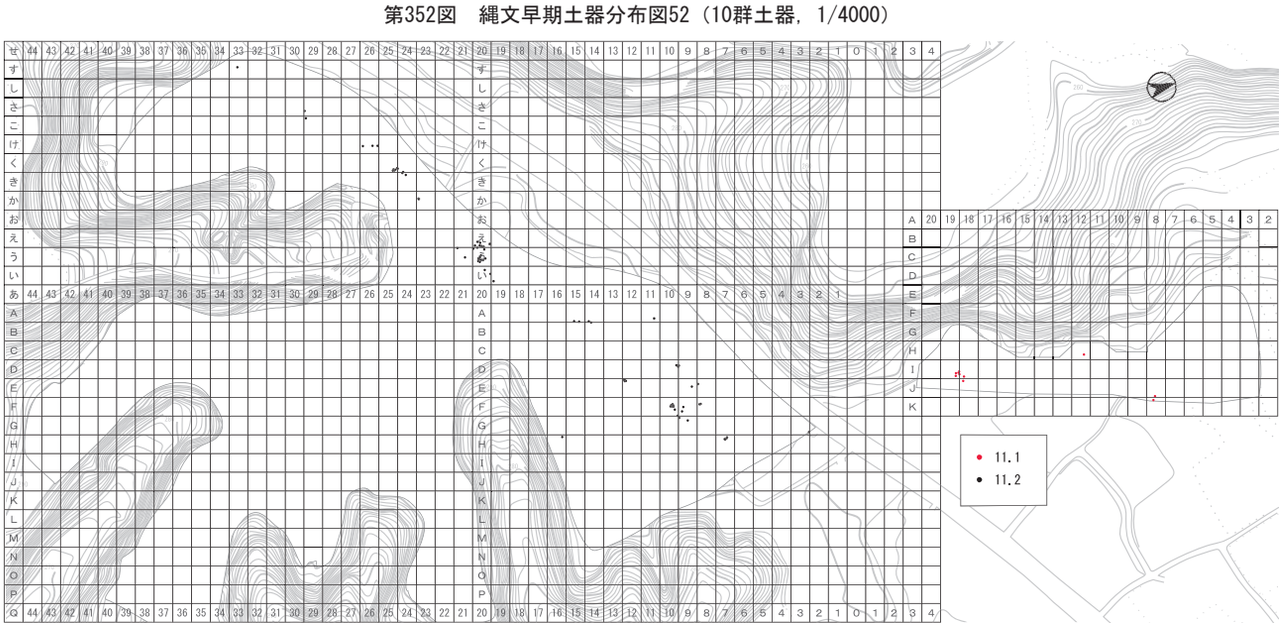

2 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4
A B C D E F G H I J K
20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2
270
260
280
9.1
9.2
10
11.1
11.2
12.1
12.21
12.22
12.31
13
14



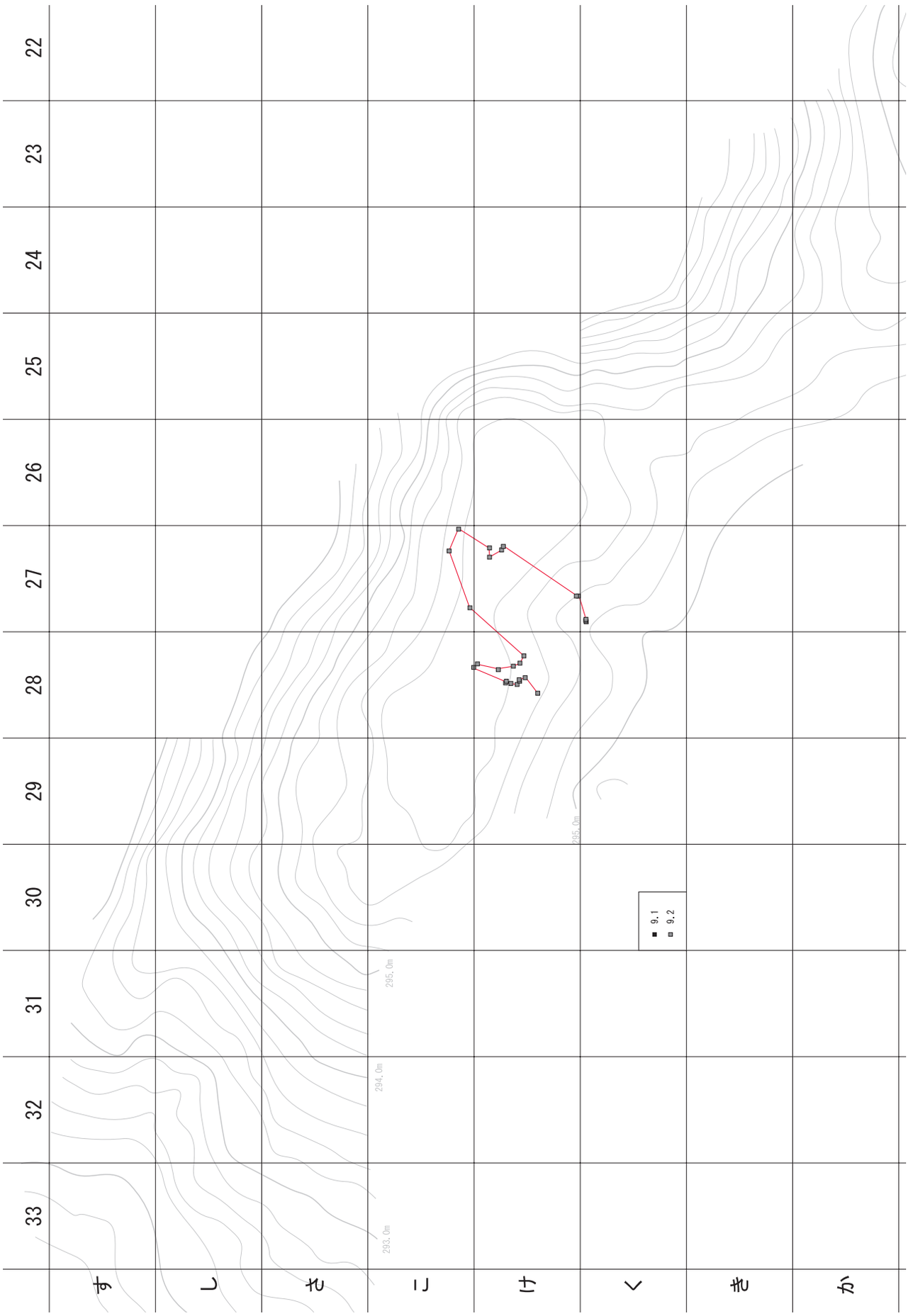
第351図　縄文早期土器分布図51（9.1群土器/9.2群土器，1/4000）



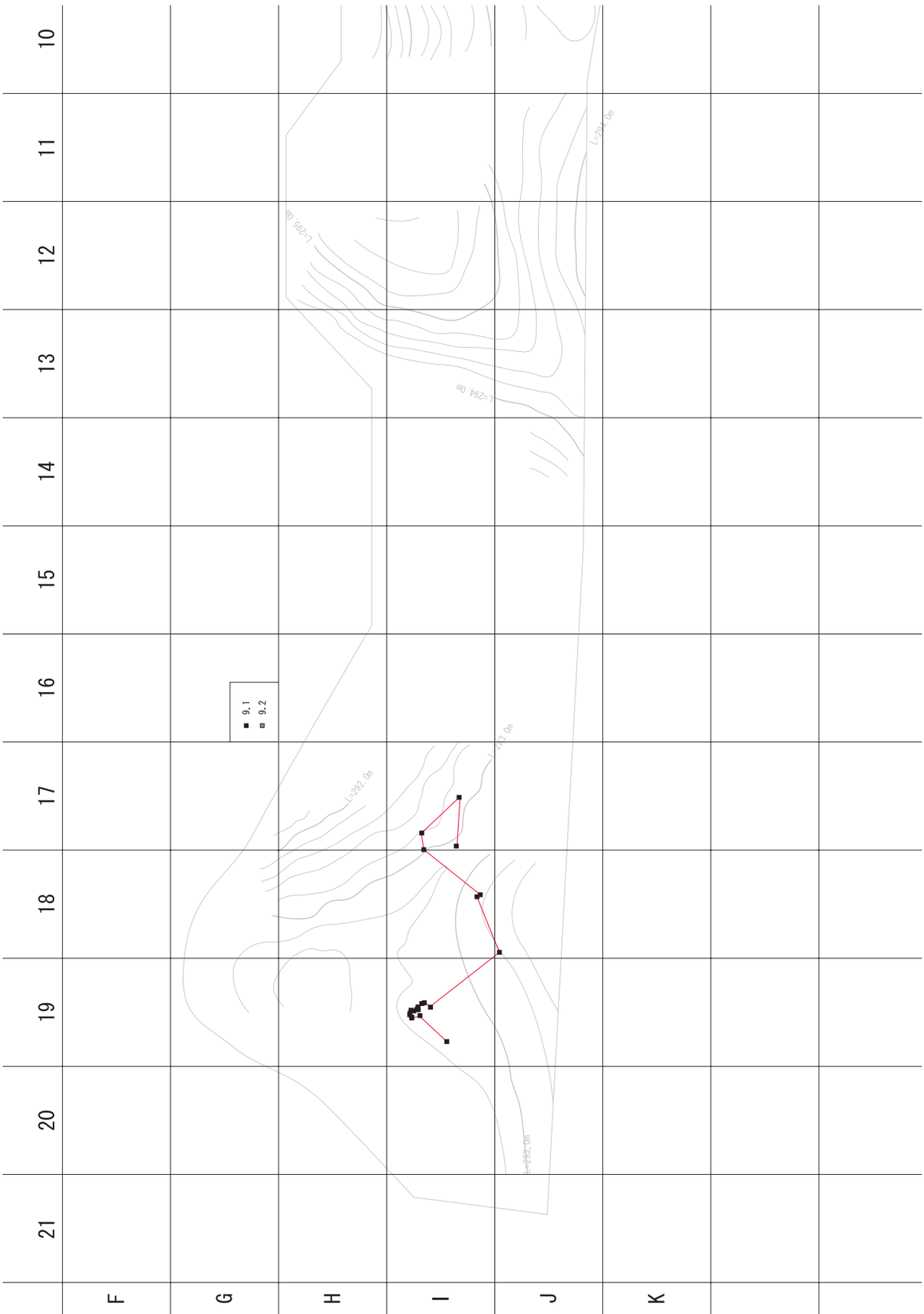
第352図　縄文早期土器分布図52（10群土器，1/4000）



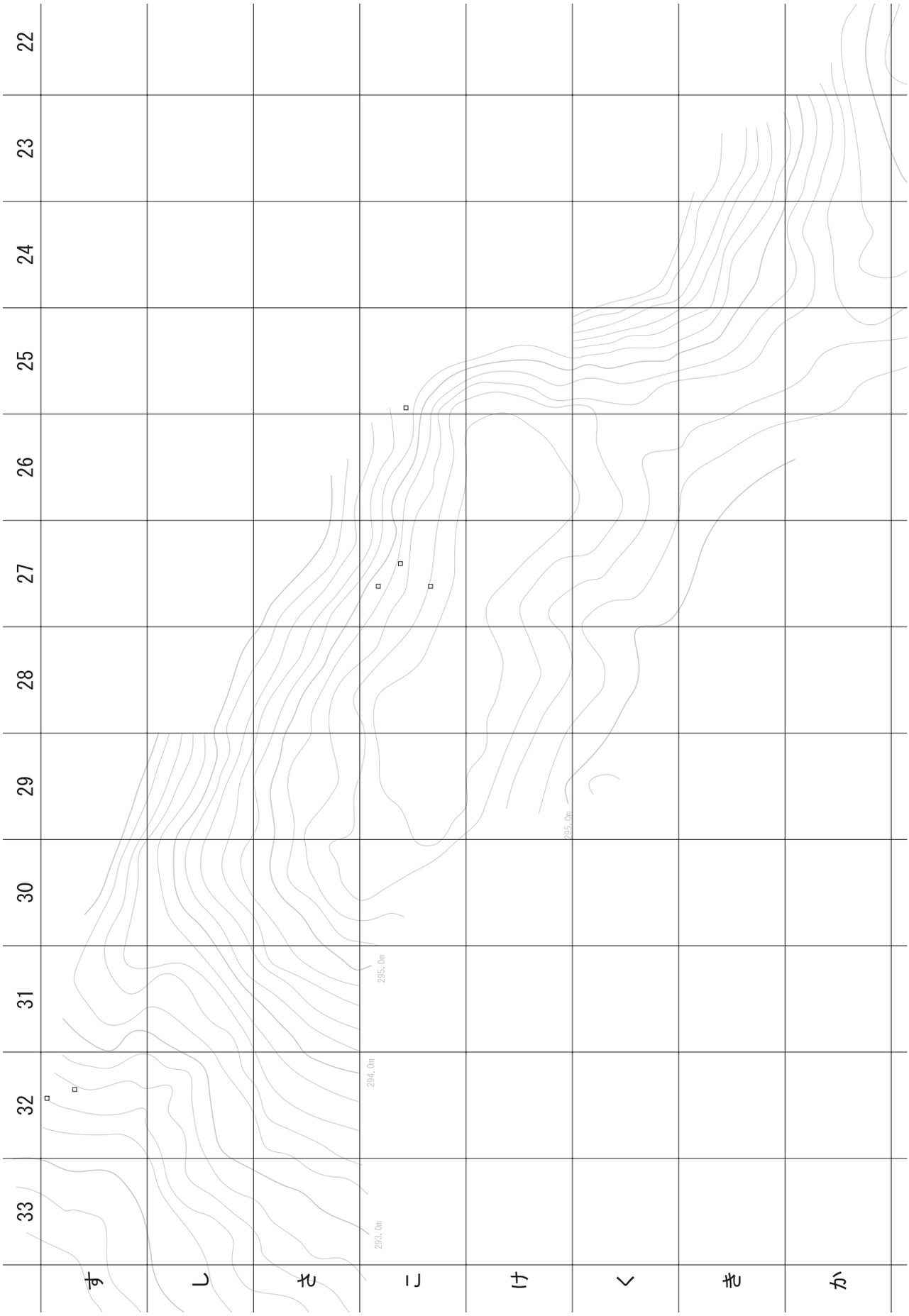
第353図　縄文早期土器分布図53（11.1群土器/11.2群土器，1/4000）



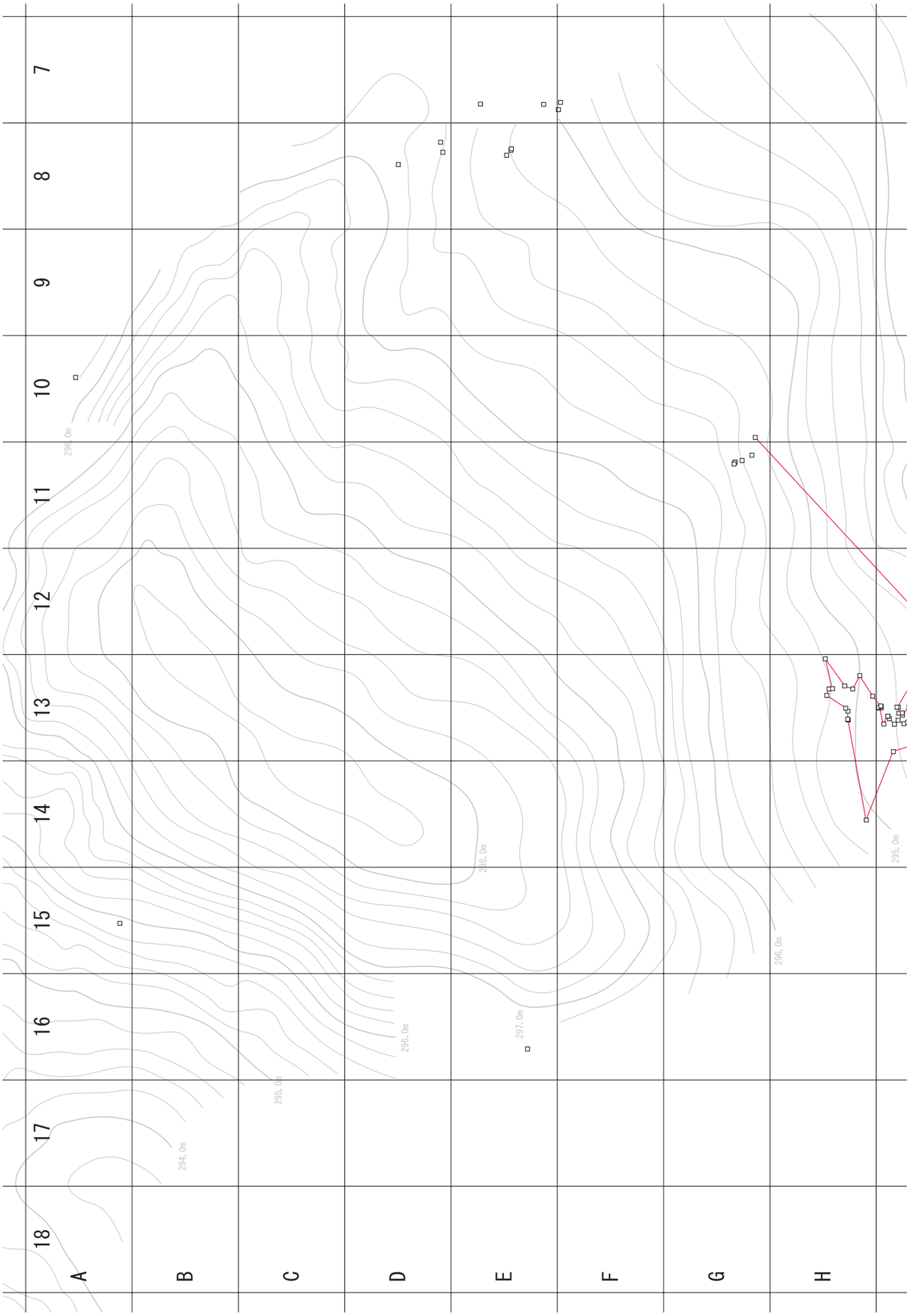
第354図　縄文早期土器分布図54（第９群土器1，1/500）



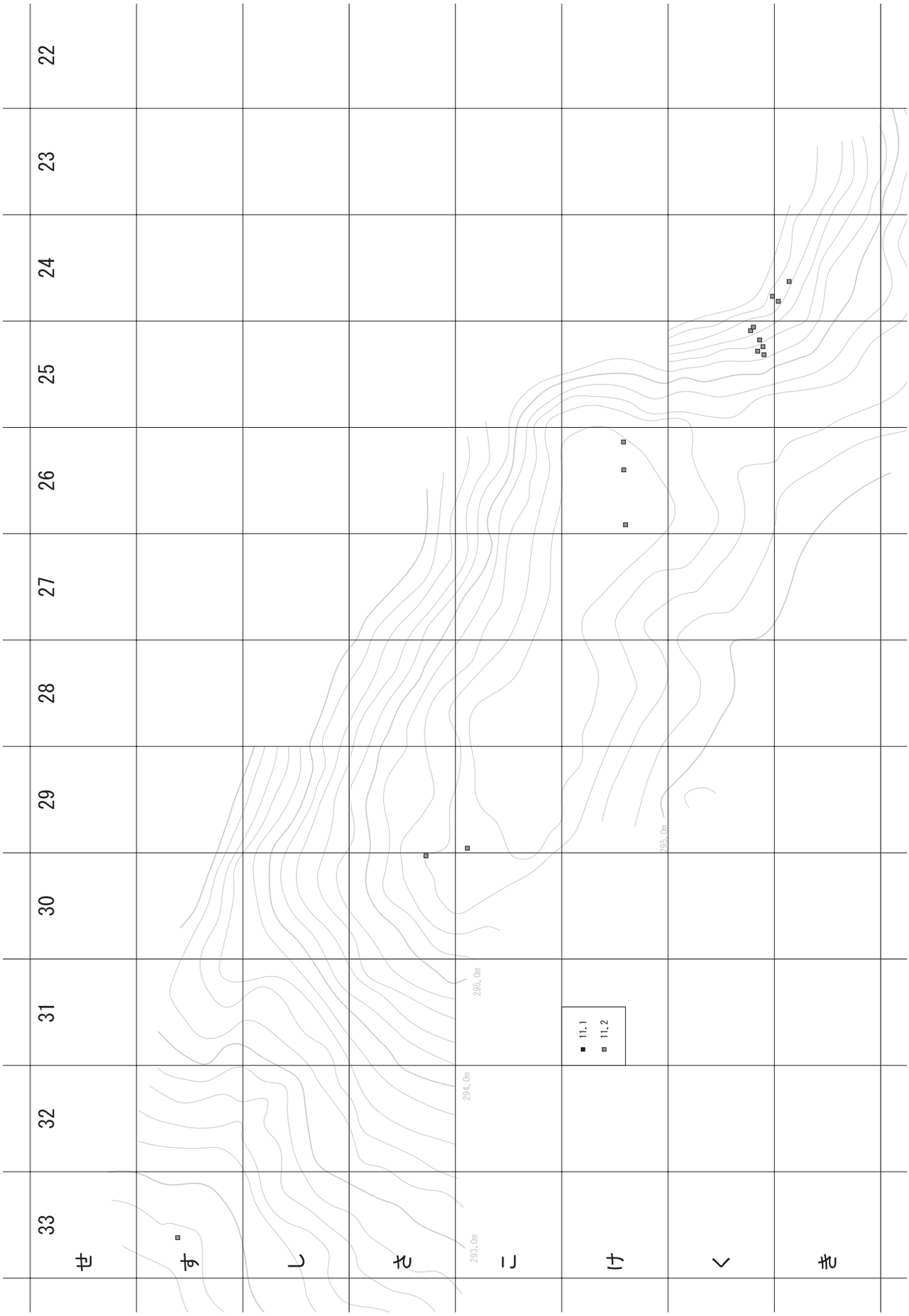
第355図　縄文早期土器分布図55（第９群土器２，1/500）



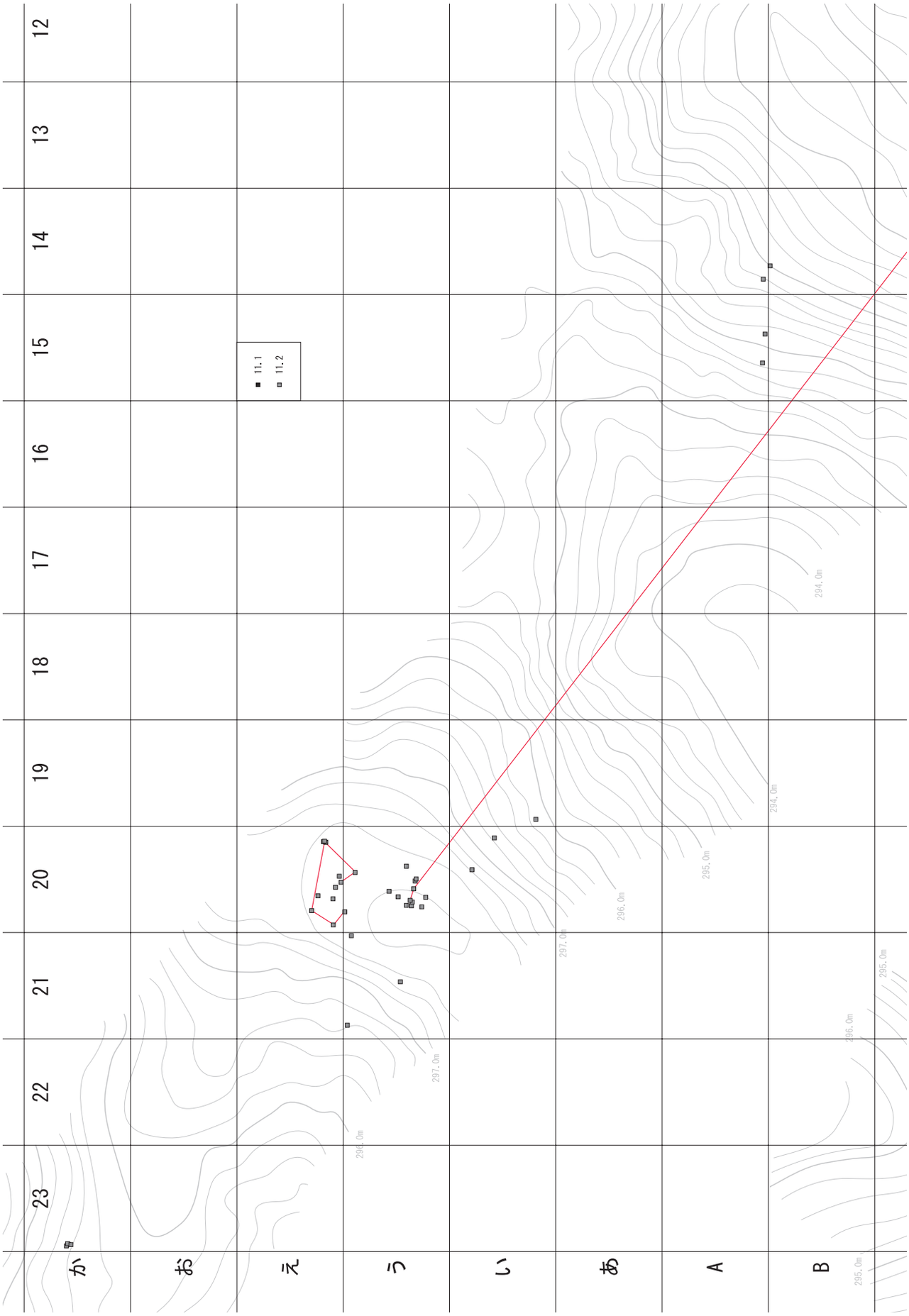
第356図　縄文早期土器分布図56（第10群土器１，1/500）



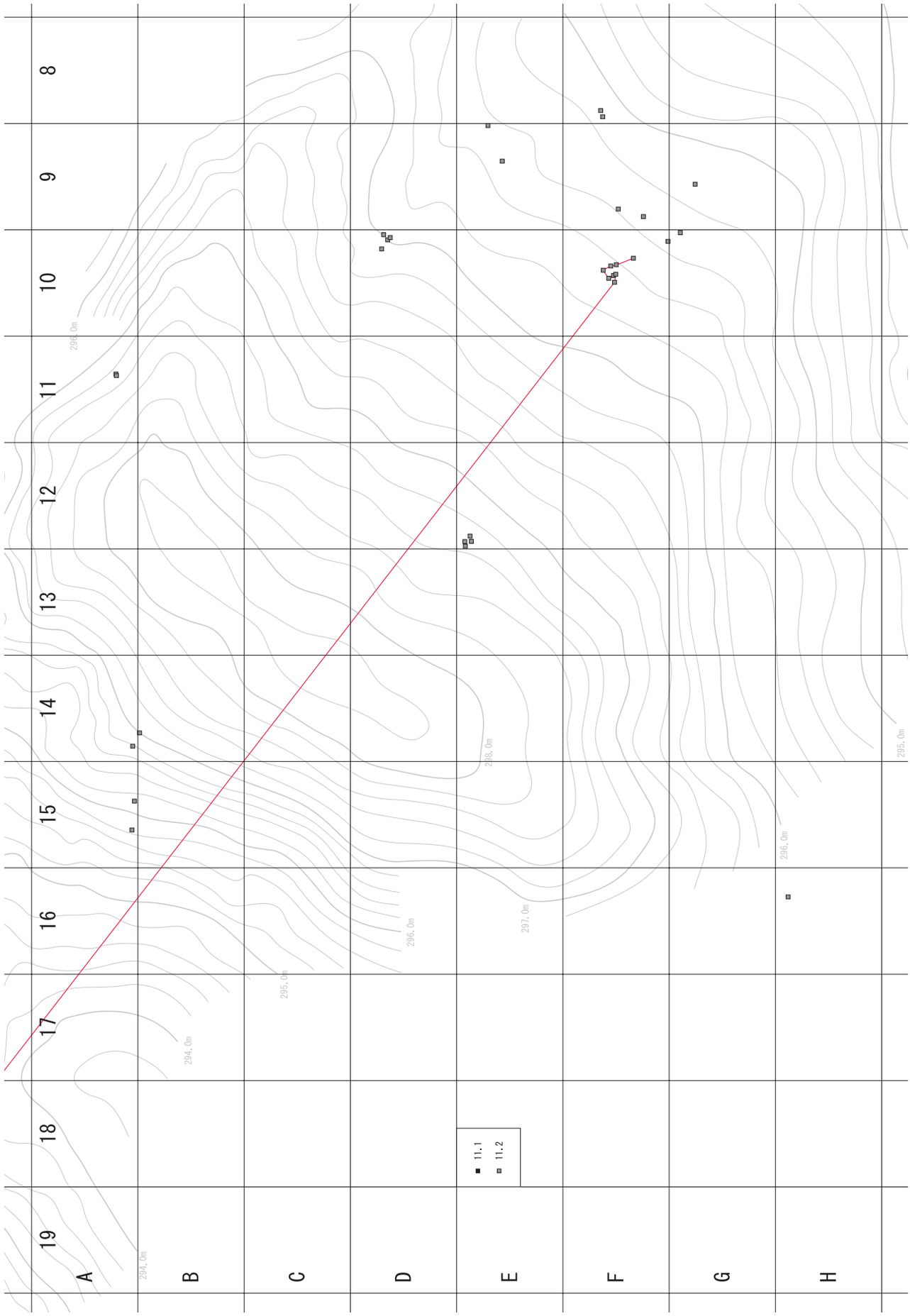
第357図　縄文早期土器分布図57（第10群土器２，1/500）



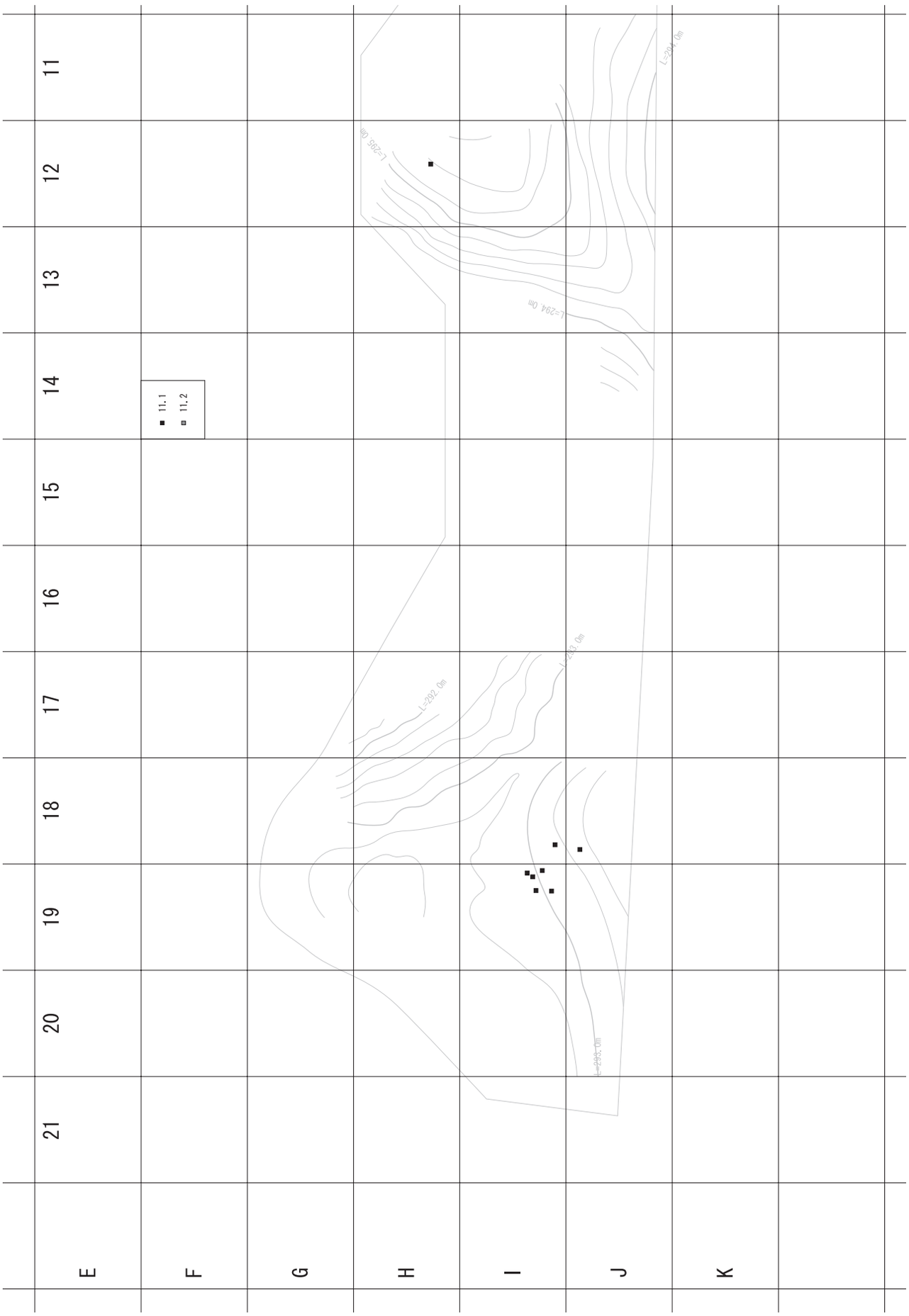
第358図　縄文早期土器分布図58（第11群土器１，1/500）



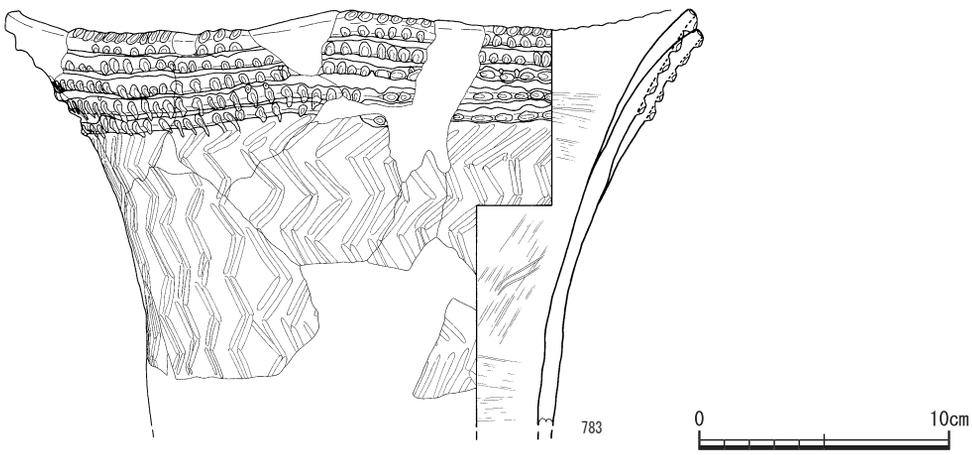
第359図　縄文早期土器分布図59（第11群土器２，1/500）



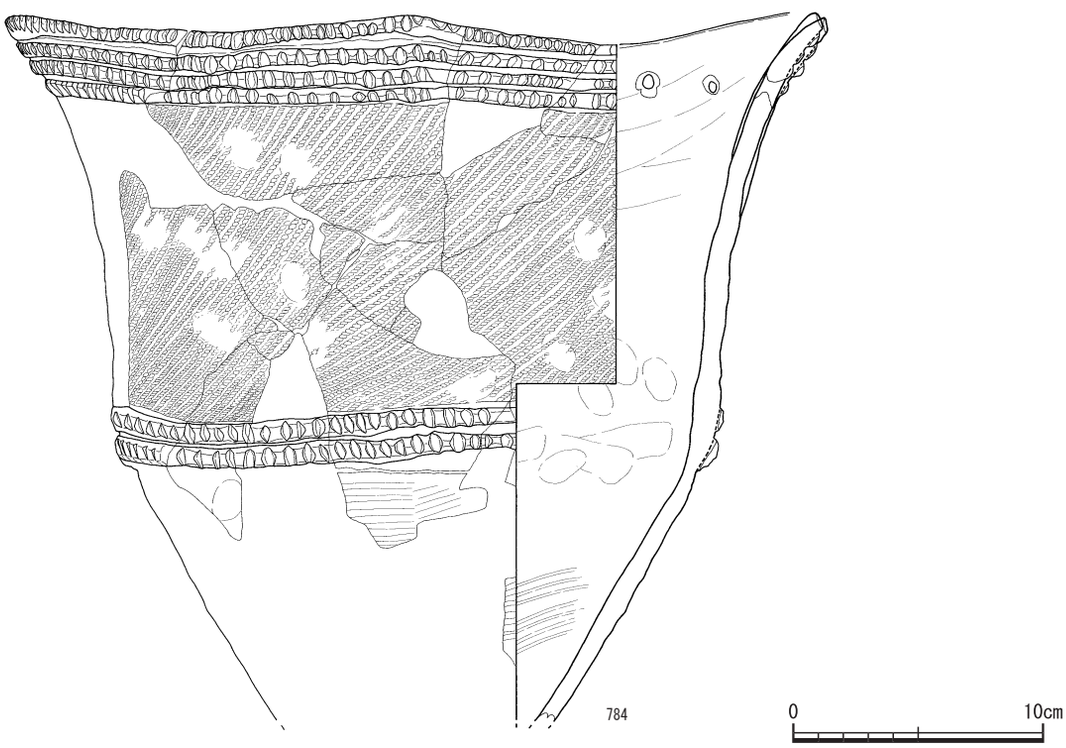
第360図　縄文早期土器分布図60（第11群土器３，1/500）



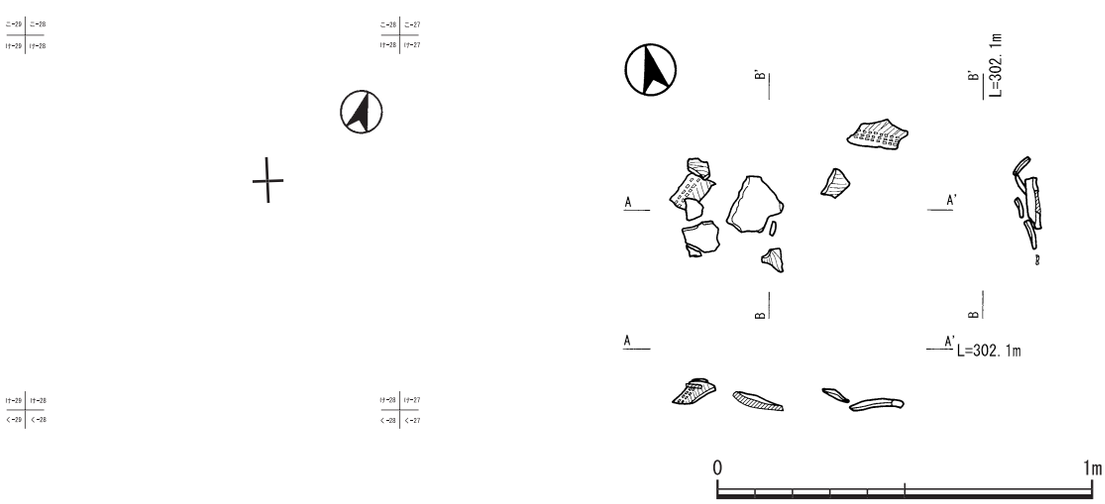
第361図　縄文早期土器分布図61（第11群土器４，1/500）



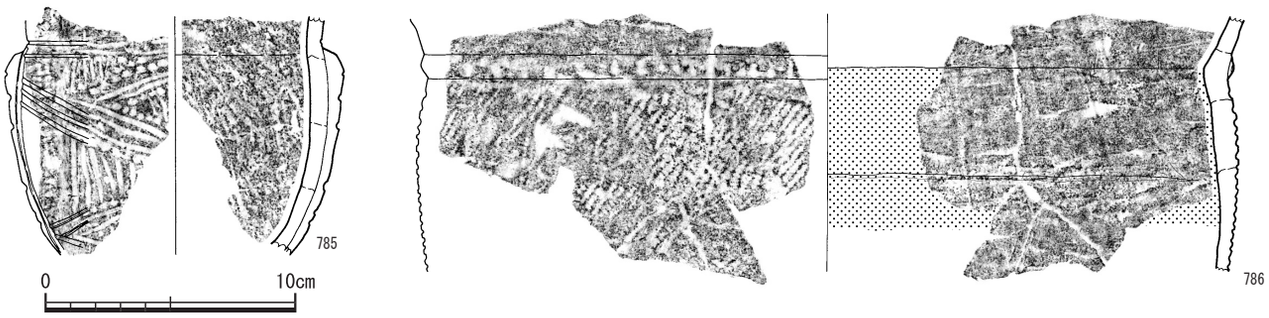
(9.1群土器/耳取調査区出土)



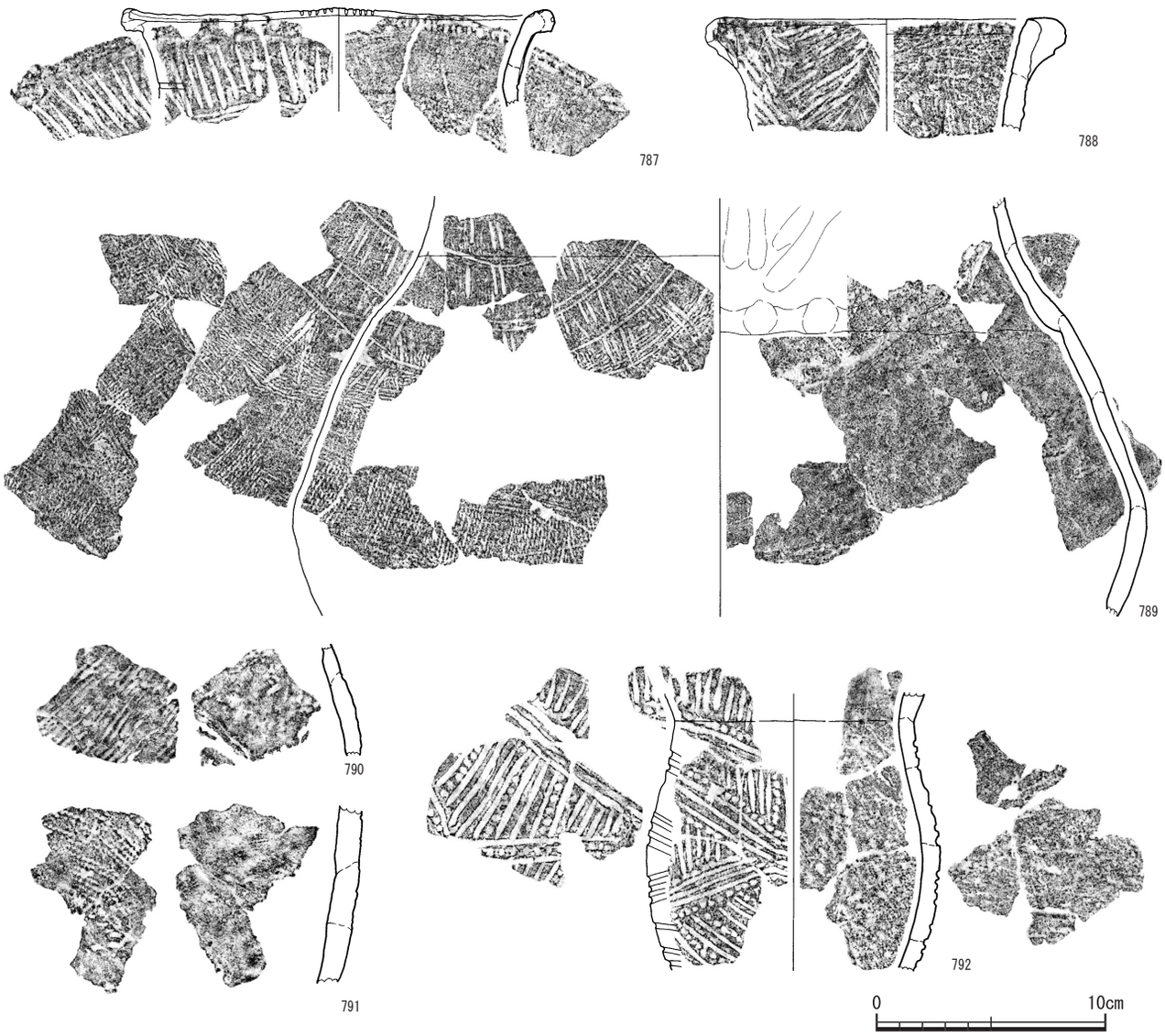
(9.2群土器/桐木調査区出土)



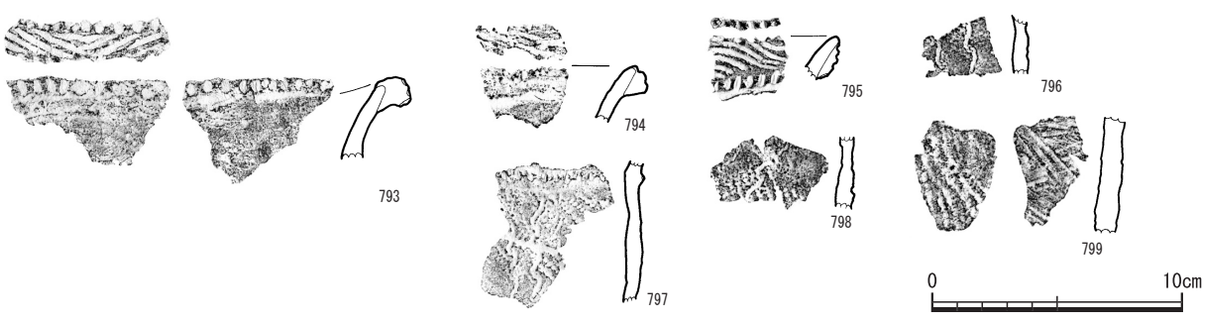
第362図　縄文早期土器実測図（121）（9群土器）/（784）土器出土状況図



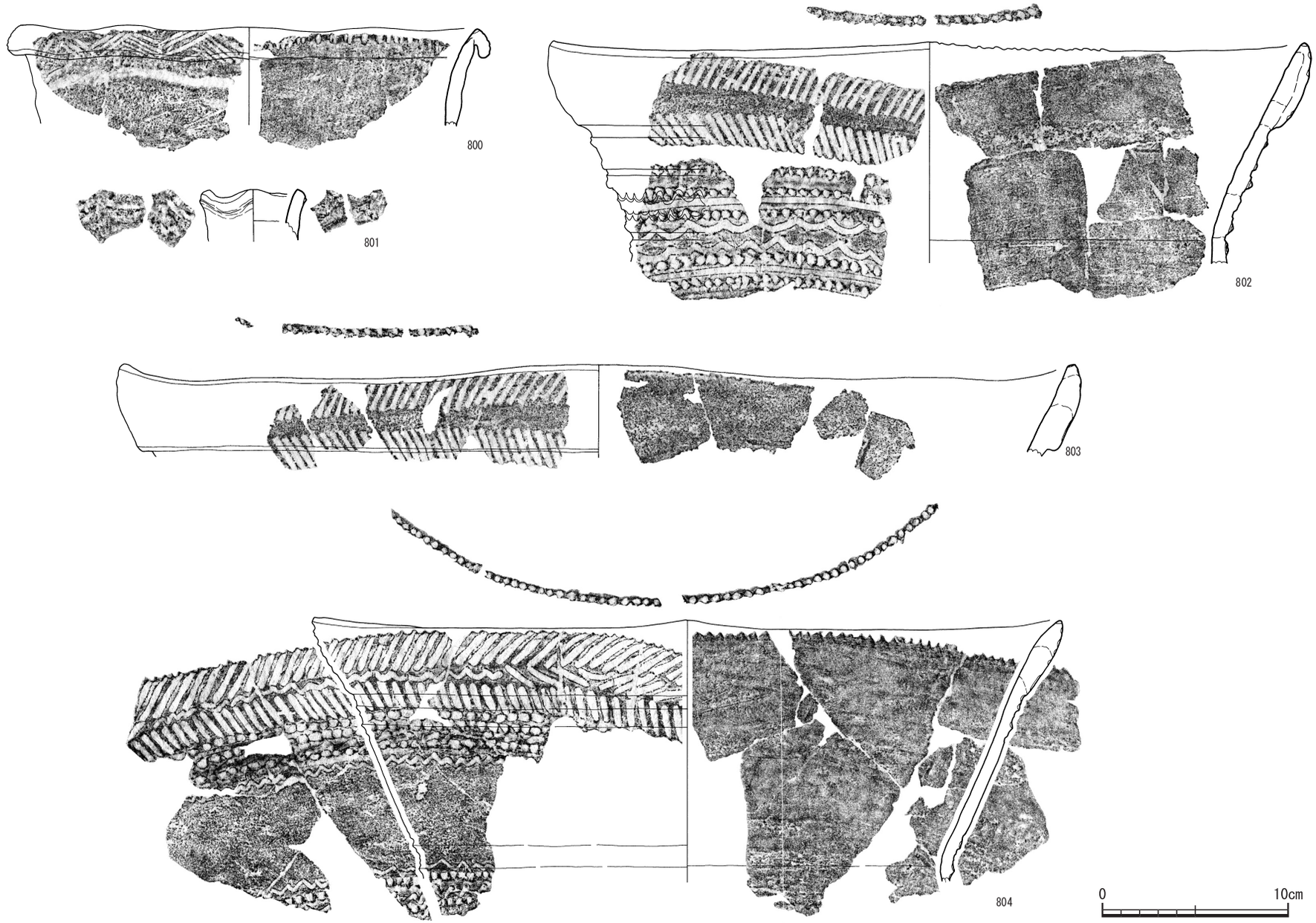
第363図　縄文早期土器実測図（122）（9.2群土器/桐木調査区出土）



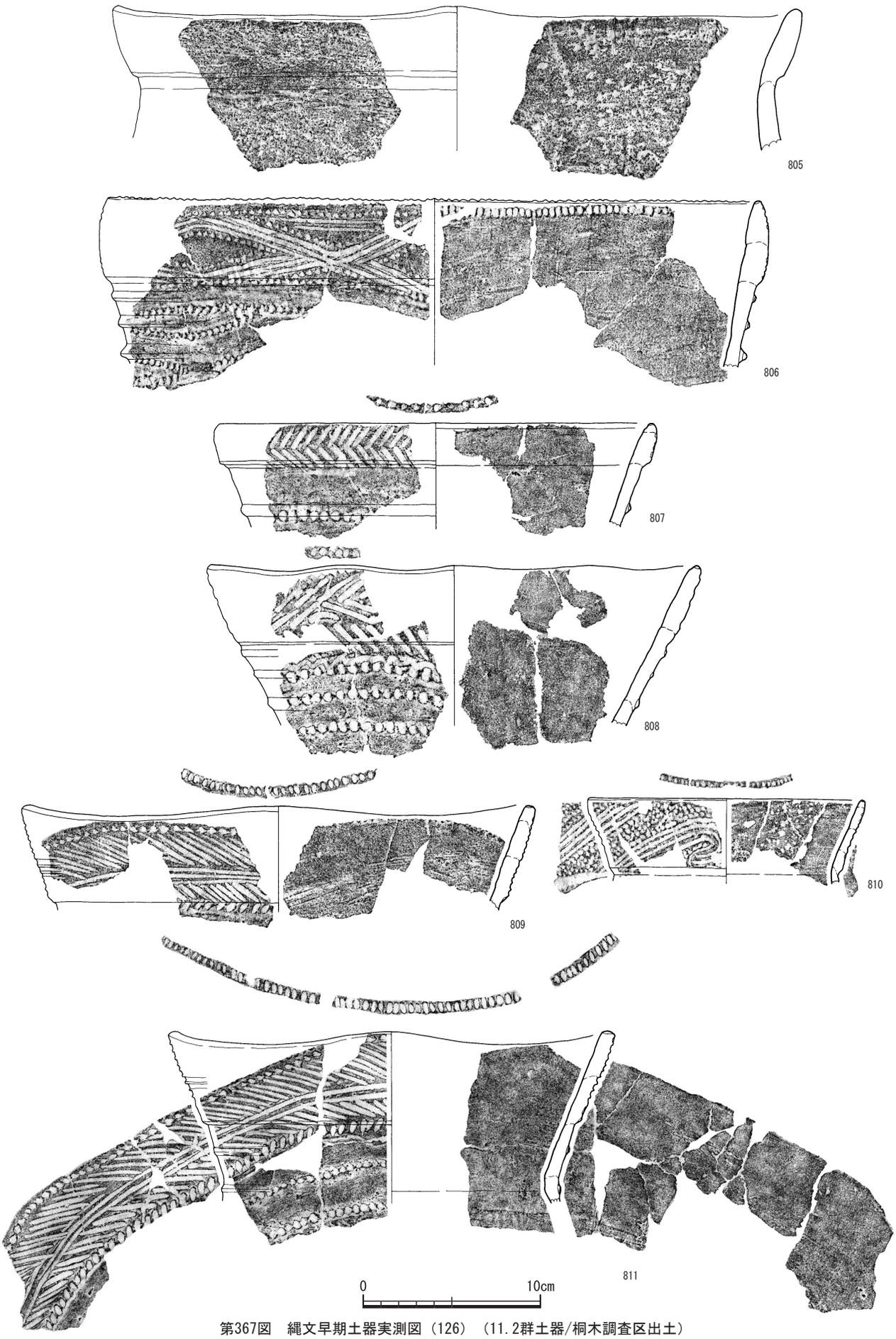
第364図　縄文早期土器実測図（123）（10群土器/桐木調査区出土）



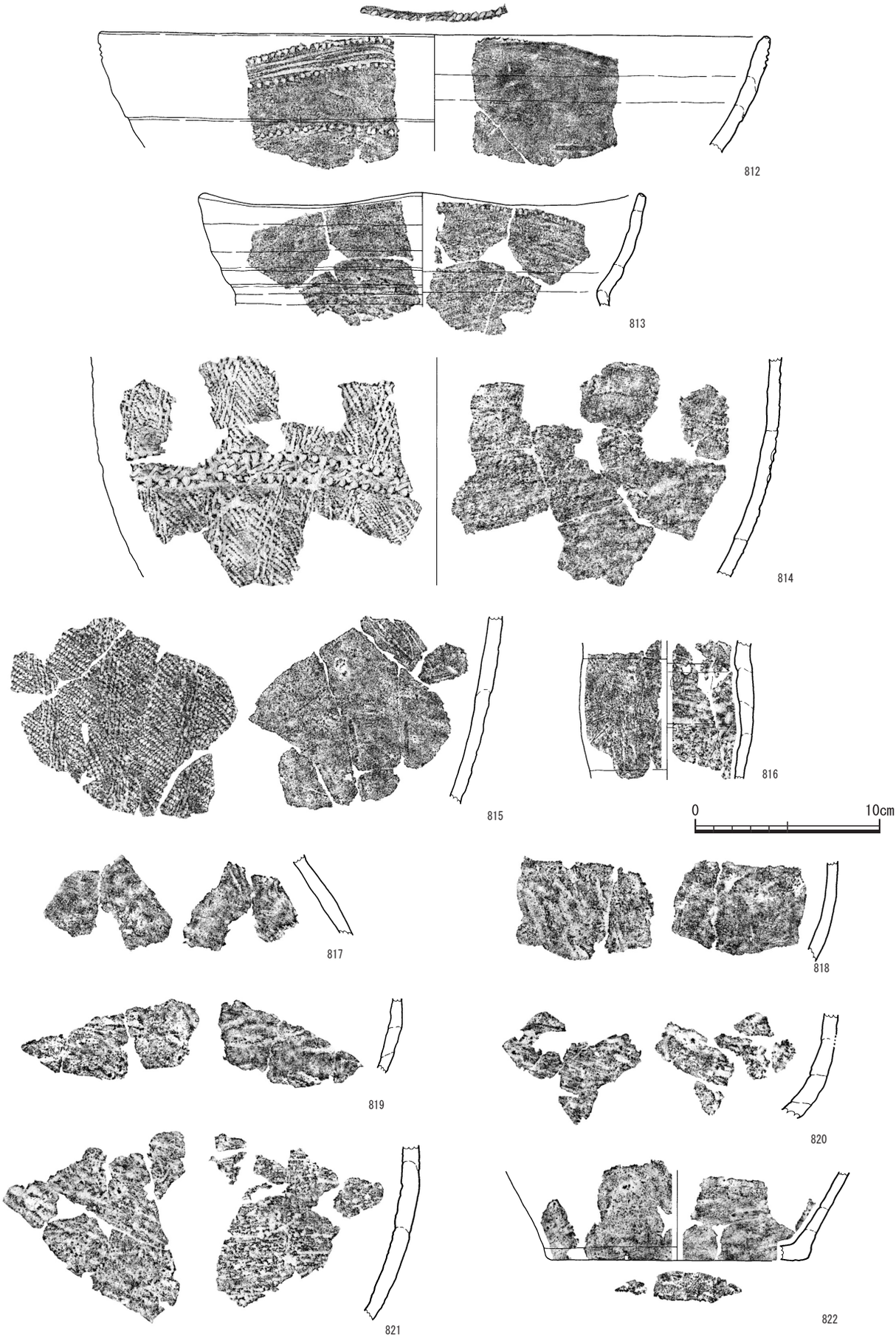
第365図　縄文早期土器実測図（124）（11.1群土器/耳取調査区出土）



第366図　縄文早期土器実測図（125）（11.2群土器/桐木調査区出土）



第367図　縄文早期土器実測図（126）（11.2群土器/桐木調査区出土）



第368図　縄文早期土器実測図（127）（11.2群土器/桐木調査区出土）

第97表　縄文早期土器観察表（55）（９群土器/10類土器－１）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
362	783	9.1	▲1890(I-19/Ⅶ) ▲1961(I-19/Ⅶ) ▲1962(I-19/Ⅶ) ▲1963(I-19/Ⅶ) ▲1965(I-19/Ⅶ) ▲1966(I-19/Ⅶ) ▲1967(I-19/Ⅶ) ▲1968(I-19/Ⅶ) ▲1970(I-19/Ⅶ) ▲1971(I-19/Ⅶ) ▲2017(I-19/Ⅶ) ▲2039(I-19/Ⅶ) ▲2040(I-19/Ⅶ) ▲2041(I-19/Ⅶ) ▲2434(I-18/Ⅶ) ▲2521(I-17/Ⅶ) ▲2523(I-17/Ⅶ) ▲2554(I-17/Ⅶ) ▲4605(I-17/Ⅶ) ▲11207(J-18/Ⅶ)	角,輝,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	丁寧なナデ	胎土精選
362	784	9.2	●50736(こ-27/Ⅶ) ●50796(こ-28/Ⅶ) ●50798(け-28/Ⅶ) ●50820(け-28/Ⅶ) ●50824(け-28/Ⅶ) ●50826(け-28/Ⅶ) ●50833(け-28/Ⅶ) ●50834(け-28/Ⅶ) ●50835(け-28/Ⅶ) ●50839(け-28/Ⅶ) ●50842(け-28/Ⅶ) ●50843(け-28/Ⅶ) ●50847(け-28/Ⅶ) ●50855(け-28/Ⅶ) ●50865(け-28/Ⅶ) ●50906(こ-27/Ⅶ) ●50915(け-27/Ⅶ) ●50916(け-27/Ⅶ) ●50917(け-27/Ⅶ) ●50918(け-27/Ⅶ) ●51021(け-27/Ⅶ) ●51022(け-27/Ⅶ) ●51127(こ-27/Ⅶ) ●51245(く-27/Ⅶ) ●51246(く-27/Ⅶ) ●51247(く-27/Ⅶ)	輝,角,雲,細粒,赤 粒	横ケズリ→丁寧なナデ	-	外面スス付着, 補修孔:A: 外径13mm, 内径5mm, B:外径12mm, 内径4mm
363	785	9.2	○66249(G-11/Ⅷ)	角,輝,砂粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
363	786	9.2	○59318(E-8/Ⅶ下) ○60590(G-7/Ⅷ) ○60680(F-8/Ⅶ) ○60682(F-8/Ⅶ) ○63260(H-7/Ⅶ)	輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	内面スス付着
364	787	10	○66249(G-11/Ⅷ) ○66261(G-11/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ナデ,ケズリ→ナデ	-	-
364	788	10	◎20533(A-10/Ⅴ)	輝,細粒	横,斜ケズリ→ナデ	-	-
364	789	10	○66030(G-10/Ⅶ下) ○67893(I-13/Ⅷ) ○67895(I-13/Ⅷ) ○67896(I-13/Ⅷ) ○67897(I-13/Ⅷ) ○67898(I-13/Ⅷ) ○67899(I-12/Ⅷ) ○67908(I-13/Ⅶ) ○67909(I-13/Ⅶ) ○67911(I-13/Ⅶ下) ○67912(I-13/Ⅶ) ○67913(I-13/Ⅶ) ○67917(I-13/Ⅶ) ○67918(I-13/Ⅶ) ○67919(I-13/Ⅶ) ○67920(I-13/Ⅶ) ○67921(I-13/Ⅷ) ○67923(I-13/Ⅶ下) ○67924(I-13/Ⅶ) ○67925(I-13/Ⅶ) ○67926(I-13/Ⅶ) ○67926(I-13/Ⅶ) ○67927(I-13/Ⅶ) ○67929(I-13/Ⅶ上) ○67930(I-13/Ⅶ) ○67930(I-13/Ⅶ) ○67932(I-13/Ⅶ) ○67934(I-13/Ⅶ) ○67935(I-13/Ⅶ) ○67936(I-13/Ⅶ) ○67937(I-13/Ⅶ) ○67940(I-13/Ⅶ) ○67941(I-13/Ⅷ) ○67942(I-13/Ⅷ) ○67942(I-13/Ⅷ) ○67953(I-13/Ⅷ上) ○67954(I-13/Ⅶ下) ○67955(I-13/Ⅶ下) ○67957(I-13/Ⅷ) ○67958(I-13/Ⅷ) ○68027(H-13/Ⅷ) ○68029(H-13/Ⅷ) ○68030(H-13/Ⅷ) ○68032(H-13/Ⅶ) ○68033(H-13/Ⅶ) ○68034(H-13/Ⅶ) ○68035(H-13/Ⅶ) ○68036(H-13/Ⅶ) ○68038(H-13/Ⅶ) ○68039(H-13/Ⅶ) ○68040(H-13/Ⅶ) ○68045(H-14/Ⅷ) ○68065(H-13/Ⅶ)	黒,砂粒	ハケナデ→指頭痕	-	混和材:黒雲母, 器壁の厚さが 特に薄い

第98表　縄文早期土器観察表（56）（10群土器－２/11類土器－１）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
364	790	10	●50700(こ-27/Ⅶ) ●50706(こ-27/Ⅶ)	輝,細粒	ナデ	-	-
364	791	10	●50714(こ-27/Ⅶ) ●51136(こ-25/Ⅶ)	角,細粒	横ハケ→ナデ	ナデ	-
364	792	10	○66249(G-11/Ⅷ) ○66309(G-11/Ⅷ) ○66783(G-11/Ⅷ)	角,砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	-
365	793	11.1	▲11166(J-18/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	ハケ→ユビナデ	-
365	794	11.1	▲2392(I-18/Ⅵa)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	ハケ→ユビナデ	-
365	795	11.1	▲3679(H-12/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	-
365	796	11.1	▲1943(I-19/Ⅶ)	輝,雲,細粒, 赤粒	丁寧なナデ	-	-
365	797	11.1	▲2022(I-19/Ⅵa) ▲2449(I-19/Ⅶ)	角,輝,微粒	丁寧なナデ	-	-
365	798	11.1	▲1947(I-19/Ⅶ) ▲2144(I-19/Ⅶ)	角,輝,砂粒	斜ハケ→ナデ	-	胎土精選
365	799	11.1	▲16163(K-8/Ⅵa) ▲18182(J-8/Ⅶ)	輝,雲,微粒	斜貝殻条痕→ナデ	-	胎土精選
366	800	11.2	●2176(す-33/Ⅶ) ○2T一括(-/-)	黒,細粒	工具ハケナデ	-	混和材:黒雲母
366	801	11.2	○56769(A-11/Ⅶ横転) ○57661(A-11/Ⅶ)	角,細粒	ハケ→ナデ	口唇部:ハケ→ ナデ,横ハケ→ ナデ	-
366	802	11.2	○34900(E-12/Ⅶ) ○34901(E-12/Ⅶ) ○34904(E-12/Ⅶ) ○53275(E-12/Ⅶ)	角,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	ヘラナデ	混和材:角閃石
366	803	11.2	◎19038(け-26/Ⅵa) ●6976(い-20/Ⅶ上) ●50472(こ-29/Ⅶ) ●51383(さ-30/Ⅶ)	輝,角,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
366	804	11.2	●1641(え-20/Ⅶ) ●1642(え-20/Ⅶ) ●1643(え-20/Ⅶ) ●1643(え-20/Ⅶ) ●6919(う-20/Ⅶ) ●6923(う-20/Ⅶ) ●6929(え-20/Ⅶ) ●6937(え-20/Ⅶ) ●6940(え-20/Ⅶ)	角,輝,砂粒	ヘラ丁寧なナデ	-	外面化粧土塗布
867	805	11.2	○51682(H-16/Ⅲb)	角,輝,砂粒	横ケズリ→ナデ	横ハケナデ	-
867	806	11.2	●1665(え-20/Ⅶ) ●7069(え-20/Ⅶ) ●7075(え-20/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ,ケズリ →丁寧なナデ	-	-
867	807	11.2	○35743(D-10/Ⅵ下) ○36689(D-10/Ⅵ)	角,細粒	ナデ	ヘラナデ	-
867	808	11.2	○55196(G-10/Ⅶ) ○55209(G-9/Ⅶ) ○65921(F-10/Ⅷ上)	輝,細粒	丁寧なナデ,斜ハケナデ	横ハケナデ	-
867	809	11.2	○50824(A-14/Ⅶ) ○50825(B-14/Ⅶ) ○53662(A-15/Ⅶ)	角,細粒	丁寧なナデ,ハケナデ	-	-
867	810	11.2	○35289(E-9/Ⅶ下) ○59385(E-9/Ⅶ下) ○65109(F-8/Ⅶ) ○65775(F-8/Ⅶ上)	角,細粒	横ハケ→ナデ	横ケズリ	-
867	811	11.2	○50840(A-15/Ⅷ)	角,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
868	812	11.2	○60306(G-3/Ⅷ) ○60307(G-3/Ⅷ)	輝,細粒	横ケズリ→ナデ	横ケズリ	-
868	813	11.2	○60901(H-7/Ⅷ) ○60903(H-7/Ⅷ) ○60905(H-7/Ⅷ上) ○60906(H-7/Ⅷ上)	角,輝	横ケズリ→ナデ	横ハケ→ナデ	無文土器
868	814	11.2	●6851(う-20/Ⅶ) ●6858(う-20/Ⅶ) ○65190(F-10/Ⅶ) ○65953(F-10/Ⅶ下) ○65954(F-10/Ⅶ下) ○65957(F-10/Ⅶ下) ○65958(F-10/Ⅶ下) ○65959(F-10/Ⅶ下) ○65960(F-10/Ⅶ下) ○65961(F-10/Ⅶ下)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
868	815	11.2	●6842(う-20/Ⅶ) ●6914(う-20/Ⅶ) ●7125(う-21/Ⅶ)	角,輝,細粒	丁寧なナデ	-	化粧土塗布
868	816	11.2	●6934(え-20/Ⅶ) ●6984(い-20/Ⅶ上) ●7139(い-19/Ⅶ)	輝,細粒,白粒	工具ナデ	工具ナデ	内面スス付着
868	817	11.2	●9270(き-24/Ⅶ) ●51201(く-25/Ⅶ)	角,細粒	縦ケズリ→横ハケナデ	ハケナデ	-
868	818	11.2	●9274(く-24/Ⅶ) ●9275(き-24/Ⅶ)	角,雲	横ハケナデ	ナデ	-
868	819	11.2	●51194(く-25/Ⅶ) ●51196(く-25/Ⅶ) ●51202(く-25/Ⅶ)	角,細粒	横ナデ	ナデ	混和材:角閃石
868	820	11.2	●9350(か-23/Ⅶ) ●9351(か-23/Ⅶ)	黒,細粒,赤粒	横ケズリ,粗いナデ	-	外面スス付着
868	821	11.2	●9352(か-23/Ⅶ) ●9358(か-23/Ⅶ)	角,輝,砂粒, 赤粒白粒	横ケズリ	ナデ	外面スス付着
868	822	11.2	●51193(く-25/Ⅶ) ●51217(く-25/Ⅶ)	角,細粒	横ハケ→ナデ	-	-

802)である。第２種は，口縁部下を削ること(第366図803・804，第367図805～807)や，口縁部と頸部との境に横位方向の刻目突帯を巡らすことで，「見かけの肥厚帯」を作出する土器(第367図808～811，第368図812・812)である。

胴部形態は中央部が緩やかに膨らむ直立した形態を呈することが挙げられる。

施文的特徴としては，口縁部文様帯には沈線文と刺突連点文とで文様を構成し，山形文や波状文や折帯文や曲線文などを施す土器や，棒状工具により羽状文を施す土器と，文様を施さずに無文にする土器(第367図805，第368図813)とがあることが指摘できる。また頸部文様帯には，横位方向に刻目突帯を数条巡らすだけの土器や，数条巡らした刻目突帯間に波状沈線文を施す土器などに分類できる。

胴部文様帯には縦位方向に結節縄文を施す。本遺跡で出土した施文原体は，２段左撚(ＬＲ)の原体で施文する土器が主体を占めていることを指摘できる。

ここで注目できるのは，無文土器が出土していることである(第368図817～822)。出土点数が少ないために，全体器形は不明である。

さて，出土分布図からは，桐木調査区北側地区から桐木調査区西側地区にかけて，特に桐木調査区Ａ～Ｈ-７～15区からい～さ-20～29区周辺で部分的に出土していること(第353図・第358～361図参照)が指摘できる。

第12群土器(第377～397図823～925)

第12群土器に属する土器を103点資料化した。

本群に属する土器は，層位的には主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層のⅧ層や，上層のⅥ層やⅤ層からも出土していることから，地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域があることが認められる。

第12群土器に属する土器は，その器形的特徴および施文的特徴の違いから，河口編年に基づき３類５種に分類した。

第12群土器第１類土器(分類記号12.1，第377～378図823～832)

器形的特徴として，口縁形態は，波状口縁を呈する土器(第377・378図823・824・828～832)が主体であり，なかには平口縁を呈する土器(第378図825・826)もあることが挙げられる。また，口縁部は内弯状に外反しながら中程でさらに屈曲する，いわゆる「二重口縁」を呈し，口唇部上端に平坦面を形成するのが特徴である。頸部から口縁部にかけてラッパ状に屈曲する。胴部上半から底部にかけては，接合資料が無く，詳細は不明である。

ここで注目できるのは，口縁屈曲部形態である。屈曲部外面では明瞭な稜線を呈し，屈曲部内面では稜線は不明瞭となる土器が多くみられることである。なかには，屈曲部内外面共に明瞭な稜線を呈する土器(第377図823)もみられる。

施文的特徴としては，口唇平坦面に斜位方向あるいは縦位方向の刻みを施し，口縁部文様帯には沈線文と刺突連点文とで直線文や山形文，曲線文などの文様を構成することを指摘できる。また，口縁屈曲部には１条から２条の刻目微隆帯文が巡る特徴が挙げられる。ところで口唇内面端部では，波頂部に縦位方向もしくは弧状に沈線文を施すのが特徴となる。

本類土器の調整方法としては，内器面では直前調整として木製工具による横位方向もしくは斜位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。

本類土器の胎土中鉱物は，主に角閃石と輝石などで構成される土器と，角閃石と輝石で構成されている土器に黒雲母を加える土器がみられた。また，細かい粒度の鉱物で構成されている土器が主体を占め，粗い粒度の鉱物で構成されている土器は少ないことが指摘できる。さらに胎土中の鉱物の粒度がさらに精選された土器も見受けられた。

ここで注目できるのは，本類土器の調整方法や胎土中鉱物の特徴は，第11群土器の特徴と酷似していることであり，土器製作技法状の近縁性が指摘できる。

さて，出土分布図からは，耳取調査区中央地区のうち，特に耳取調査区Ｊ-10～12区周辺で部分的に出土していること(第369図・第372～376図参照)が指摘できる。この地区を主な分布域にする土器群は珍しく，また第11群土器の主な分布域とも，第12群土器の他の類に属する土器群の主な分布域とも異なり特異的であることが，注目できる。

第12群土器第２類土器(分類記号12.2，第379～389図833～880)

第12群土器に属する土器のうち，撚糸文を施文具として文様を構成する土器を本類に分類した。河口編年に基づき，(網目)撚糸文をそのまま施す第１種土器と，(網目)撚糸文を枠線で囲んで文様を構成する第２種土器とに細別を行った。

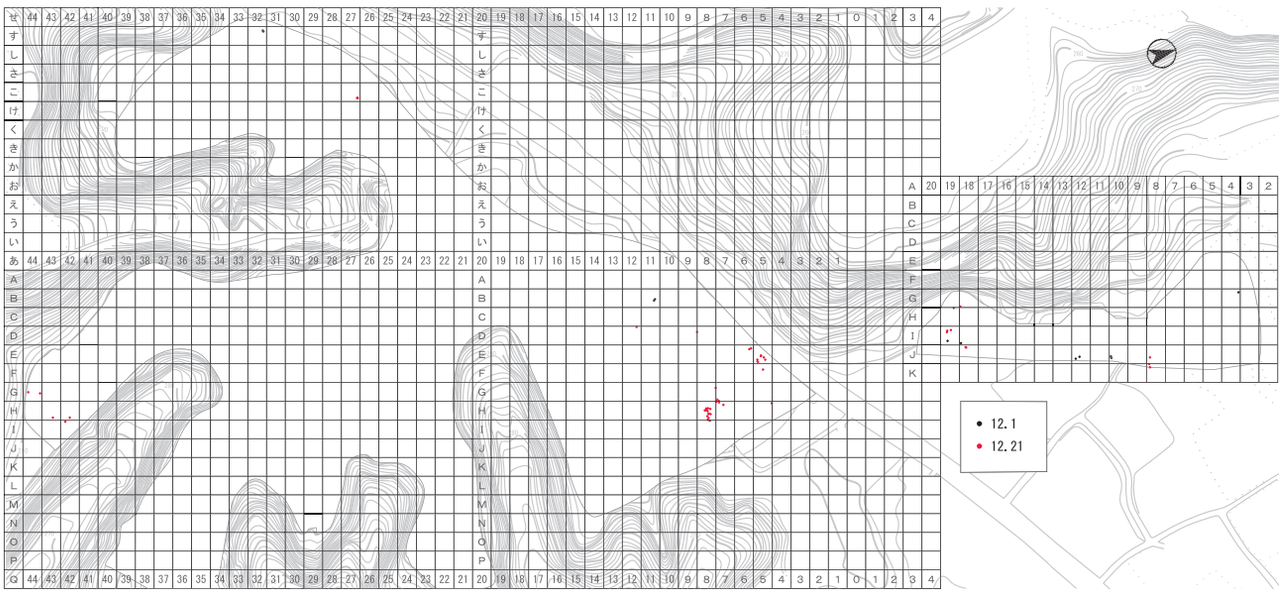
第12群土器第２類土器第１種土器(分類記号12.21，第379～381図833～850)

本種に属する出土土器には，深鉢形土器と壺形土器とがある。深鉢形土器の器形的特徴として，口縁形態は，波状口縁を呈する土器(第379図833・834)と，平口縁を呈する土器(第379図835・836，第381図849)とを挙げることができる。

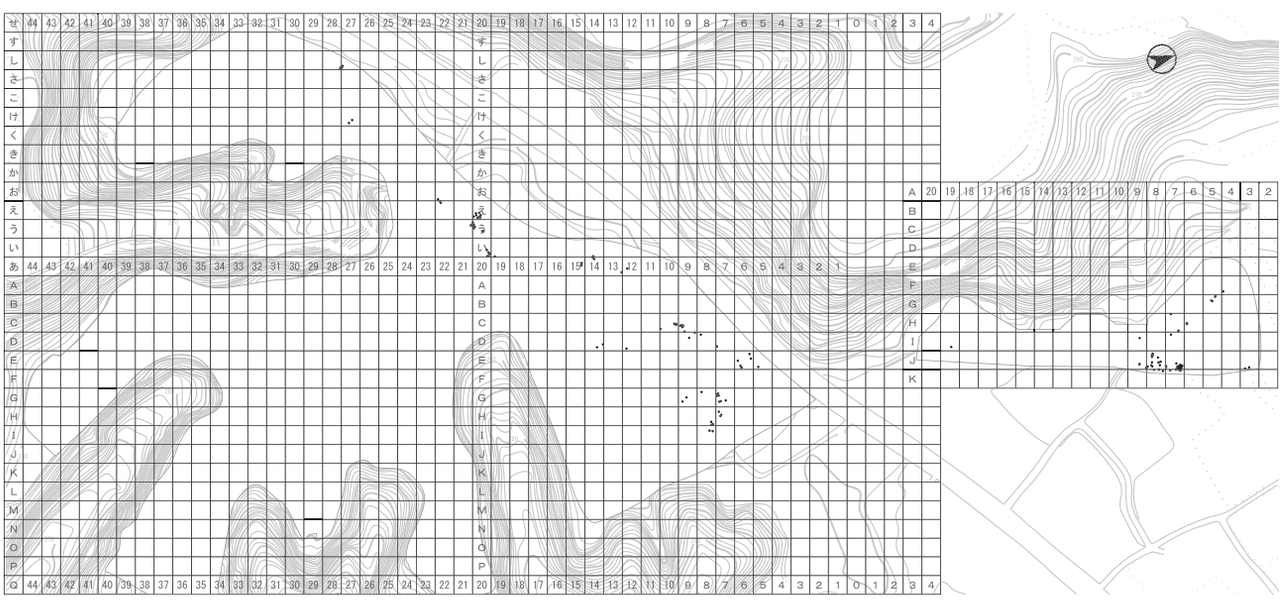
胴部から口縁部にかけてラッパ状に開く口縁部形態には，直線的になる土器(第379図833)と，わずかに内弯形態を呈する土器(第379図834～836，第381図849)が指摘できる。

さらに，口縁部内面と胴部内面との境には明瞭な稜線を形成(第380図8837・838・840・841)し，胴部形態は円筒形を呈し，底部は上げ底(第380図844)となる特徴を挙げることができる。

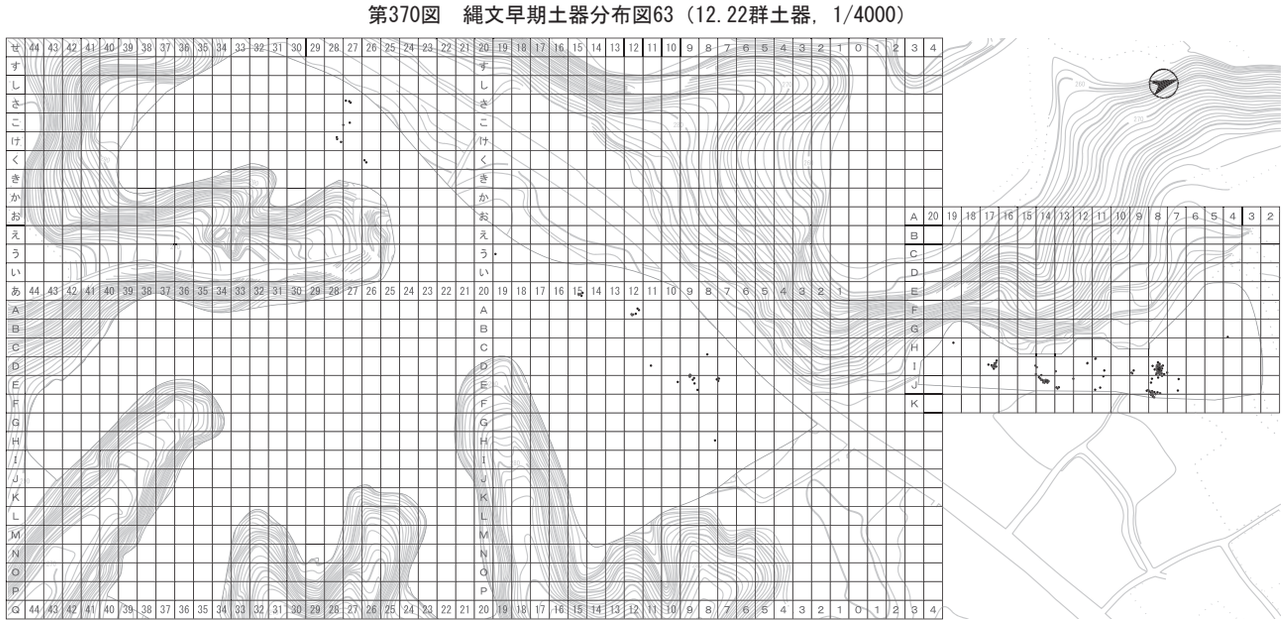
施文的特徴としては，口唇部文様帯には斜位方向あるいは縦位方向の刻みを施し，中には羽状文を構成する土器(第379図833)もみられる。また口縁部文様帯には，沈線文や刺突連



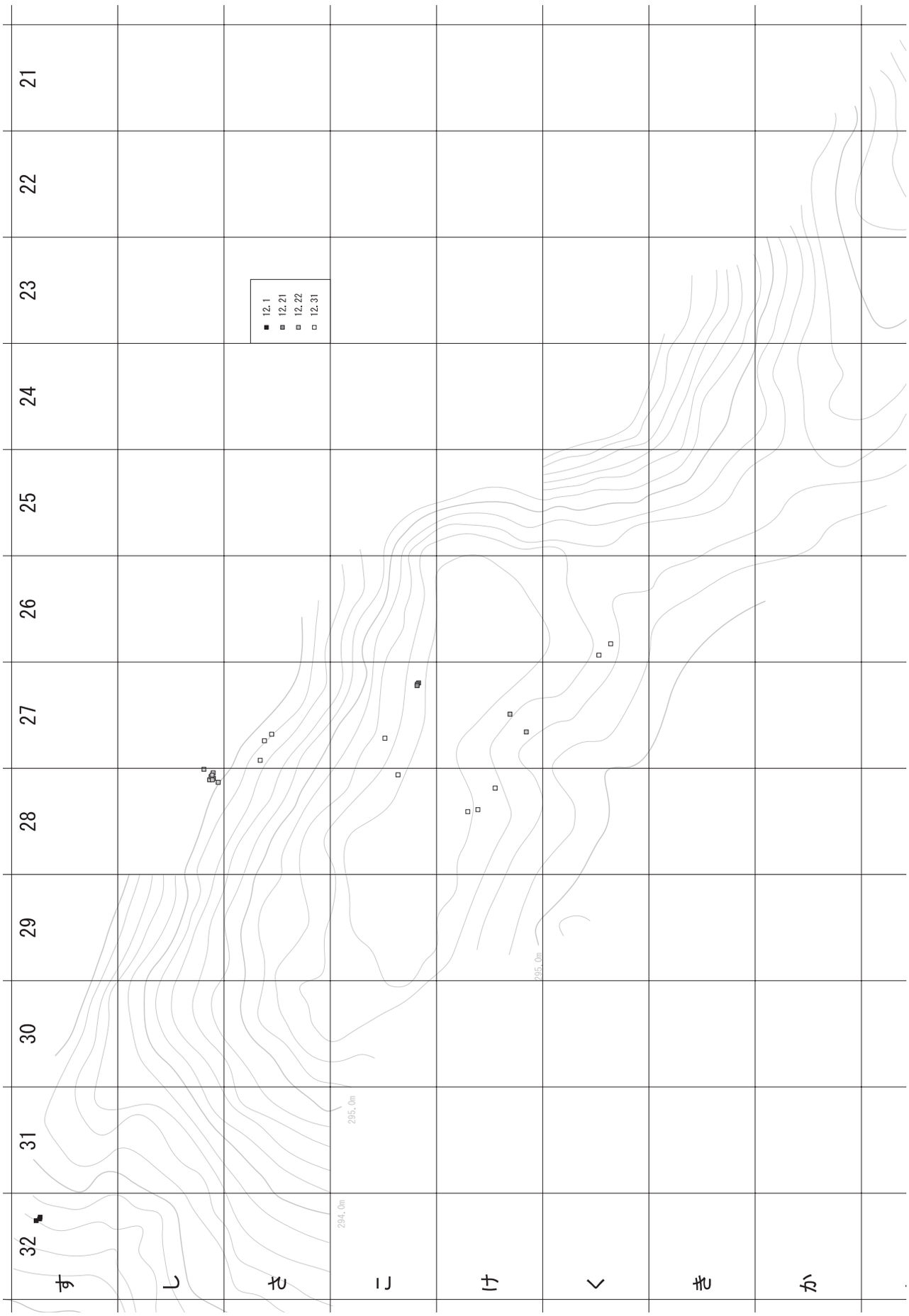
第369図　縄文早期土器分布図62（12.1群土器/12.21群土器，1/4000）



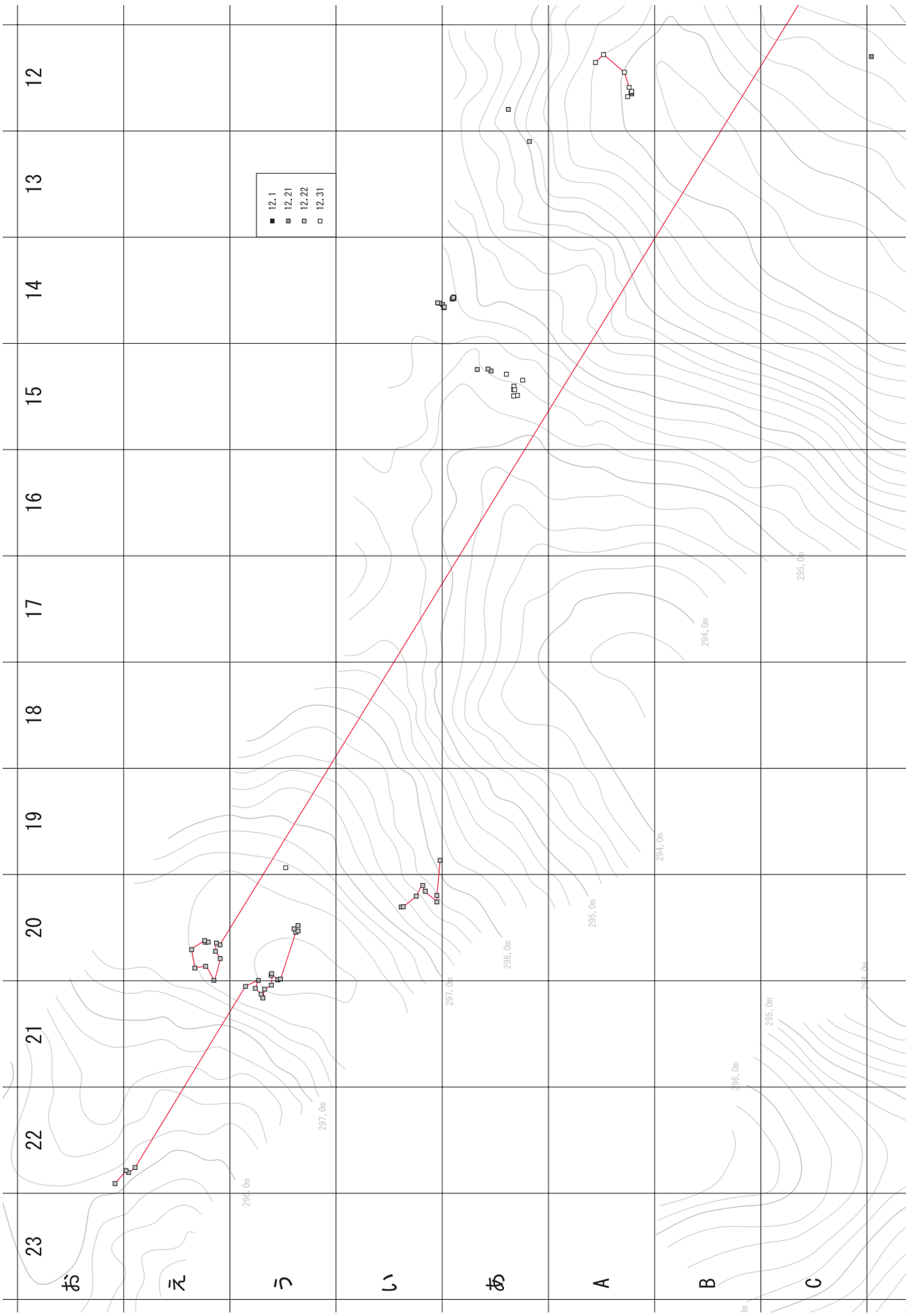
第370図　縄文早期土器分布図63（12.22群土器，1/4000）



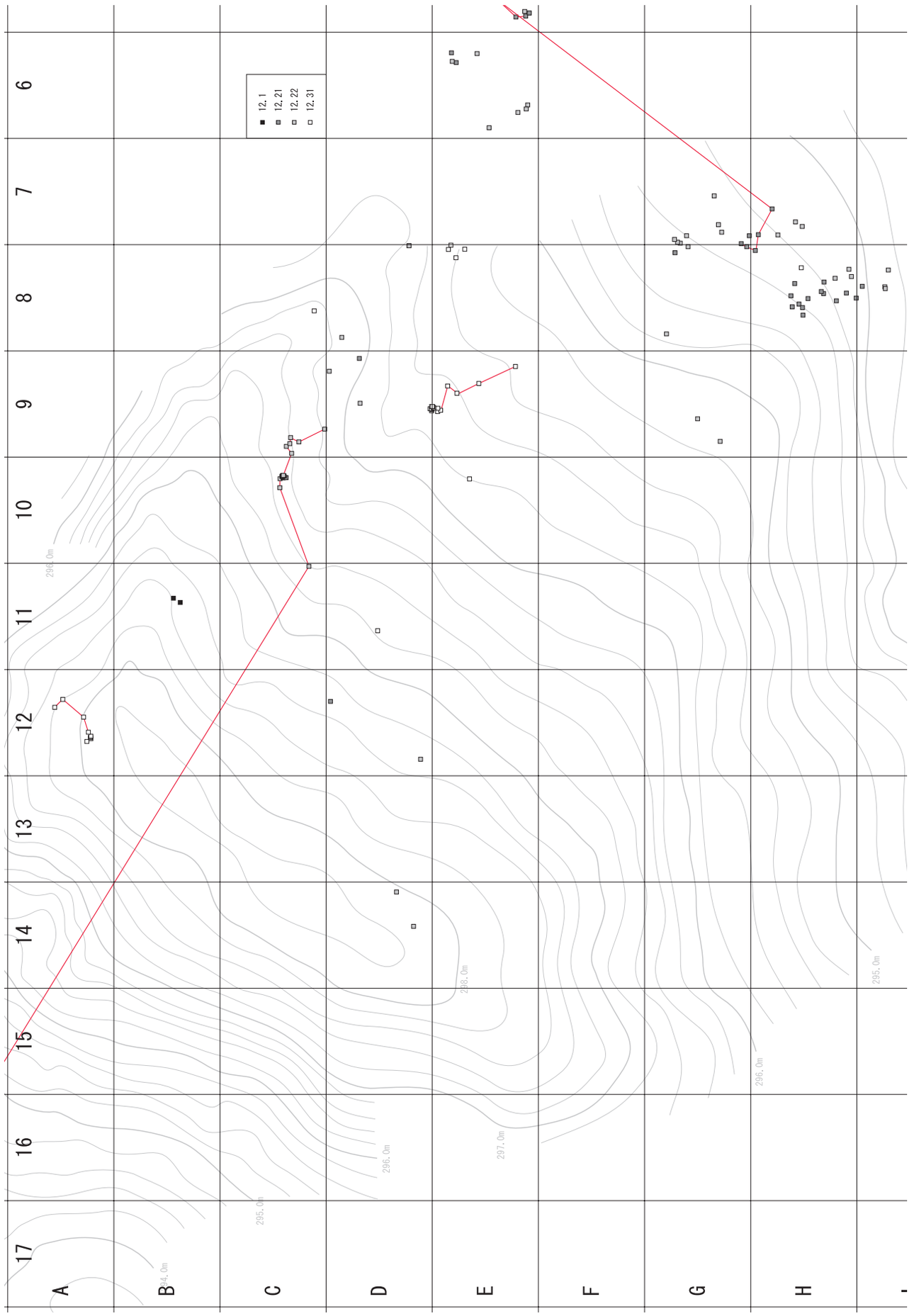
第371図　縄文早期土器分布図64（12.31群土器，1/4000）



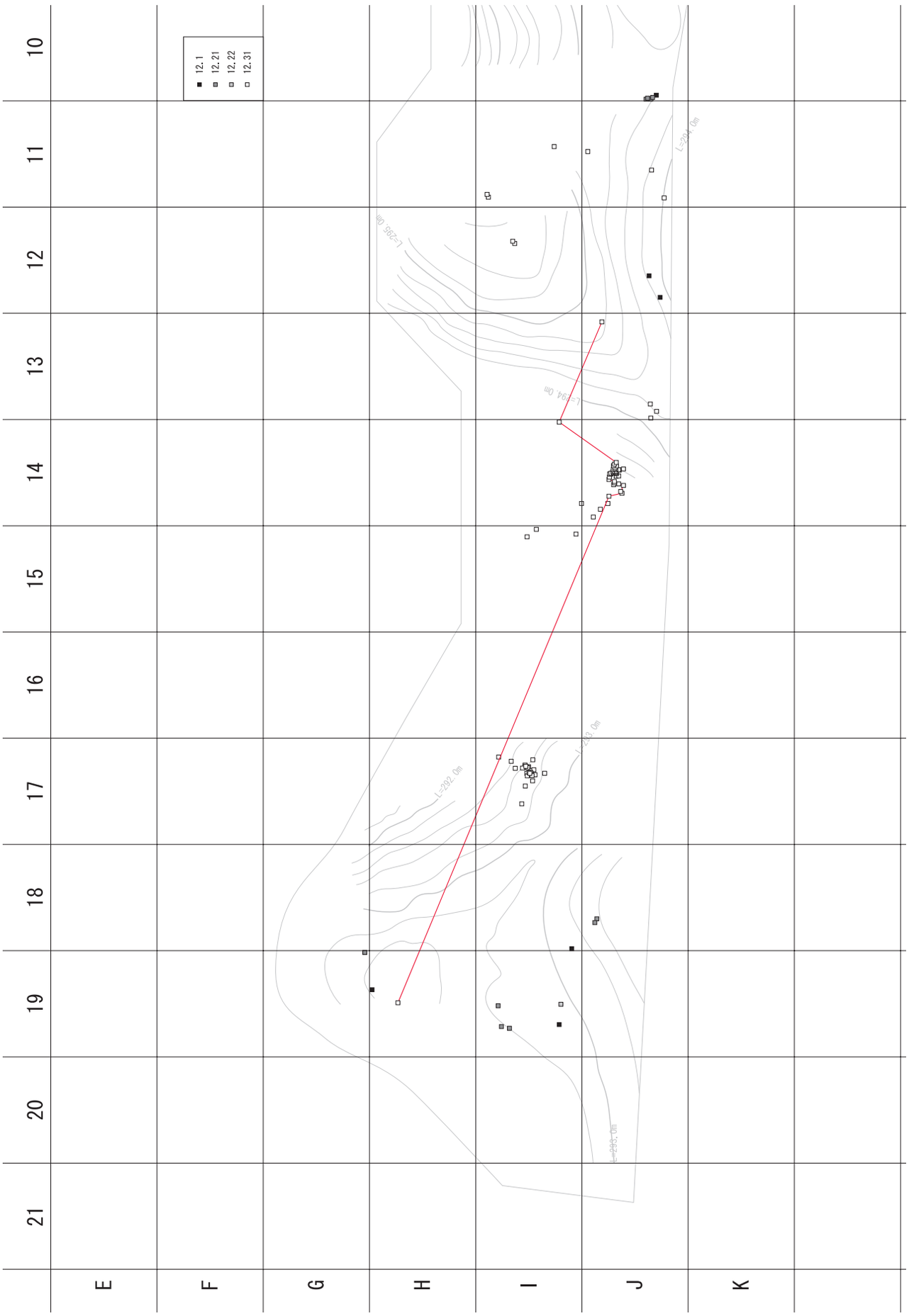
第372図　縄文早期土器分布図65（第12群土器１，1/500）



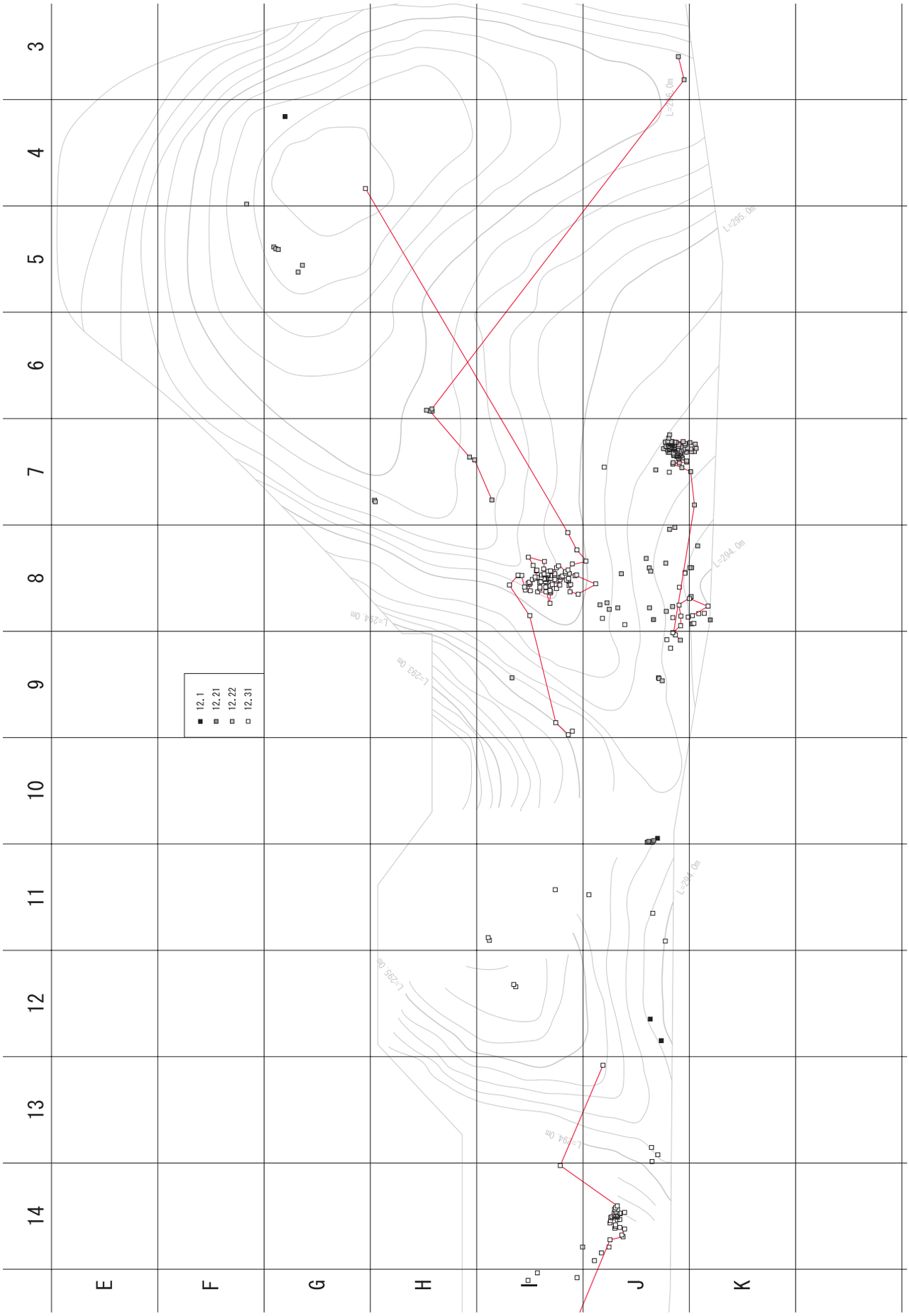
第373図　縄文早期土器分布図66（第12群土器２，1/500）



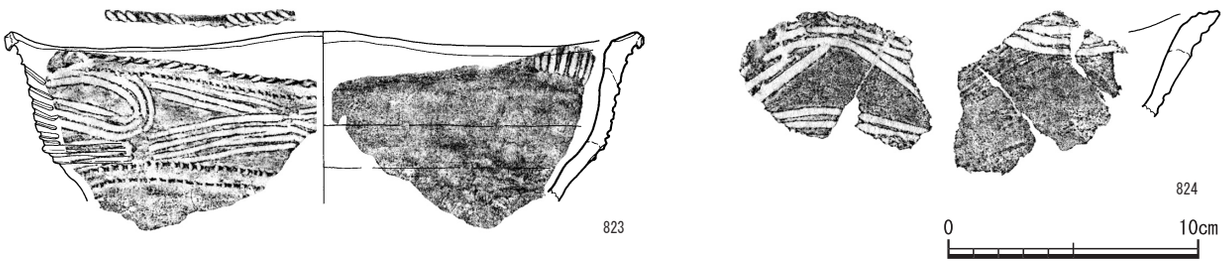
第374図　縄文早期土器分布図67（第12群土器３，1/500）



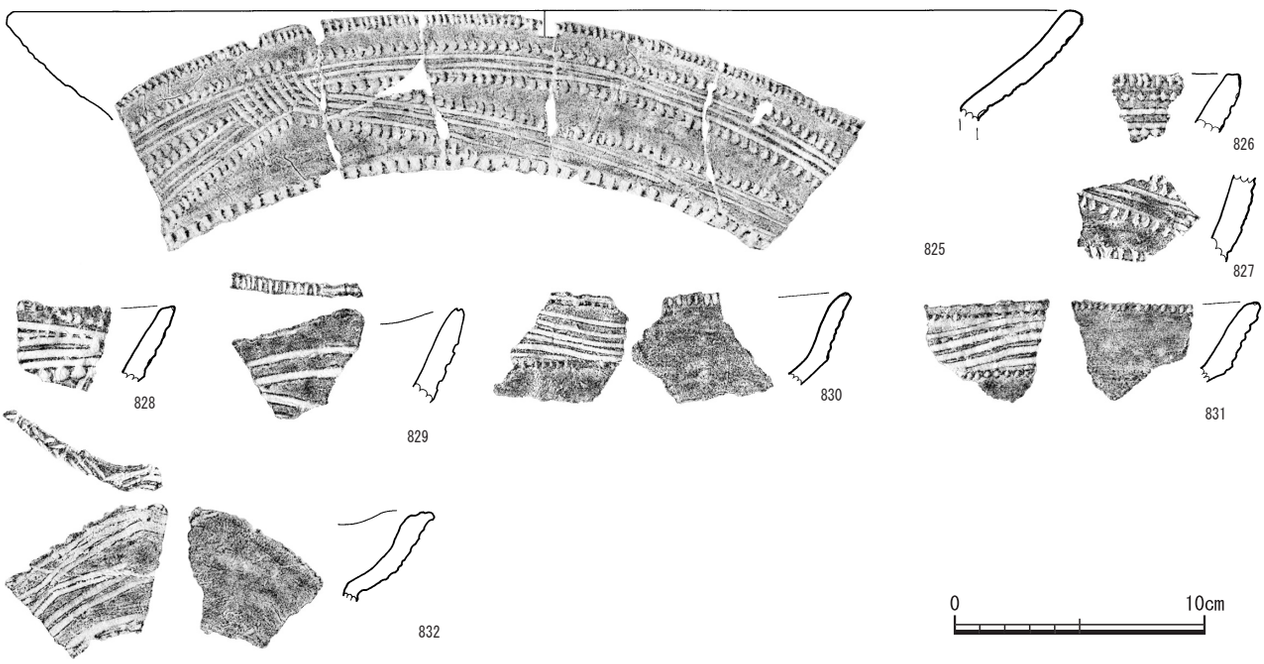
第375図　縄文早期土器分布図68（第12群土器４，1/500）



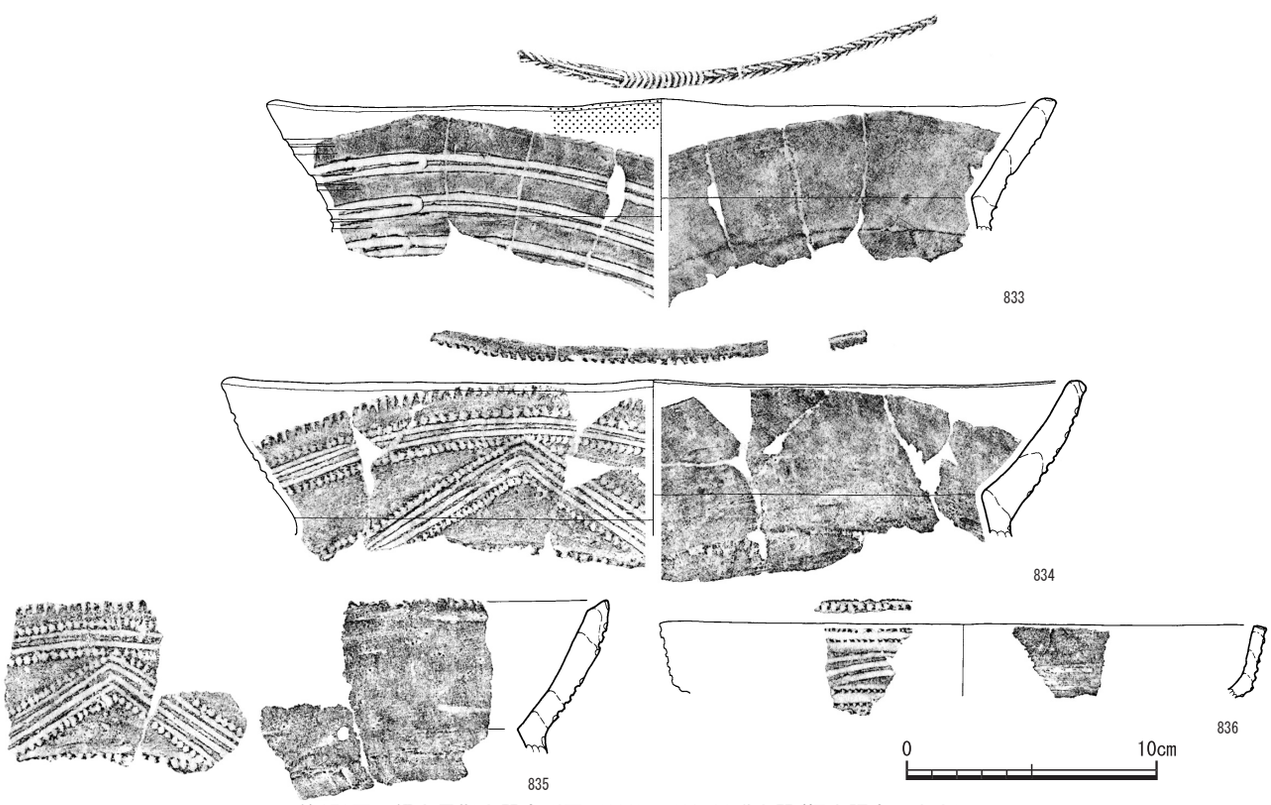
第376図　縄文早期土器分布図69（第12群土器５，1/500）



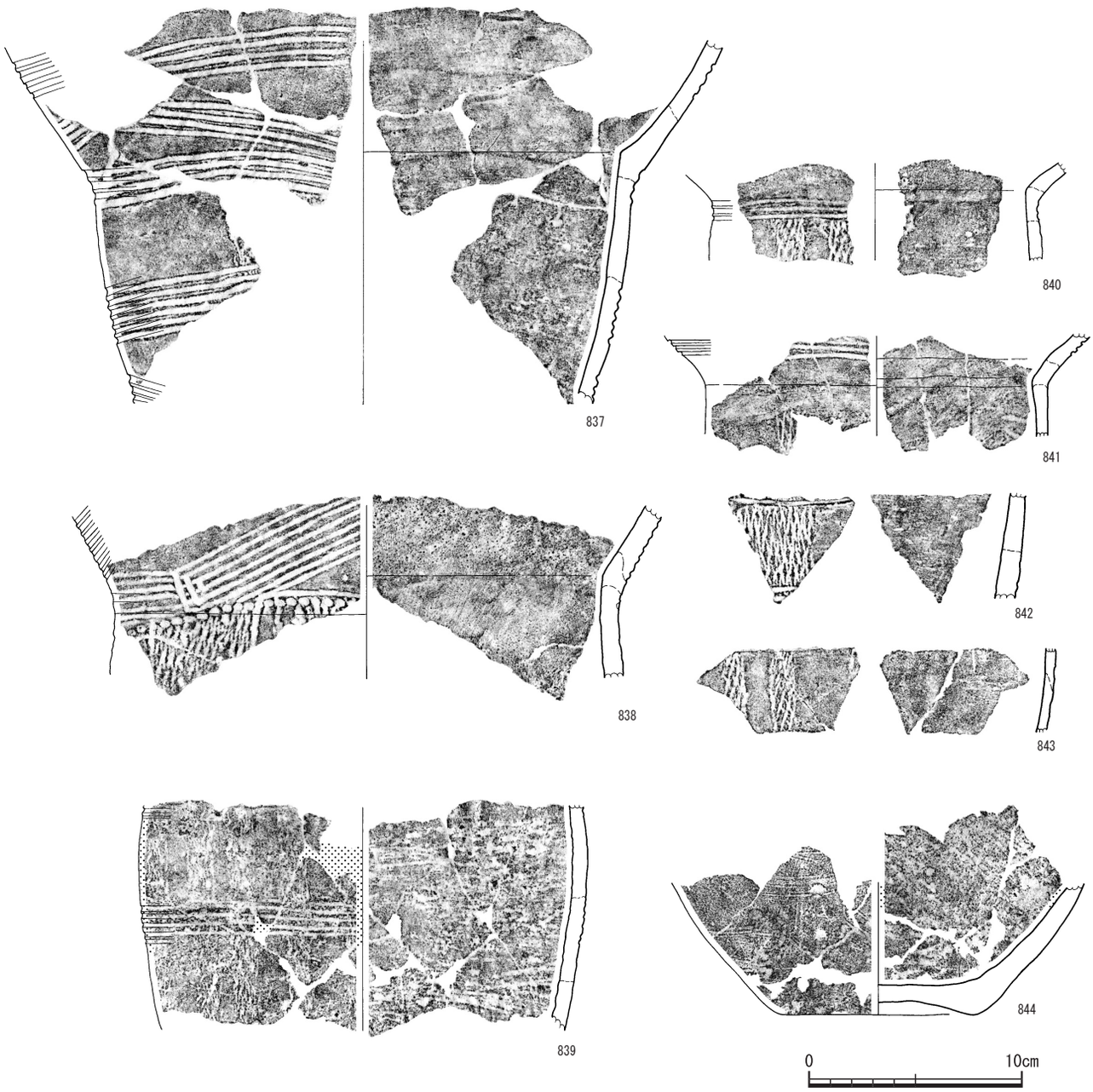
第377図　縄文早期土器実測図（128）（12.1群土器/桐木調査区出土）



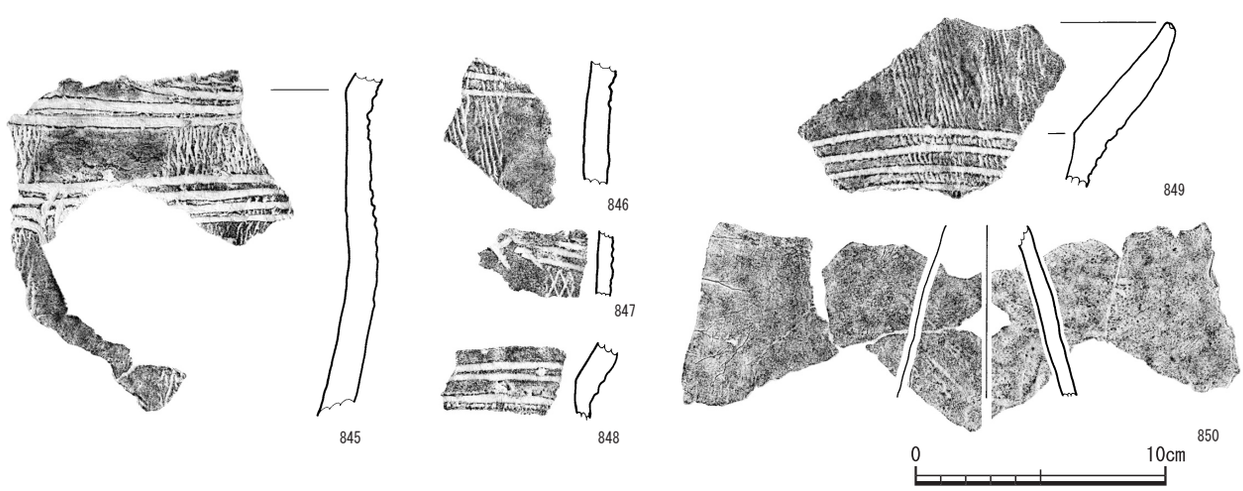
第378図　縄文早期土器実測図（129）（12.1群土器/耳取調査区出土）



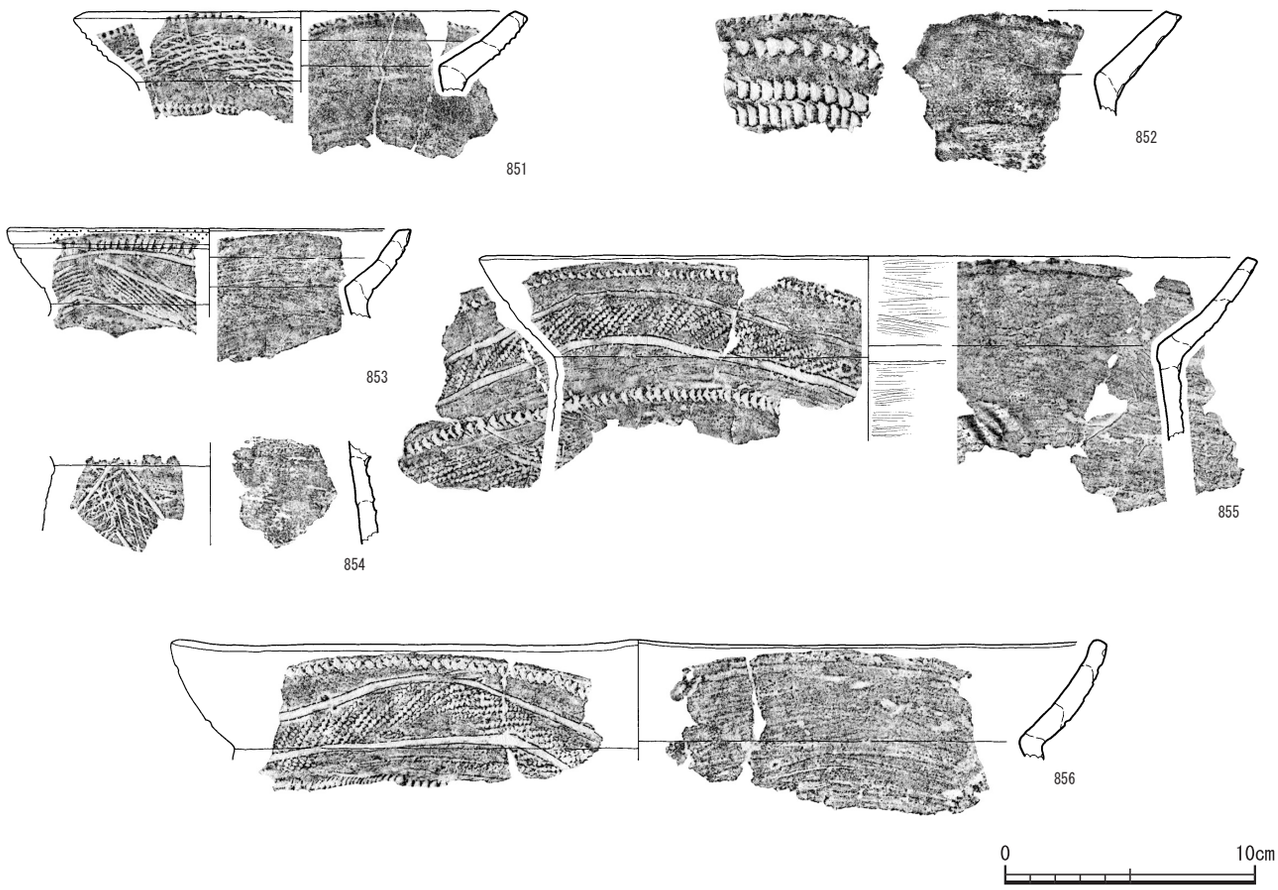
第379図　縄文早期土器実測図（130）（12.21群土器/桐木調査区出土）



第380図　縄文早期土器実測図（131）（12.21群土器/桐木調査区出土）



第381図　縄文早期土器実測図（132）（12.21群土器/耳取調査区出土）



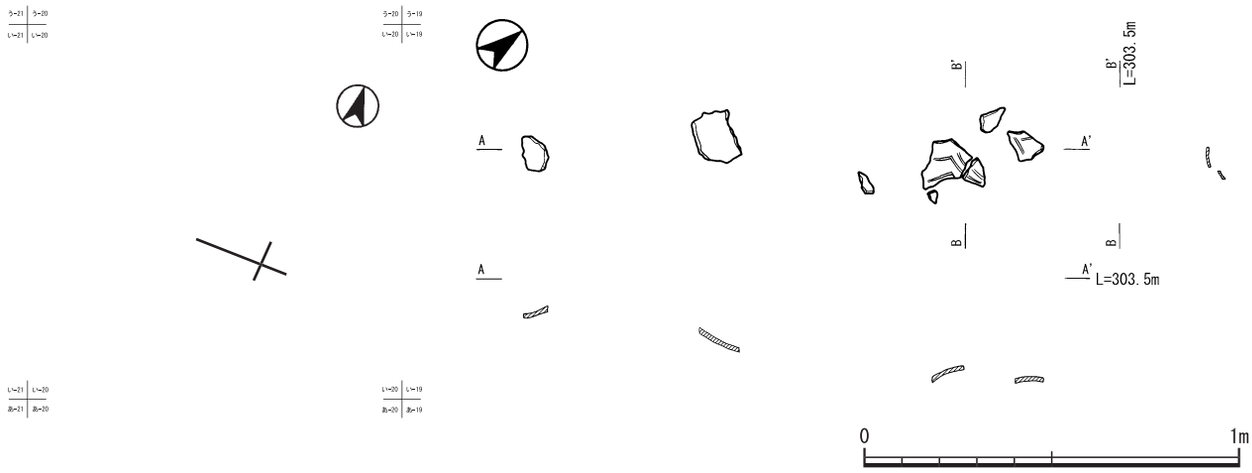
第382図　縄文早期土器実測図（133）（12.22群土器/桐木調査区出土）

第99表　縄文早期土器観察表（57）（12群土器－１）

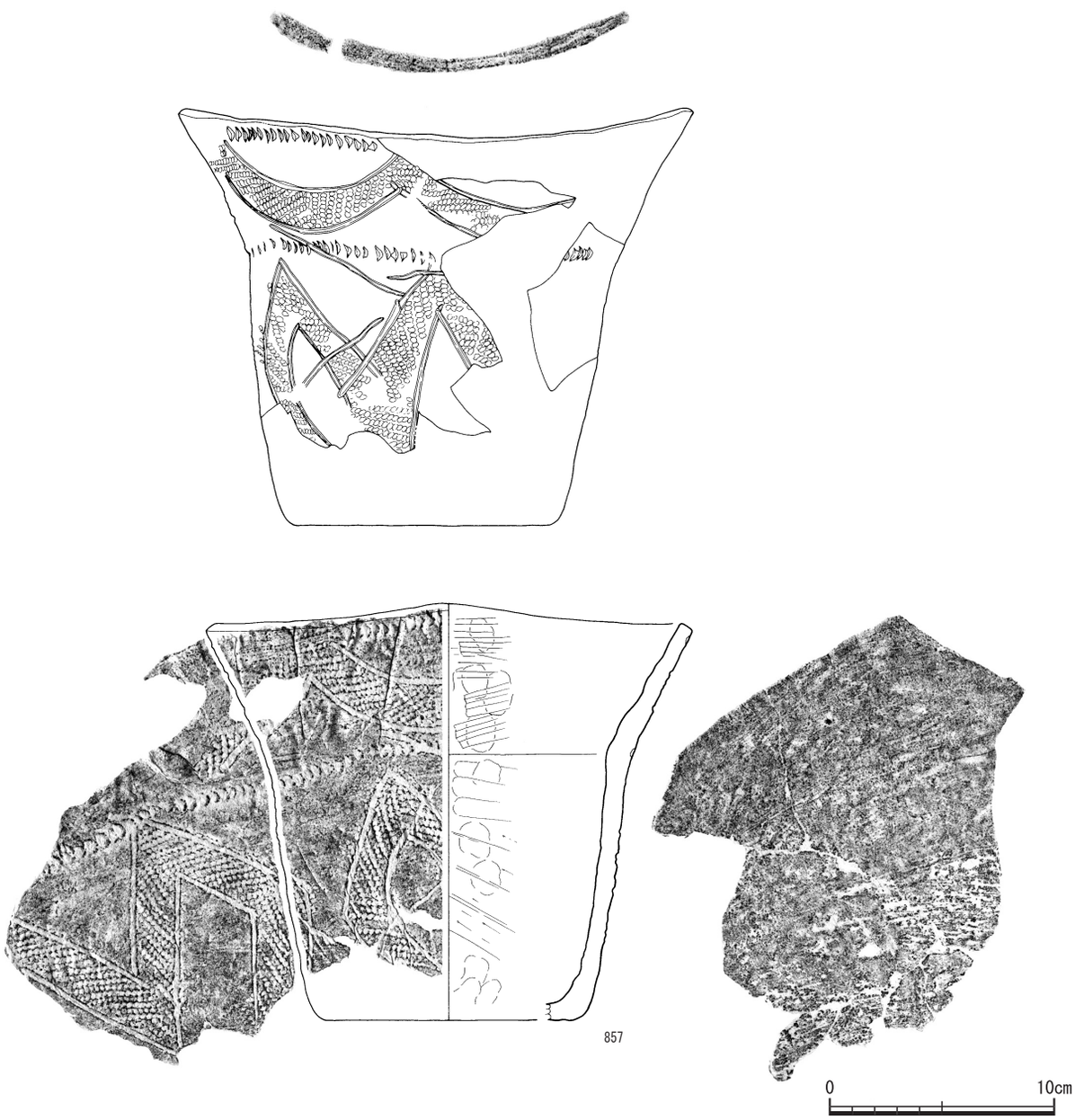
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
377	823	12.1	●一括(-/-)	角,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	波頂部には口唇部内面に施す
377	824	12.1	●50147(す-32/Ⅶ) ●50148(す-32/Ⅶ) ●50169(す-32/Ⅶ)	輝,細粒	丁寧なナデ	-	-
378	825	12.1	▲11109(J-10/Ⅶ) ▲11110(J-10/Ⅶ) ▲11111(J-10/Ⅶ) ▲11119(J-10/Ⅶ) ▲11120(J-10/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→ナデ	口唇部: 横ハケ→ナデ	胎土精選
378	826	12.1	▲2565(I-18/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	口唇部 :横ハケ→ナデ	-
378	827	12.1	▲11112(J-10/Ⅶ)	黒,角,輝,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
378	828	12.1	▲1898(I-19/Ⅶ)	黒,角,輝,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	口唇部: 横ハケ→ナデ	-
378	829	12.1	▲3301(H-19/Ⅶ)	角,輝,微粒	斜ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
378	830	12.1	▲11013(J-12/Ⅶ)	角,黒,輝,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	胎土精選
378	831	12.1	▲11010(J-12/Ⅶ)	角,黒,輝,雲,微粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	胎土精選
378	832	12.1	▲9422(G-4/Ⅶ上)	輝,雲,微粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	胎土精選
379	833	12.21	○55701(H-8/Ⅶ) ○65633(I-8/Ⅶ) ○66317(H-8/Ⅶ) ○66318(H-8/Ⅶ)	砂粒,角	横ハケ→丁寧なナデ	-	外面スス付着
379	834	12.21	○58143(E-5/Ⅶ) ○58145(E-5/Ⅶ) ○58723(E-5/Ⅶ) ○60367(E-5/Ⅶ上) ○60372(E-5/Ⅶ) ○60375(E-5/Ⅶ)	砂粒,輝	ナデ,横ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-
379	835	12.21	○58723(E-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	面取りによる平坦面形成
379	836	12.21	○58281(F-5/Ⅶ上)	細粒,角	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
380	837	12.21	○60376(E-5/Ⅶ下) ○60376(E-5/Ⅶ下) ○60907(H-7/Ⅶ上) ○60916(H-7/Ⅶ下) ○60921(H-8/Ⅶ下) ○60922(G-8/Ⅶ下) ○60923(G-7/Ⅶ下)	角,細粒	横ハケ→ナデ,横ケズリ→粗いナデ	-	-
380	838	12.21	○25722(D-12/Ⅴ下)	輝,角,雲,砂粒	ナデ	-	-
380	839	12.21	◎18083(H-43/Ⅶ) ●10512(I-42/Ⅶ) ●10515(H-42/Ⅶ)	角,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	-	砂粒多量
380	840	12.21	◎16206(G-44/Ⅵb)	角,細粒	横ハケ→ナデ	ハケナデ	-
380	841	12.21	○65721(G-8/Ⅶ)	雲,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
380	842	12.21	○60800(G-7/Ⅶ下)	角,輝,細粒	ヘラナデ	-	-

第100表　縄文早期土器観察表（58）（12群土器－２）

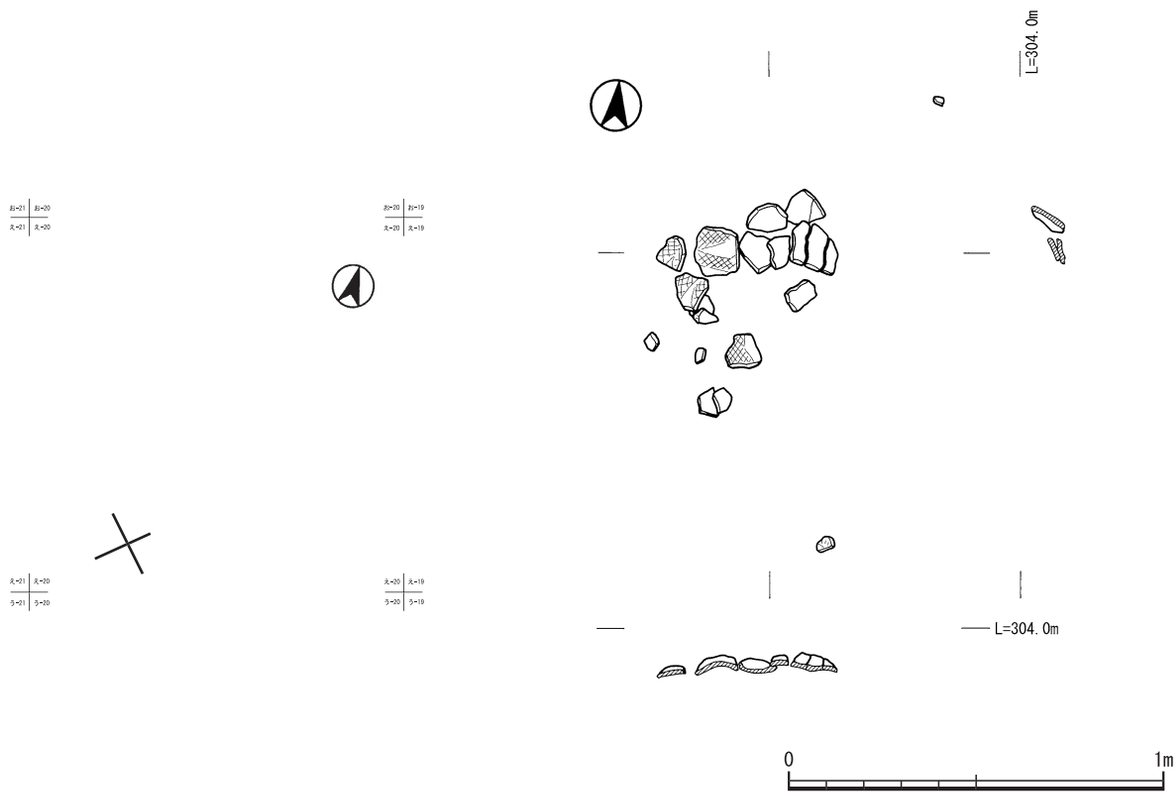
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
380	843	12.21	◎18227(G-44/Ⅶ)	角,細粒	丁寧なナデ	-	外面スス付着
380	844	12.21	●51139(こ-27/Ⅶ) ●51140(こ-27/Ⅶ) ●51141(こ-27/Ⅶ)	輝,細粒	ナデ	ハケ→工具ナデ	内面スス付着
381	845	12.21	▲17279(K-8/Ⅶ上) ▲17283(K-8/Ⅶ上) ▲17343(J-8/Ⅶ)	角,輝,黒,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
381	846	12.21	▲3653(G-19/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	黒曜石,細粒多量
381	847	12.21	▲11173(J-18/Ⅶ)	輝,黒,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
381	848	12.21	▲11171(J-18/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	丁寧なナデ	-	-
381	849	12.21	▲3653(G-19/Ⅶ)	黒,角,輝,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母,黒曜石,細粒多量
381	850	12.21	▲1877(I-19/Ⅶ) ▲1878(I-19/Ⅶ) ▲1964(I-19/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ハケ→ユビナデ	縦,斜ハケ →丁寧なナデ	-
382	851	12.22	○40514(D-9/Ⅶ) ○40580(D-8/Ⅶ) ○50215(D-9/Ⅶ)	砂粒,角,雲	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
382	852	12.22	●6825(し-28/Ⅶ)	輝,雲,細粒	工具ハケナデ	-	-
382	853	12.22	○61219(D-8/Ⅶ下)	輝,角,細粒	ヘラ丁寧なナデ	-	外面スス付着
382	854	12.22	○55681(H-8/Ⅶ) ○61219(D-8/Ⅶ下)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
382	855	12.22	○60507(G-7/Ⅶ上) ○60793(G-7/Ⅶ下) ○60927(G-7/Ⅶ上) ○65713(G-7/Ⅶ) ○65714(G-7/Ⅶ) ○65715(G-7/Ⅶ) ○65748(G-8/Ⅶ上)	砂粒,角,輝	ハケナデ	ハケナデ	スス付着
382	856	12.22	○60931(G-7/Ⅶ) ○65718(G-8/Ⅶ)	角,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	面取りによる平坦面形成
384	857	12.22	●6987(い-20/Ⅶ) ●6988(い-20/Ⅶ) ●6989(い-20/Ⅶ上) ●6990(い-20/Ⅶ) ●6991(い-20/Ⅶ) ●6992(い-20/Ⅶ上) ●6993(い-20/Ⅶ) ●7140(い-19/Ⅶ) ●一括(-/-) ●塞1(-/-) ●塞2(-/-) ●塞3(-/-) ●塞4(-/-) ●塞5(-/-) ●塞6(-/-) ●塞7(-/-) ●塞8(-/-)	角,砂粒,細粒	ヘラナデ→指頭痕,指頭痕	ヘラナデ	混和材:角閃石



第383図　（857）土器出土状況図



第384図　縄文早期土器実測図（134）（12.22群土器/桐木調査区出土）



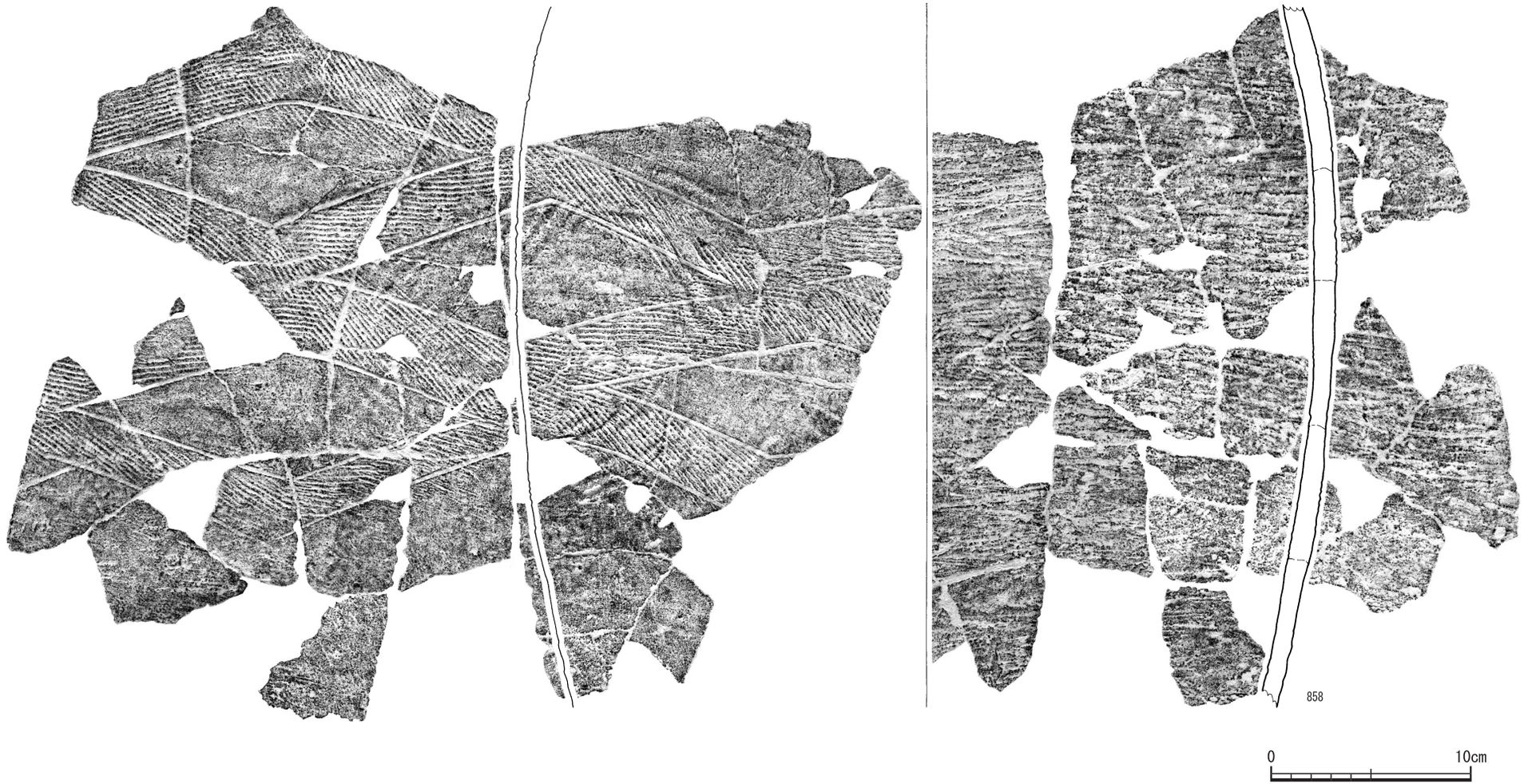
第385図　（858）土器出土状況図

第101表　縄文早期土器観察表（59）（12群土器－３）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
386	858	12.22	●6933(え-20/Ⅶ) ●6936(え-20/Ⅶ) ●6939(え-20/Ⅶ) ●6943(え-20/Ⅶ) ●6944(え-20/Ⅶ) ●6945(え-20/Ⅶ) ●6949(え-20/Ⅶ) ●6952(え-20/Ⅶ) ●7072(え-20/Ⅶ) ●7074(え-20/Ⅶ) ●7170(え-20/Ⅶ) ●塞1(-/-) ●塞10(-/-) ●塞11(-/-) ●塞12(-/-) ●塞13(-/-) ●塞14(-/-) ●塞15(-/-) ●塞2(-/-) ●塞3(-/-) ●塞4(-/-) ●塞5(-/-) ●塞6(-/-) ●塞7(-/-) ●塞8(-/-) ●塞9(-/-) ○746(C-10/Ⅶ) ○747(C-10/Ⅶ) ○748(C-10/Ⅶ) ○749(C-10/Ⅶ) ○751(C-10/Ⅶ) ○752(C-10/Ⅶ) ○753(C-10/Ⅶ) ○754(C-10/Ⅶ) ○784(C-10/Ⅶ) ○785(C-10/Ⅶ) ○786(C-10/Ⅶ) ○787(C-10/Ⅶ) ○788(C-10/Ⅶ) ○1214(C-10/Ⅶ) ○1217(C-10/Ⅶ) ○40477(C-9/Ⅶ) ○40478(C-9/Ⅶ) ○40479(C-9/Ⅶ) ○40833(C-11/Ⅶ) ○41482(C-9/Ⅶ下) ○51158(C-9/Ⅶ) ○51165(C-9/Ⅶ)	輝,雲,角,砂粒	横ケズリ→ナデ	-	-

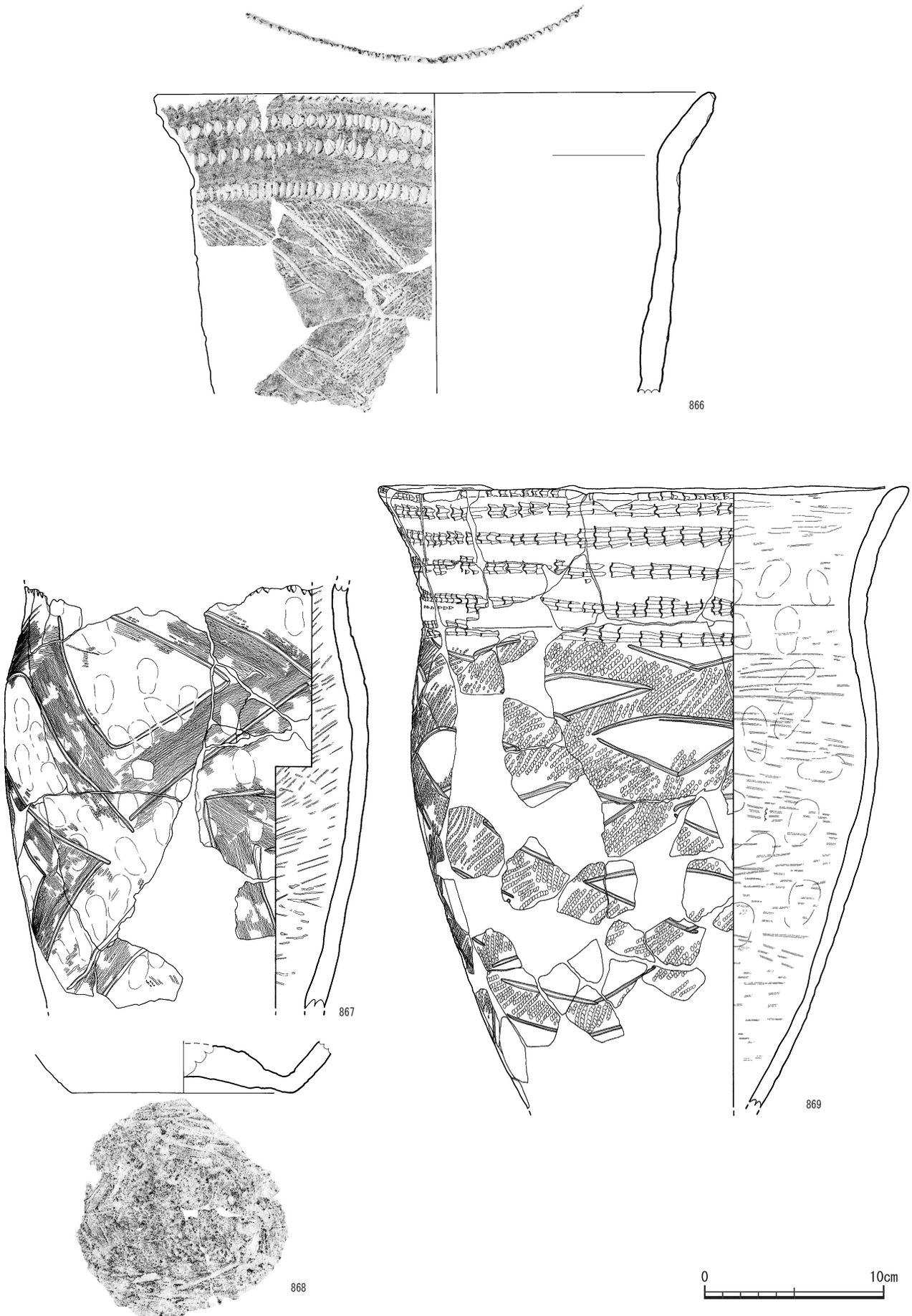
第102表　縄文早期土器観察表（60）（12群土器－４）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
387	859	12.22	○6812(D-14/Ⅴ下)	角,輝,砂粒	ケズリ→粗いナデ	ナデ	-
387	860	12.22	○6818(D-14/Ⅴ下) ○6824(D-12/Ⅴ上)	雲,細粒	斜ケズリ→ナデ,ナデ	ナデ	-
387	861	12.22	●6834(う-20/Ⅶ) ●6835(う-20/Ⅶ) ●6859(う-20/Ⅶ) ●6860(う-20/Ⅶ) ●6862(う-20/Ⅶ) ●6865(う-20/Ⅶ) ●7021(え-22/Ⅶ) ●7022(え-22/Ⅶ) ●7025(え-22/Ⅶ) ●7032(お-22/Ⅶ) ●7050(う-21/Ⅶ) ●7051(う-21/Ⅶ) ●7052(う-21/Ⅶ) ●7055(う-21/Ⅶ) ●7057(う-21/Ⅶ) ●7059(う-21/Ⅶ) ●7164(う-20/Ⅶ) ●7165(う-20/Ⅶ) ●7168(う-20/Ⅶ) ●一括(-/-)	輝,砂粒	貝殻条痕, 斜ケズリ→粗いナデ	丁寧なナデ	-
387	862	12.22	○58053(E-6/Ⅵa) ○58159(E-6/Ⅶ) ○58164(E-6/Ⅶ)	雲,角,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
387	863	12.22	○55663(H-8/Ⅶ) ○64418(I-8/Ⅶ) ○64435(H-8/Ⅶ)	輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
387	864	12.22	◎9410(あ-15/Ⅶ) ◎9411(あ-15/Ⅶ)	角,細粒	ケズリ→粗いナデ	丁寧なナデ, 円周状に ハケナデ, 底面:白色化	-
387	865	12.22	◎9413(あ-15/Ⅶ)	角,砂粒	ケズリ→粗いナデ	ナデ,ハケナデ	-
388	866	12.22	▲9474(G-5/Ⅶ上) ▲9475(G-5/Ⅶ上) ▲9476(G-5/Ⅶ上)	角,輝,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
388	867	12.22	▲8206(J-3/Ⅶ) ▲9239(J-3/Ⅶ) ▲9361(I-7/Ⅵa横転) ▲12646(H-6/Ⅶ) ▲12647(H-6/Ⅶ) ▲12654(H-6/Ⅶ上) ▲12665(H-7/Ⅶ) ▲12666(H-7/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	斜ケズリ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母, 細粒多量
388	868	12.22	▲7932(G-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	底面:ハケ →粗いナデ	-

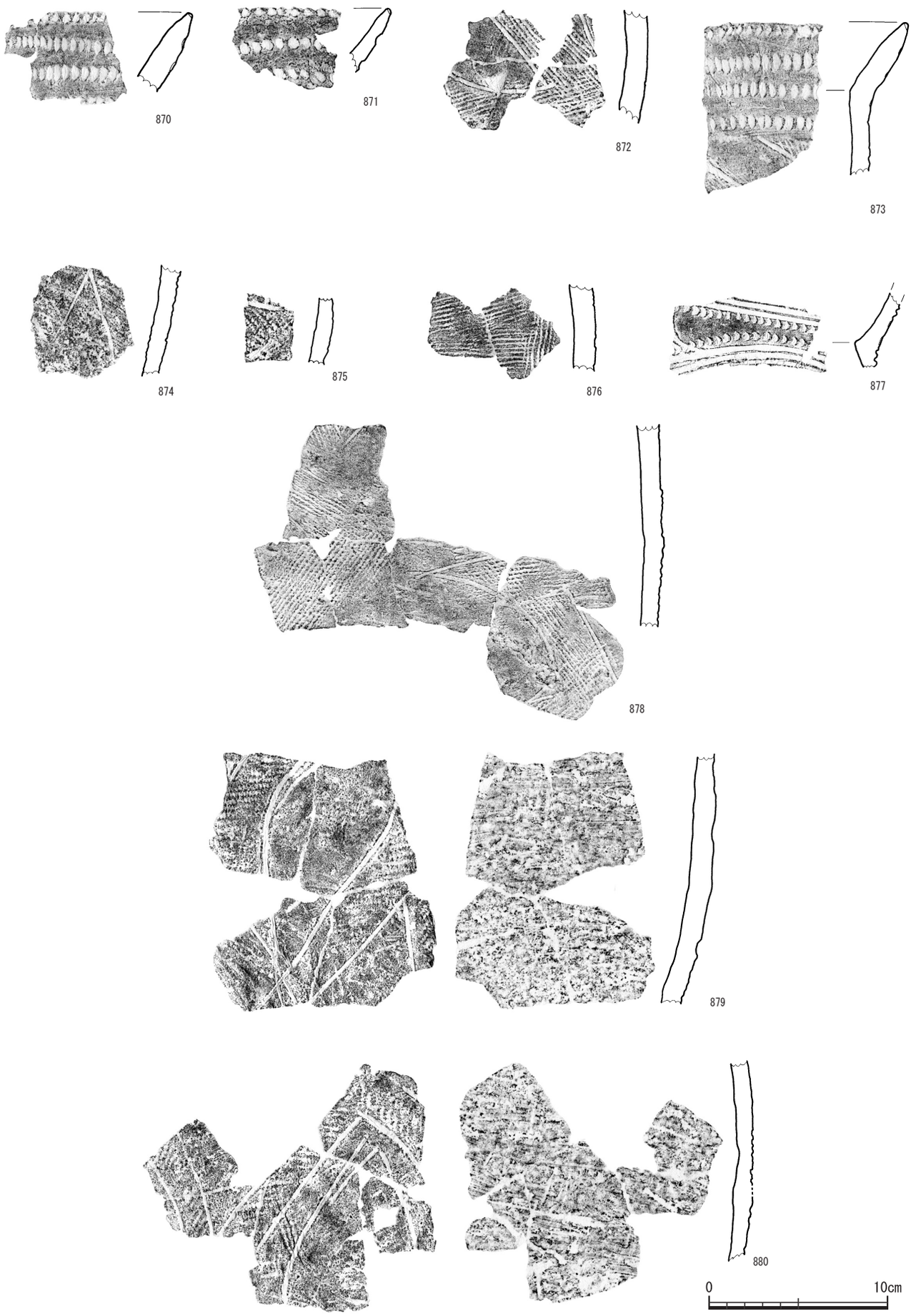


第386図　縄文早期土器実測図（135）（12.22群土器/桐木調査区出土）

第387図　縄文早期土器実測図（136）（12.22群土器/桐木調査区出土）



第388図　縄文早期土器実測図（137）（12.22群土器/耳取調査区出土）



第389図　縄文早期土器実測図（138）（12.22群土器/耳取調査区出土）

第103表　縄文早期土器観察表（61）（12群土器-５）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
388	869	12.22	▲16175(J-7/VIa) ▲16176(J-7/VIa) ▲16177(J-7/VIa) ▲16178(J-7/VIa) ▲16179(J-7/VIa) ▲16181(J-7/VIa) ▲16187(J-7/VIa) ▲17353(K-7/VII) ▲17356(J-7/VII) ▲17358(K-7/VI) ▲17360(K-7/VII) ▲17361(K-7/VII) ▲17362(J-7/VI) ▲17366(J-7/VII) ▲17367(J-7/VII) ▲17368(J-7/VII) ▲17372(J-7/VII) ▲17374(J-7/VII) ▲17377(J-7/VII) ▲17379(J-7/VII) ▲17380(J-7/VII) ▲17382(J-7/VII) ▲17384(J-7/VII) ▲17385(J-7/VII) ▲17386(J-7/VII) ▲17387(J-7/VII) ▲17388(J-7/VII) ▲17389(J-7/VII) ▲17391(J-7/VII) ▲17392(J-7/VII) ▲17393(J-7/VII) ▲17394(J-7/VII) ▲17395(J-7/VII) ▲17396(J-7/VII) ▲17397(J-7/VII) ▲17399(J-7/VII) ▲17401(J-7/VII) ▲17402(J-7/VII) ▲17403(J-7/VII) ▲17404(J-7/VII) ▲17436(J-7/VI) ▲17438(J-7/VI) ▲17439(J-7/VI) ▲17441(J-7/VI) ▲17442(J-7/VI) ▲17443(J-7/VI) ▲17444(J-7/VI) ▲17445(J-7/VI) ▲17446(J-7/VI) ▲17447(J-7/VI) ▲17448(J-7/VI) ▲17450(J-7/VI) ▲17452(J-7/VI) ▲17455(J-7/VII) ▲17457(J-7/VI) ▲17460(J-7/VI) ▲17953(J-9/VII) ▲18020(K-7/VII) ▲18036(K-7/VII) ▲18037(K-7/VII) ▲18041(K-7/VII) ▲18049(J-7/VII) ▲18050(J-7/VII) ▲18051(J-7/VII) ▲18052(J-7/VII) ▲18053(J-7/VII) ▲18054(J-7/VII) ▲18056(J-7/VII) ▲18057(J-7/VII) ▲18058(J-7/VII) ▲18059(J-7/VII) ▲18060(J-7/VII)	黒,輝,細粒	口縁部:横ハケ→ナデ, 胴部:横, 斜ケズリ→粗いナデ	口唇部: ハケ→ナデ	-

第104表　縄文早期土器観察表（62）（12群土器-６）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
388	869	12.22	▲18061(J-7/VII) ▲18063(J-7/VII) ▲18064(J-7/VII) ▲18065(J-7/VII) ▲18067(J-7/VII) ▲18068(J-7/VII) ▲18069(J-7/VII) ▲18071(J-7/VII) ▲18074(J-7/VII) ▲18075(J-7/VII) ▲18076(J-7/VII) ▲18077(J-7/VII) ▲18079(J-7/VII) ▲18080(J-7/VII) ▲18082(J-7/VII) ▲18087(J-7/VII) ▲18088(J-7/VII) ▲18089(J-7/VII) ▲18093(J-7/VII) ▲18095(J-7/VII) ▲18096(J-7/VII) ▲18097(J-7/VII) ▲18099(J-7/VII) ▲18100(J-7/VII) ▲18105(J-7/VII) ▲18119(J-7/VII) ▲18121(J-7/VII) ▲18122(J-7/VII) ▲18124(J-7/VII) ▲18125(J-7/VII) ▲18126(J-7/VII) ▲18144(J-7/VIII) ▲18147(J-7/VIII) ▲18148(J-7/VIII) ▲18180(J-9/VIII上)	黒,輝,細粒	口縁部:横ハケ→ナデ, 胴部:横, 斜ケズリ→粗いナデ	口唇部: ハケ→ナデ	-
389	870	12.22	▲7975(F-4/VII)	角,輝,雲,細粒 ,赤粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
389	871	12.22	▲12653(H-6/VII)	黒,輝,細粒	斜ハケ→ナデ	斜ハケ→ナデ	混和材:黒雲母
389	872	12.22	▲1670(J-8/Ⅴ) ▲17251(J-8/VII下) ▲17253(J-8/VI下) ▲17345(J-8/VII) ▲17957(J-8/VIa)	角,輝,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
389	873	12.22	▲7929(G-5/VII)	角,輝,雲,砂粒 ,赤粒	横,斜ハケ→ナデ	横,斜ハケ→ナデ	-
389	874	12.22	▲18254(J-8/VII)	輝,雲,砂粒	横ハケ→粗いナデ	斜ハケ→粗いナデ	-
389	875	12.22	▲18269(J-8/VIII)	輝,雲,砂粒	斜ハケ→ナデ	-	-
389	876	12.22	▲9087(J-8/VII) ▲16174(J-7/VIa)	輝,雲,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
389	877	12.22	▲1906(I-19/VII)	角,輝,細粒	胴部上端:横ハケ→ナデ, 口縁部:横ハケ →丁寧なナデ	-	胎土精選
389	878	12.22	▲9062(J-8/VII) ▲9066(J-8/VII) ▲17298(J-8/VI下) ▲17334(J-9/VI) ▲17947(J-9/VIII) ▲18162(J-9/VII下)	輝,角,雲,砂粒 ,赤粒	横ケズリ→丁寧なナデ	-	-
389	879	12.22	▲9064(J-8/VII) ▲12956(H-7/VII) ▲12957(H-7/VII) ▲17240(K-8/VII上)	角,輝,雲,砂粒 ,赤粒	横,斜ケズリ→粗いナデ	-	-
389	880	12.22	▲15262(I-9/VII) ▲17246(J-8/VII上) ▲17265(K-8/VII) ▲17266(K-8/VII) ▲17270(K-8/VII上) ▲17295(J-8/VII上) ▲17939(K-8/VII)	角,輝,雲,砂粒 ,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	-

点文で直線文や山形文，曲線文などの文様を構成する土器と撚糸文を施す土器(第381図849)があることを指摘できる。さらに胴部文様帯には縦位方向の(網目)撚糸文を施すのが特徴である。その後，上に重ねて横位方向の沈線文を数条ずつ，胴部文様帯上端部，中央部もしくは下端部の数か所に巡らすことが指摘できる。また網目撚糸文の幅には，１単位毎に無文帯を設ける土器(第380図843)と，数単位を１単位とし施文する土器(第380図838,842)とがある。

さて，本遺跡から出土した本種に属する唯一の壺形土器が第381図850である。その器形的特徴から，小型土器に属する「長頸壺」の頸部と判断できる，無文土器である。接合資料が無く，全体形は不明である。

以上の特徴から本種土器は，河口貞徳により設定された塞ノ神Ａ式ａに分類できる土器群である。

本種土器の調整方法としては，内器面では直前調整として木製工具による横位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。わずかではあるが，直前調整としてケズリ調整の痕跡が観られる土器や，最終調整として篦状工具によるナデ調整を行う土器がある。

本種土器の胎土中鉱物は，主に角閃石と輝石，雲母などで構成される土器が主体を占める特徴がある。また，粗い粒度の鉱物で構成されている土器が主体を占め，細かい粒度の鉱物で構成されている土器は少ないことが指摘できる。さらに胎土中の鉱物に黒耀石を含ませる土器や，黒雲母が胎土中に多量に含む土器があり，混和材として含ませた可能性の高い土器など見受けられることが特記できる。

ここで注目できるのは，第380図838である。この土器には

滑石と判断できる鉱物が含まれていることや，また土器片が固結化している点でも，本種土器のなかでも特異的である。

さて，出土分布図からは，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ｉ・Ｊ-18・19区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｅ-５・６区周辺と，桐木調査区Ｈ-８・９区周辺とで部分的に出土していること(第369図・第372～376図参照)が指摘できる。この分布域は，第11群土器第２類土器の主な分布域や，次に述べる第12群土器第２類土器第２種土器の主な分布域と，部分的に重なる地点はあるが，概ね異なる分布域を示しており，注目できる。

第12群土器第２類土器第２種土器(分類記号12.22，第382～389図851～880)

器形的特徴としては，口縁形態がほぼ平口縁を呈する土器(第382図851～853,855・856，第388図866・869，第389図870・871・873)と，緩やかな波状口縁を呈す土器(第384図857)とがあるのを指摘できる。

胴部から口縁部にかけてラッパ状に開く口縁部形態には，直線的になる土器(第382図852，第384図857，第388図866,869，第389図873)と，わずかに内弯形態を呈する土器(第382図851,853,855,856，第389図870，871)とがあるのは，第12群土器第２類土器第１種土器との共通点であると指摘できる。

さらに，口縁部内面と胴部内面との境には明瞭な稜線を形成する土器も見受けられるが，稜線が不明瞭である土器の割合が，第12群土器第２類土器第１種土器と比べて高いことが特徴として挙げることができる。

胴部形態には，直線的に底部へすぼまる土器(第384図857，第388図866)と，胴部上半が膨らみを呈し，底部へ緩やかに移行する土器(第386図858，第388図867,869)とがある。胴部下端から底部にかけての形態には，直線的に立ち上がる土器(第387図864・865)と，すぼまりながら上げ底となる土器(第387図861，第388図868)とが挙げることができる。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には，刻みを施す土器(第382図851・852，第388図866,869，第389図870,871,873)と，無文化する土器(第382図853・855・856，第384図857)とがあることが指摘できる。また口縁部文様帯には，特に上端部と下端部とに篦状工具もしくは半截竹管状工具による刻みを横位方向に数条巡らす。さらに口縁部文様帯および胴部文様帯には，網目撚糸文(第382図851,853，第387図859,860,863，第389図873)あるいは撚糸文(第382図855・856，第384図857，第386図858，第387図862,864,865，第388図869，第389図872,874～880)を施し，その上に棒状工具を用いて幾何学的な篦枠文を描いた後に，その枠外の部分をナデ消すことで文様を構成していることが，本種土器細別の最大の指標として挙げられる。

以上の特徴から本種土器は，河口貞徳により設定された塞ノ神Ａ式bに分類できる土器群である。

本種土器の調整方法としては，内器面では直前調整として木製工具による横位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。また最終調整として篦状工具によるナデ調整を行う土器がある。さらに最終調整としてナデ調整を行う土器の多くは，直前調整としてケズリ調整の痕跡が観られる土器であることが特徴として指摘できる。このことは，第12群土器第２類土器第１種土器よりもナデ調整の程度が粗めになる傾向を示していることが，注目できる。

本種土器の胎土中鉱物は，主に角閃石と輝石，雲母などで構成される土器が主体を占める特徴がある。また，粗い粒度の鉱物で構成されている土器が主体を占め，細かい粒度の鉱物で構成されている土器は少ないことが指摘できる。

ここで注目できるのは，耳取調査区で出土した土器には黒雲母が多量に含まれる土器があり，また，桐木調査区で出土した土器には角閃石が多量に含まれる土器があり，それぞれ混和材として含ませた可能性が高いことが特記できる。

さて，出土分布図からは，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｃ～Ｈ-５～10区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｅ-５・６区周辺と，桐木調査区あ-14・15区周辺と，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区い～お-20～22区周辺とで部分的に出土していること(第370図・第372～376図参照)が指摘できる。この分布域は，第11群土器第２類土器第１種土器と部分的に重なる地点がある。しかし，第１種土器では部分的にまとまる分布を示すのに対して，第２種土器では非常に広範囲に拡がる土器群であり，この様相は第12群土器第３類土器と共通する分布域であり，注目できる。

第12群土器第３類土器(分類記号12.3，第390～397図881～925)

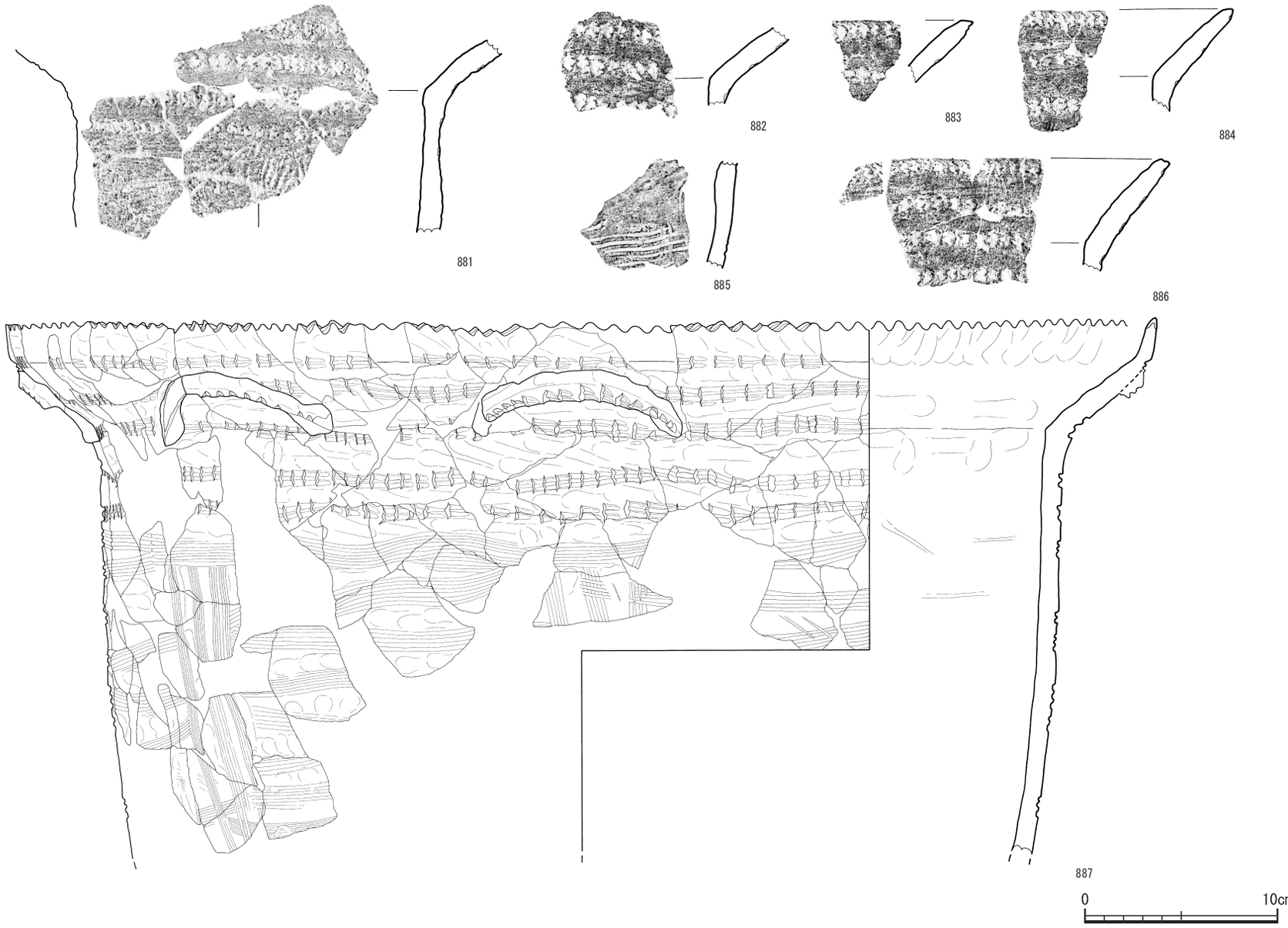
第12群土器に属する土器のうち，貝殻を施文具として刺突文や条痕文などの文様を構成する土器を本類に分類した。河口編年に基づき，貝殻による刺突文や条痕文をそのまま施す第１種土器と，貝殻による刺突文や条痕文を枠線で囲んで文様を構成する第２種土器とに細別を行った。その結果，本遺跡からは第１種土器のみが出土しており，分類を行うことはできなかった。

本類土器では，器形的特徴としては，口縁形態がほぼ平口縁を呈する土器が主体を占め，波状口縁を呈する土器(第393図890)は１点だけと少なかった。

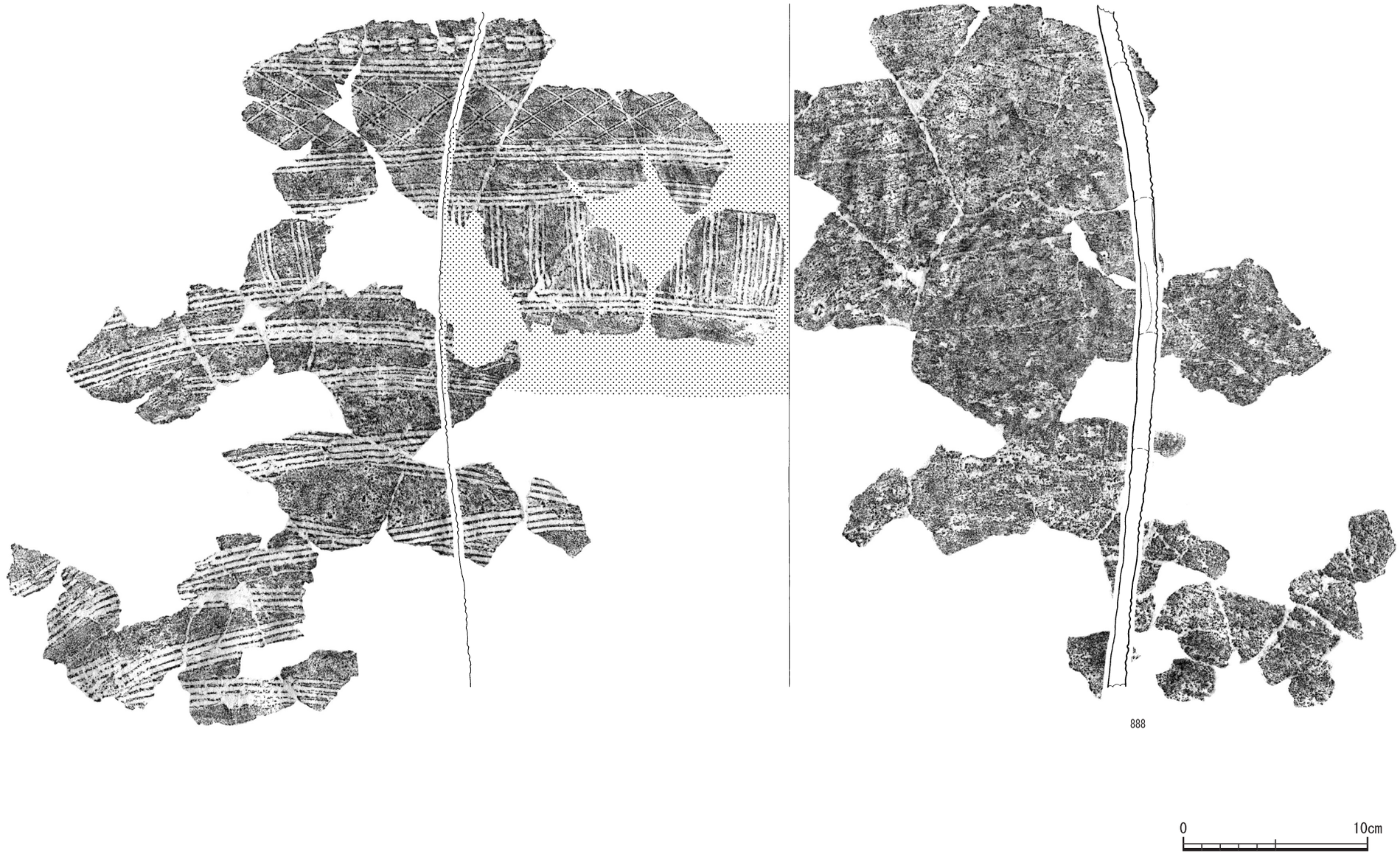
口縁部形態からは，次の３タイプが認められ，施文的特徴との相関関係は以下の通りである。

第１タイプ土器(第394図892)は，器形的特徴としては，短い口縁部が外反する形態を呈する土器である。口縁部内面と胴部内面との境をなす稜線は明瞭である。胴部上半から胴部下半にかけての接合資料は無く，詳細は不明である。

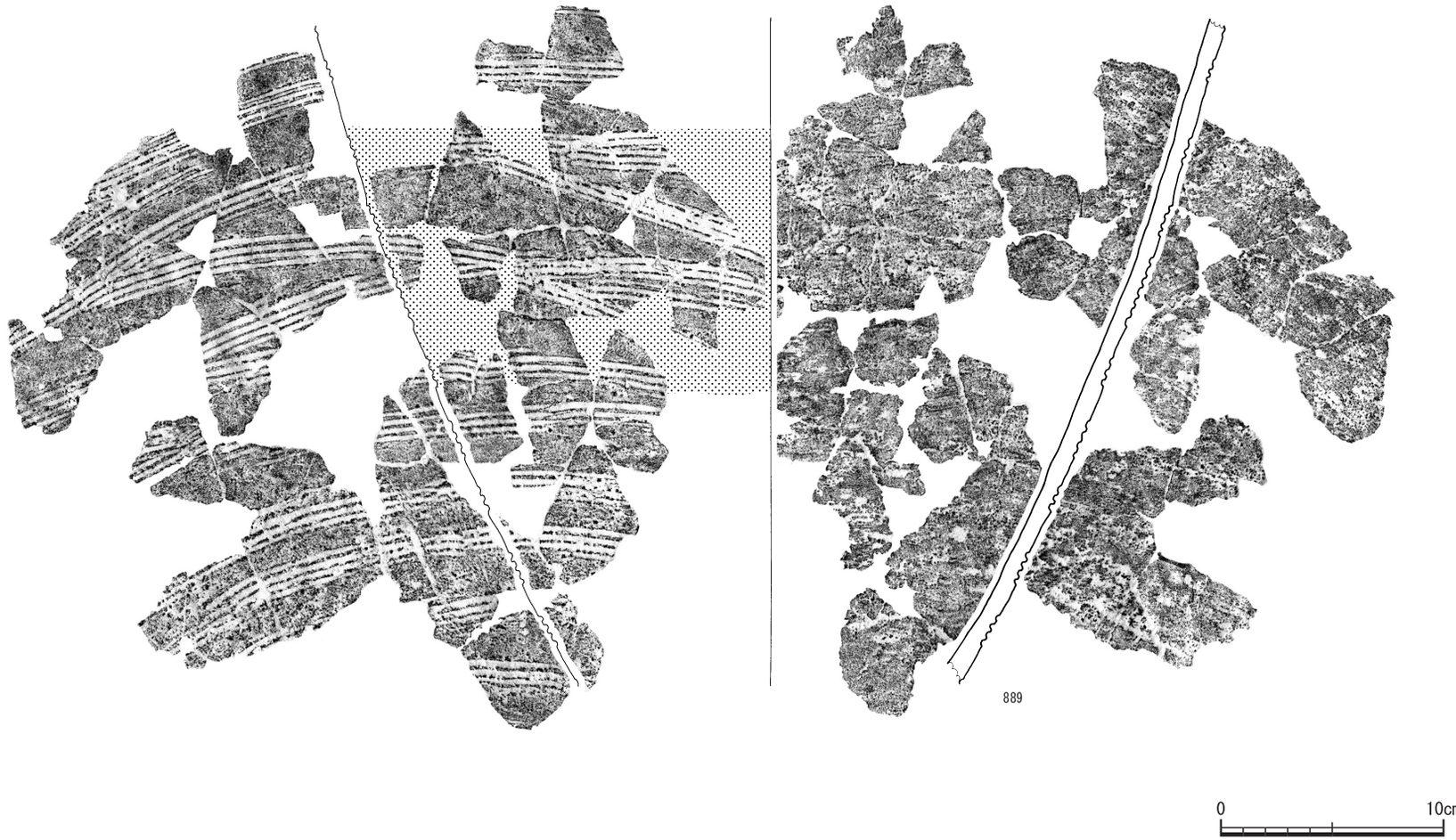
施文的特徴としては，口縁部文様帯には横位方向に数条の



第390図　縄文早期土器実測図（139）（12.31群土器/耳取調査区出土）



第391図　縄文早期土器実測図（140）（12.31群土器/桐木調査区出土）



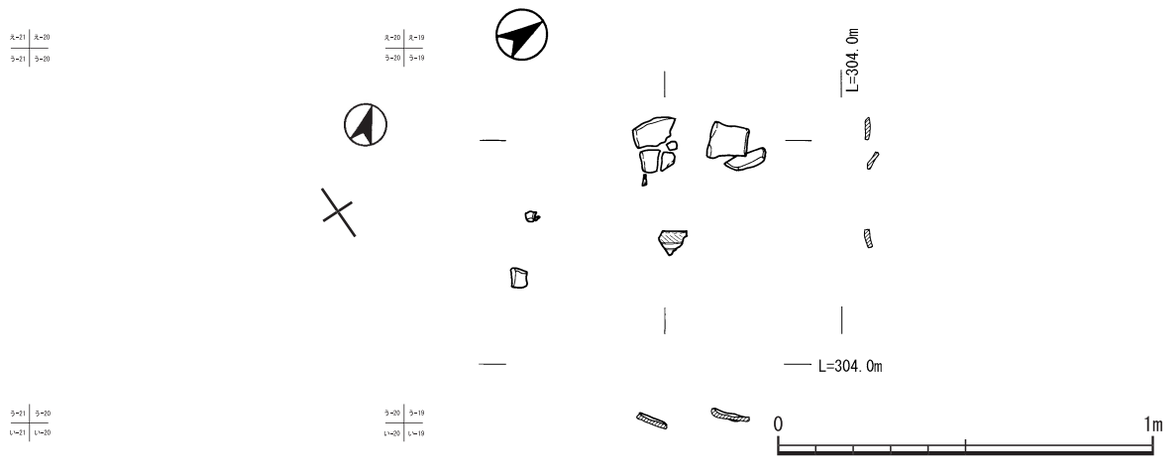
第392図　縄文早期土器実測図（141）（12.31群土器/桐木調査区出土）

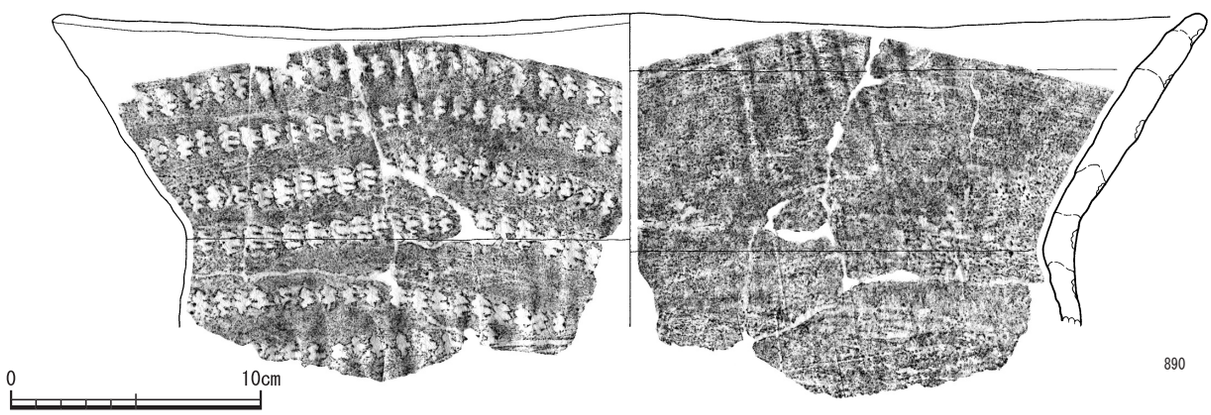
第105表　縄文早期土器観察表（63）（12群土器-７）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
390	881	12.31	▲16161(K-8/Ⅵa) ▲17284(K-8/Ⅶ上) ▲17288(J-8/Ⅶ上) ▲17348(K-8/Ⅶ) ▲17935(J-8/Ⅶ) ▲17943(J-9/Ⅵa) ▲17951(J-9/Ⅶ) ▲18181(J-8/Ⅶ下)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
390	882	12.31	▲17264(J-8/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
390	883	12.31	▲17941(J-8/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	-
390	884	12.31	▲17340(J-9/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	砂粒多量
390	885	12.31	▲10987(J-11/Ⅵa)	輝,黒,細粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
390	886	12.31	▲17275(K-8/Ⅶ上) ▲17276(K-8/Ⅶ上) ▲17282(K-8/Ⅶ上) ▲17286(J-8/Ⅶ上) ▲17949(J-8/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	口唇部:横ハケ→ナデ	-
390	887	12.31	▲9078(J-8/Ⅵa) ▲9363(I-8/Ⅵa) ▲9366(I-8/Ⅵa) ▲9368(I-8/Ⅵa) ▲9453(G-4/Ⅶ) ▲9562(I-8/Ⅵa) ▲9567(I-8/Ⅵa) ▲9568(I-8/Ⅵa) ▲9569(I-8/Ⅵa) ▲9570(I-8/Ⅵa) ▲9572(I-8/Ⅵa) ▲9574(I-8/Ⅵa) ▲9575(I-8/Ⅵa) ▲9576(I-8/Ⅵa) ▲9577(I-8/Ⅵa) ▲9578(I-8/Ⅵa) ▲9580(I-8/Ⅵa) ▲9581(I-8/Ⅵa) ▲9582(I-8/Ⅵa) ▲9583(I-8/Ⅵa) ▲9584(I-8/Ⅵa) ▲9586(I-8/Ⅵa) ▲9587(I-8/Ⅵa) ▲9588(I-8/Ⅵa) ▲9589(I-8/Ⅵa) ▲9590(I-8/Ⅵa) ▲9595(I-8/Ⅵa) ▲9596(I-8/Ⅵa) ▲9597(I-8/Ⅵa) ▲9598(I-8/Ⅵa) ▲9603(I-8/Ⅵa) ▲9604(I-8/Ⅵa) ▲9607(I-8/Ⅵa) ▲9609(I-8/Ⅵa) ▲9610(I-8/Ⅵa) ▲9612(I-8/Ⅵa) ▲9613(I-8/Ⅵa) ▲9614(I-8/Ⅵa) ▲9615(I-8/Ⅵa) ▲9617(I-8/Ⅵa) ▲9618(I-8/Ⅵa) ▲9619(I-8/Ⅵa) ▲9620(I-8/Ⅵa) ▲9621(I-8/Ⅵa) ▲9622(I-8/Ⅵa) ▲9623(I-8/Ⅵa) ▲9624(I-8/Ⅵa) ▲9625(I-8/Ⅵa) ▲9626(I-8/Ⅵa) ▲9627(I-8/Ⅵa) ▲9628(I-8/Ⅵa) ▲9629(I-8/Ⅵa) ▲9631(I-8/Ⅵa) ▲9634(I-8/Ⅵa) ▲9635(I-8/Ⅵa) ▲9638(I-8/Ⅵa) ▲9639(I-8/Ⅵa) ▲9642(I-8/Ⅵa) ▲9643(I-8/Ⅵa) ▲9644(I-8/Ⅵa) ▲9646(I-8/Ⅵa) ▲9647(I-8/Ⅵa) ▲9649(I-8/Ⅶ) ▲9650(I-8/Ⅶ) ▲9651(I-8/Ⅶ) ▲9653(I-8/Ⅵa) ▲9654(I-8/Ⅶ) ▲9655(I-8/Ⅵa) ▲9657(I-8/Ⅵa) ▲9658(I-8/Ⅵa) ▲9659(I-8/Ⅵa) ▲9660(I-8/Ⅵa) ▲9661(I-8/Ⅵa) ▲9662(I-8/Ⅵa) ▲9663(I-8/Ⅵa) ▲10441(I-8/Ⅶ) ▲10443(I-8/Ⅶ) ▲10444(I-8/Ⅶ) ▲10447(I-8/Ⅶ) ▲10450(I-8/Ⅶ) ▲10451(I-8/Ⅶ) ▲10456(I-8/Ⅶ) ▲10457(I-8/Ⅶ) ▲10458(I-8/Ⅶ) ▲10531(J-8/Ⅶ) ▲12973(I-8/Ⅶ) ▲12974(I-8/Ⅸ下) ▲15249(I-9/Ⅶ) ▲15250(I-9/Ⅶ) ▲15251(I-9/Ⅶ)	輝,角,雲,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-

第106表　縄文早期土器観察表（64）（12群土器-８）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
391	888	12.31	◎1801-10(-/-) ◎1801-22(-/-) ◎1801-23(-/-) ◎1801-25(-/-) ◎1801-26(-/-) ◎1801-9(-/-) ◎1802-10(-/-) ◎1802-105(-/-) ◎1802-109(-/-) ◎1802-11(-/-) ◎1802-110(-/-) ◎1802-113(-/-) ◎1802-120(-/-) ◎1802-121(-/-) ◎1802-128(-/-) ◎1802-133(-/-) ◎1802-14(-/-) ◎1802-151(-/-) ◎1802-16(-/-) ◎1802-160(-/-) ◎1802-167(-/-) ◎1802-170(-/-) ◎1802-178(-/-) ◎1802-194(-/-) ◎1802-20(-/-) ◎1802-209(-/-) ◎1802-210(-/-) ◎1802-211(-/-) ◎1802-216(-/-) ◎1802-219(-/-) ◎1802-226(-/-) ◎1802-254(-/-) ◎1802-257(-/-) ◎1802-261(-/-) ◎1802-27(-/-) ◎1802-31(-/-) ◎1802-34(-/-) ◎1802-36(-/-) ◎1802-37(-/-) ◎1802-4(-/-) ◎1802-40(-/-) ◎1802-42(-/-) ◎1802-44(-/-) ◎1802-46(-/-) ◎1802-48(-/-) ◎1802-51(-/-) ◎1802-57(-/-) ◎1802-59(-/-) ◎1802-6(-/-) ◎1802-63(-/-) ◎1802-65(-/-) ◎1802-67(-/-) ◎1802-69(-/-) ◎1802-71(-/-) ◎1802-73(-/-) ◎1802-78(-/-) ◎1802-79(-/-) ◎1802-89(-/-) ◎1802-9(-/-) ◎1802-92(-/-) ◎1802-93(-/-) ◎1802-99(-/-)	黒,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母,細粒多量,外面スス付着
392	889	12.31	◎1802-104(-/-) ◎1802-108(-/-) ◎1802-120(-/-) ◎1802-123(-/-) ◎1802-125(-/-) ◎1802-130(-/-) ◎1802-131(-/-) ◎1802-138(-/-) ◎1802-168(-/-) ◎1802-176(-/-) ◎1802-186(-/-) ◎1802-188(-/-) ◎1802-19(-/-) ◎1802-191(-/-) ◎1802-193(-/-) ◎1802-194(-/-) ◎1802-2(-/-) ◎1802-21(-/-) ◎1802-23(-/-) ◎1802-237(-/-) ◎1802-24(-/-) ◎1802-32(-/-) ◎1802-33(-/-) ◎1802-38(-/-) ◎1802-43(-/-) ◎1802-45(-/-) ◎1802-47(-/-) ◎1802-53(-/-) ◎1802-54(-/-) ◎1802-55(-/-) ◎1802-60(-/-) ◎1802-61(-/-) ◎1802-62(-/-) ◎1802-64(-/-) ◎1802-70(-/-) ◎1802-74(-/-) ◎1802-76(-/-) ◎1802-81(-/-) ◎1802-98(-/-)	黒,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母,細粒多量,外面スス付着
393	890	12.31	●塞10(-/-) ●塞5(-/-) ●塞6(-/-) ●塞7(-/-) ●塞8(-/-) ●塞9(-/-)	角,砂粒	横ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-
394	891	12.31	○40964(C-8/Ⅵ撹乱) ○58023(E-8/Ⅶ) ○58026(E-8/Ⅶ) ○58585(E-8/Ⅶ) ○58597(E-8/Ⅶ)	砂粒,角,輝	貝殻条痕→丁寧なナデ	口唇部:ナデ	-
394	892	12.31	○55713(H-8/Ⅶ)	輝,砂粒	貝殻条痕→ナデ,横ハケ→ナデ	-	-
394	893	12.31	●6957(う-19/Ⅷ)	輝,細粒	横ナデ,斜ナデ	-	-





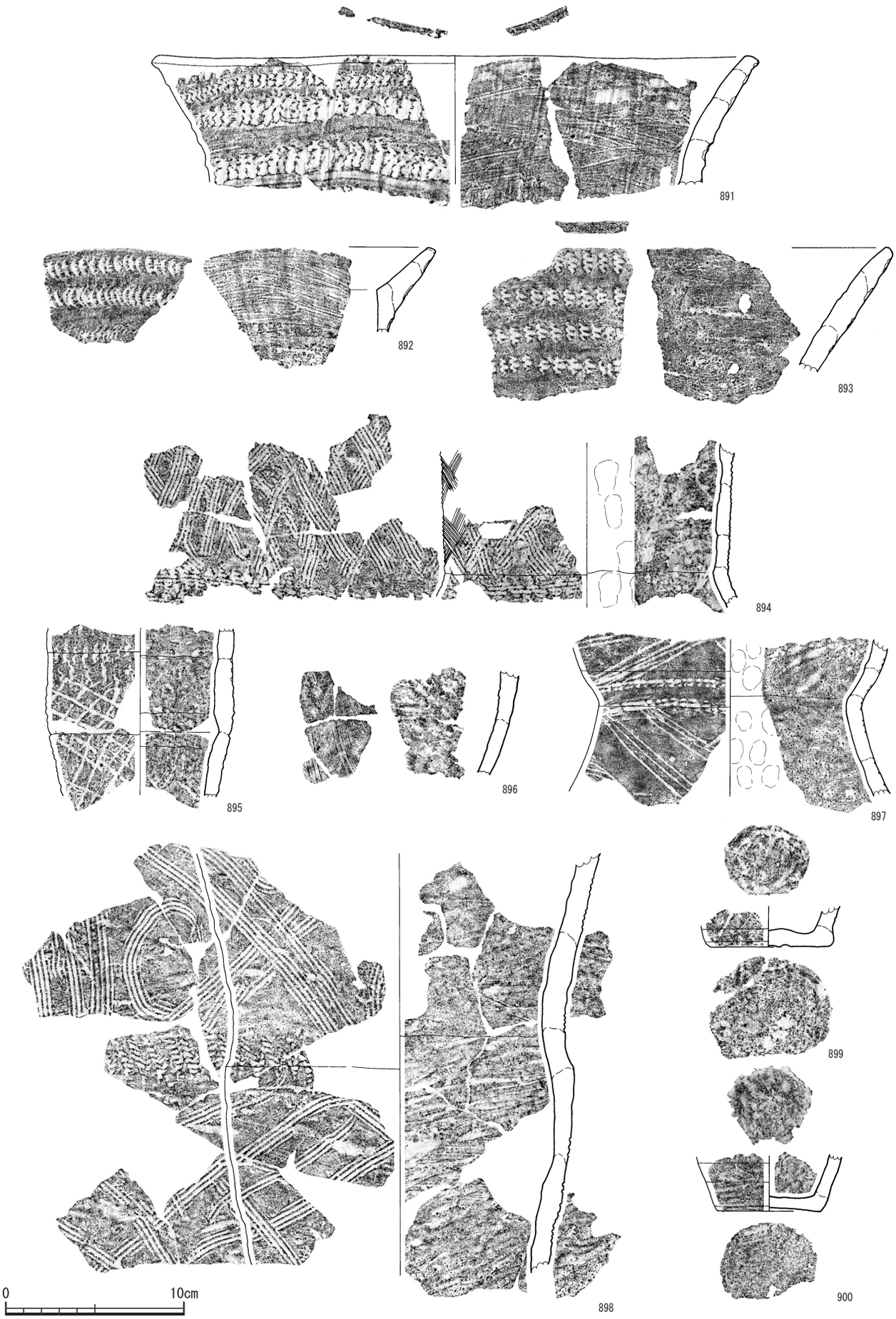
第393図　縄文早期土器実測図（142）（12.31群土器/桐木調査区出土）/（890）土器出土状況図

第107表　縄文早期土器観察表（65）（12群土器-９）

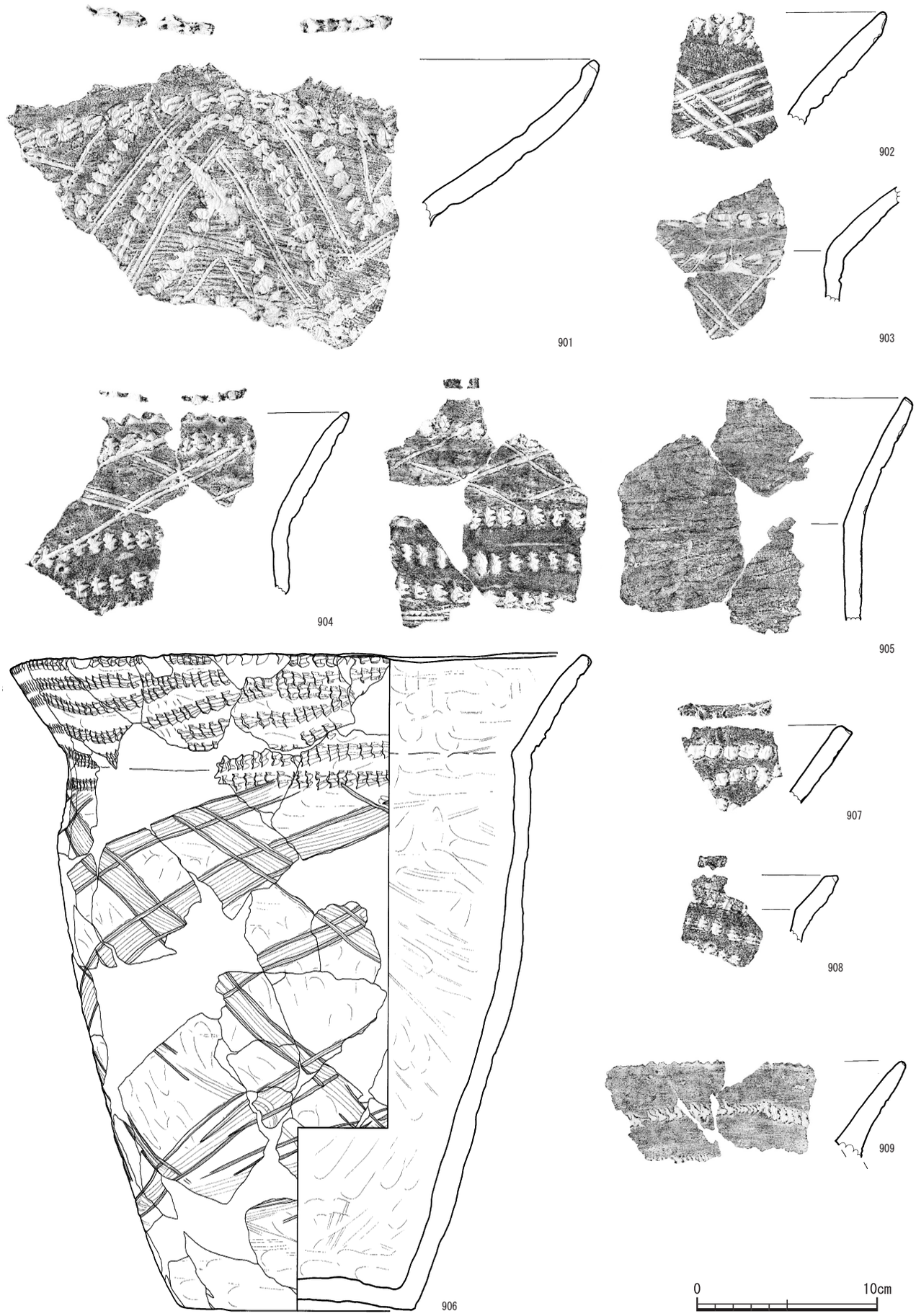
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
394	894	12.31	◎1487(A-12/Ⅳ) ◎8792(A-12/Ⅵ) ○36734(A-12/Ⅵ) ○36739(A-12/Ⅵ) ○36742(A-12/Ⅵ) ○36743(A-12/Ⅵ) ○36744(A-12/Ⅵ) ○36752(A-12/Ⅵ) ○37249(A-12/Ⅵ下)	黒,細粒	指頭痕→横ハケナデ	-	混和材:黒雲母
394	895	12.31	◎9359(あ-15/Ⅵa) ◎9362(あ-15/Ⅵa) ◎9407(あ-15/Ⅵ下)	角,砂粒	横ハケ→ナデ, 縦ケズリ→粗いナデ	-	-
394	896	12.31	◎50747(-/-) ●50697(こ-27/Ⅶ) ●50748(こ-28/Ⅶ)	角,砂粒	横ケズリ→粗いナデ, スス付着	-	外面スス付着
394	897	12.31	○3180(D-11/Ⅲb)	角,砂粒	指頭痕→ナデ	-	-
394	898	12.31	○32821(E-9/Ⅵ) ○32829(E-9/Ⅵ) ○32837(E-9/Ⅵ) ○32839(E-9/Ⅵ) ○32848(E-9/Ⅵ) ○32850(E-9/Ⅵ) ○33797(E-9/Ⅵ) ○38061(D-9/Ⅵa) ○38062(D-9/Ⅵa) ○38064(D-9/Ⅵa) ○38065(D-9/Ⅵa) ○38066(E-9/Ⅵa) ○38067(E-9/Ⅵa) ○38069(E-9/Ⅵa) ○38074(E-9/Ⅵb) ○38075(D-9/Ⅵa) ○38077(D-9/Ⅵa)	輝,黒,砂粒	横ハケ→ナデ, 横ケズリ→ナデ, 斜ケズリ→粗いナデ	-	-
394	899	12.31	◎9361(あ-15/Ⅵa) ◎9363(あ-15/Ⅵa)	角,砂粒	横ハケナデ,指頭痕, ハケナデ	横ハケナデ	-
394	900	12.31	○54023(E-10/ⅩⅡ)	黒,細粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
395	901	12.31	▲9056(J-8/Ⅵa)	輝,角,雲,砂粒 ,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	砂粒多量
395	902	12.31	▲2487(I-17/Ⅴ)	輝,角,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
395	903	12.31	▲10972(J-11/Ⅵa)	輝,角,砂粒, 赤粒	横ケズリ→ナデ	-	-
395	904	12.31	▲3436(I-15/Ⅵa) ▲3488(J-14/Ⅵa) ▲10914(J-13/Ⅴb下)	輝,雲,砂粒	斜ヘラケズリ→ナデ	-	細粒多量
395	905	12.31	▲11021(J-13/Ⅵa) ▲11023(J-13/Ⅵa) ▲19513(-/-)	輝,角,雲,細粒 ,赤粒	胴部上端: 斜ヘラケズリ→ナデ, 口縁部:横ヘラケズリ →丁寧なナデ	-	細粒多量

第108表　縄文早期土器観察表（66）（12群土器-10）

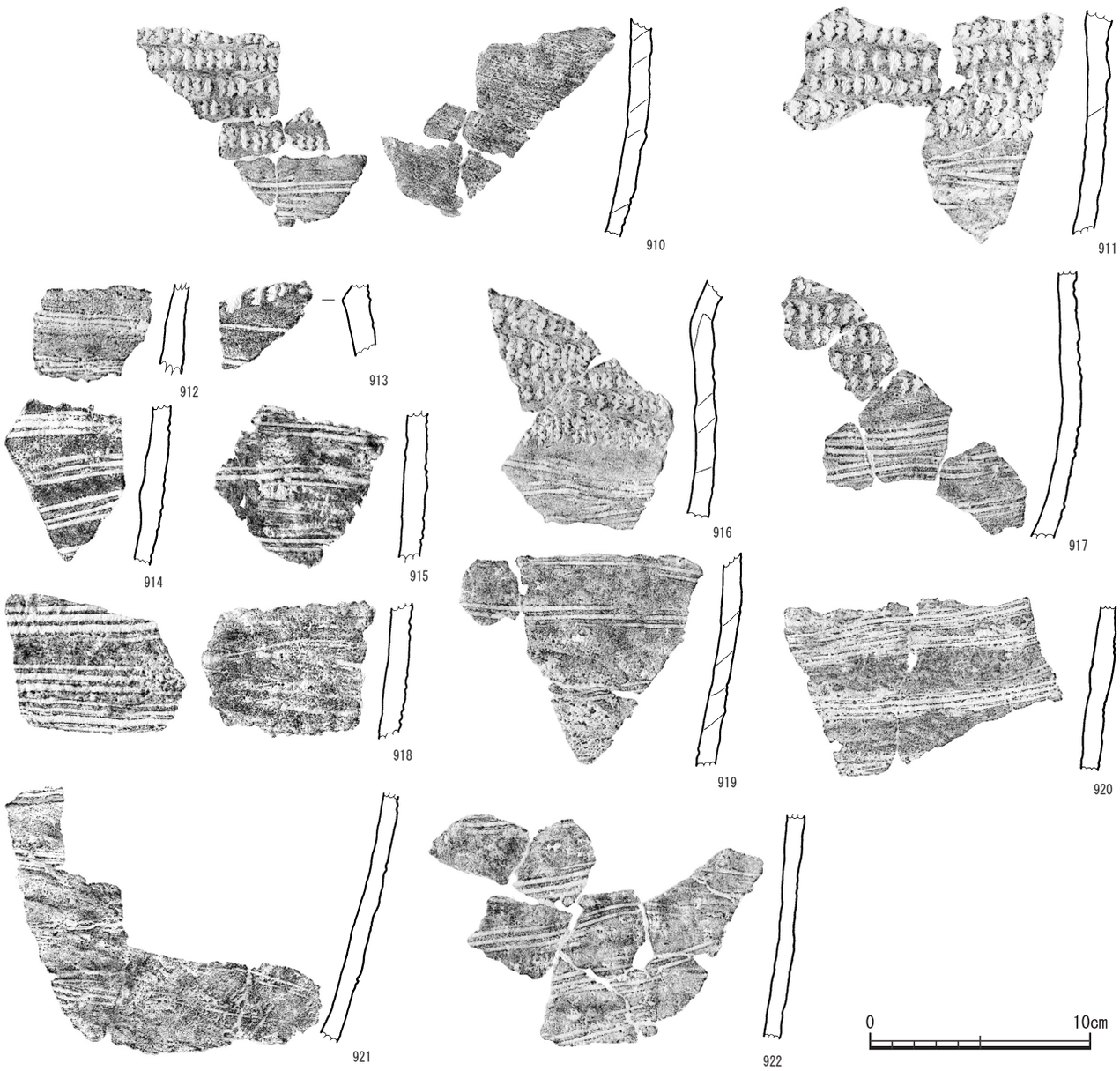
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
395	906	12.31	▲3242(J-13/Ⅶ) ▲3246(I-14/Ⅶ) ▲3260(J-14/Ⅶ) ▲3261(J-14/Ⅶ) ▲3262(J-14/Ⅶ) ▲3263(J-14/Ⅶ) ▲3264(J-14/Ⅶ) ▲3265(J-14/Ⅶ) ▲3268(J-14/Ⅶ) ▲3271(J-14/Ⅶ) ▲3272(J-14/Ⅶ) ▲3273(J-14/Ⅶ) ▲3471(J-14/Ⅶ) ▲3472(J-14/Ⅶ) ▲3473(J-14/Ⅶ) ▲3476(J-14/Ⅶ) ▲3477(J-14/Ⅶ) ▲3479(J-14/Ⅶ) ▲3480(J-14/Ⅶ) ▲3481(J-14/Ⅶ) ▲3482(J-14/Ⅶ) ▲3483(J-14/Ⅶ) ▲3487(J-14/Ⅶ) ▲3514(J-14/Ⅶ) ▲3515(J-14/Ⅶ) ▲3517(J-14/Ⅶ) ▲3519(J-14/Ⅶ) ▲3520(J-14/Ⅶ) ▲5270(H-19/ⅩⅡ) ▲5615(J-14/Ⅶ) ▲5617(J-14/Ⅶ) ▲11039(J-14/Ⅵa) ▲11040(J-14/Ⅶ上) ▲11041(J-14/Ⅶ上) ▲11042(J-14/Ⅶ上) ▲11197(J-14/Ⅵa) ▲11199(J-14/Ⅶ) ▲11201(J-14/Ⅶ) ▲11205(J-14/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒	口縁部:横ハケ→ナデ, 胴部:斜, 横ケズリ→粗いナデ	-	黒曜石
395	907	12.31	▲4464(I-11/Ⅶ)	輝,角,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
395	908	12.31	▲1368(I-11/Ⅵa)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	混和材:黒雲母, 細粒多量
395	909	12.31	▲17937(J-8/Ⅶ) ▲18116(J-7/Ⅶ)	輝,角,砂粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
396	910	12.31	▲2492(I-17/Ⅴa) ▲2500(I-17/Ⅴa) ▲2512(I-17/Ⅴa) ▲2536(I-17/Ⅶ) ▲2542(I-17/Ⅶ)	黒,輝,砂粒, 赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	-
396	911	12.31	▲2505(I-17/Ⅵa) ▲2532(I-17/Ⅶ) ▲2546(I-17/Ⅶ) ▲2560(I-17/Ⅶ)	角,輝,雲,雲, 砂粒,	斜ハケ→工具ナデ	-	細粒多量
396	912	12.31	▲1367(I-11/Ⅵa)	黒,輝,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	混和材:黒雲母, 細粒多量



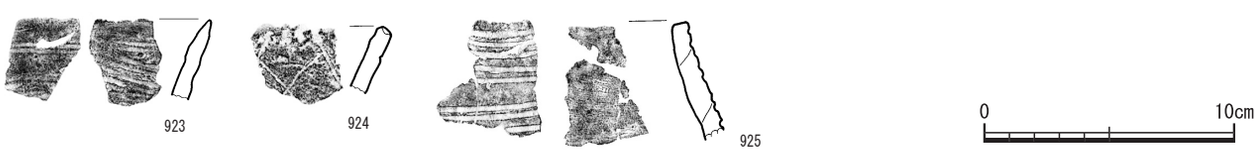
第394図　縄文早期土器実測図（143）（12.31群土器/桐木調査区出土）



第395図　縄文早期土器実測図（144）（12.31群土器/耳取調査区出土）



第396図　縄文早期土器実測図（145）（12.31群土器/耳取調査区出土）



第397図　縄文早期土器実測図（146）（12.31群土器/耳取調査区出土）

第109表　縄文早期土器観察表（67）（12群土器-11）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
396	913	12.31	▲10982(J-11/VIa)	角,輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	細粒多量
396	914	12.31	▲3281(I-12/VIa)	角,輝,雲,砂粒	斜ケズリ→ハケナデ	-	細粒多量
396	915	12.31	▲2508(I-17/VIa)	輝,雲,雁,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	砂粒多量
396	916	12.31	▲2481(I-17/V下) ▲2541(I-17/VII)	角,輝,雲,砂粒	斜ケズリ→工具ハケナデ	-	-
396	917	12.31	▲2476(I-17/IV下) ▲2538(I-17/VII) ▲2548(I-17/VII) ▲2549(I-17/VII) ▲2550(I-17/VII)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	斜ケズリ→工具ハケナデ	-	細粒多量
396	918	12.31	▲17339(J-9/VII)	輝,雲,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
396	919	12.31	▲2530(I-17/VII) ▲2539(I-17/VII) ▲2543(I-17/VII)	角,輝,砂粒	斜ハケ→工具ナデ	横ハケ→ナデ	砂粒多量

第110表　縄文早期土器観察表（68）（12群土器-12）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
396	920	12.31	▲19511(-/-) ▲19512(-/-)	輝,角,砂粒,赤粒	斜,横ケズリ→粗いナデ	斜,横ハケ→ナデ	細粒多量
396	921	12.31	▲3434(I-15/VIa) ▲3493(J-14/VIa) ▲3496(J-14/VII) ▲3500(I-14/VIa) ▲3504(I-15/Vb)	輝,角,細粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	斜,横ハケ→ナデ	細粒多量
396	922	12.31	▲2483(I-17/V) ▲2494(I-17/Va) ▲2496(I-17/Va) ▲2509(I-17/Va) ▲2535(I-17/VII) ▲2537(I-17/VII) ▲2540(I-17/VII)	角,輝,砂粒,赤粒	斜ハケ→ナデ	-	砂粒多量
397	923	12.31	▲5524(J-7/VII横転)	輝,角,細粒	貝殻条痕,横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	胎土精選
397	924	12.31	▲9045(J-8/VII)	輝,角,微粒	横ハケ→ナデ	斜ハケ→ナデ	胎土精選
397	925	12.31	▲3686(I-12/VII)	輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→ユビナデ	-	-

貝殻による刺突連点文を数条を施すのが特徴である。

第２タイプ土器(第390図881～886，第393図890，第394図893，第395図906，第396図910～922など)は，器形的特徴としては，長い口縁部が直線的に外反する土器であることが指摘できる。口縁部内面と胴部内面との境をなす稜線は明瞭である。胴部形態は口縁部直下で膨らむため，胴部最大径が胴部上半にある。胴部中央部から下半部にかけてはほぼ直線的に底部にむけてすぼまる土器である。底部は上げ底を呈する。

ここで注目できるのは，第395図901である。口縁部の長さが長く外反する形態であること，口縁部内面と胴部内面との境をなす稜線は明瞭であることから，本タイプ土器に帰属させた。ただし，本タイプ土器における口縁部形態の指標が直線的に外反する土器であるのに対して，この土器は内弯形態を呈する点で特異的である。この形態を呈する土器は本遺跡からは１点のみの出土であった。

施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部文様帯上半にかけては，貝殻腹縁による横位方向あるいは斜位方向の刺突連点文もしくは押引文を組み合わせで様々な文様が構成されること(第393図890，第396図910・911・916・917)を指摘できた。胴部文様帯には棒状工具あるいは叉状工具による横位方向もしくは斜位方向あるいは縦位方向の条痕文を施す土器(第391・392図888・889，第396図910～922)が特徴となることが指摘できる。

第３タイプ土器(第394図891，894～900，第395図902～905，第397図923・924)は，器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し(第395図902～905，第397図923・924)，長い口縁部がわずかに外反する土器を挙げることができる。また，口縁部と胴部の境が不明瞭になる土器である。胴部は中央部でわずかに膨らむため，胴部最大径が胴部中央にある。胴部中央部から下半部にかけては，ほぼ直線的に底部にむけてすぼまる土器である。

また注目できるのは，径の大きさの違いから数タイプに分けることができそうである。点数が少ないため，明瞭に断言はできないものの，中型土器(第394図894,898)と，小型土器(第394図897)と，小型特殊土器(第394図895)とに，最低限分けることができそうである。

施文的特徴としては，口縁部文様帯および胴部文様帯に，貝殻もしくは棒状工具や叉状工具を用いて横位方向あるいは斜位方向の刺突連点文と，斜格子状の沈線文とで文様が構成されるのが特徴である。

以上の特徴から本類土器は，河口貞徳により設定された塞ノ神Ｂ式ｄに分類できる土器群である。

本類土器の調整方法としては，内器面では直前調整として木製工具による横位方向のケズリ調整あるいはハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整もしくは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。また最終調整として篦状工具によるナデ調整を行う土器がある。

さらに最終調整としてナデ調整を行う土器のほとんどは，直前調整としてケズリ調整の痕跡が観られる土器であることが特徴として指摘できる。このことは，第12群土器第２類土器第２種土器よりもナデ調整の程度がさらに粗めになる傾向を示していることが，注目できる。

本類土器の胎土中鉱物は，主に輝石，雲母などで構成される土器が主体を占める特徴がある。そして，角閃石を含む土器と，黒雲母を含む土器との割合は同程度であり，それぞれ多量に含まれる土器があり，混和材として含ませた可能性が高いことが特記できる。

また，粗い粒度の鉱物が含まれる土器の割合は高い状況がみられた。そして粗い粒度の鉱物においても，細かい粒度の鉱物においても，多量に含まれる土器が多く出土しており，混和材として含ませた可能性が高いことが指摘できる。

さらに，胎土が極めて精選された土器が，多数出土したことである。

ここで注目できるのは，調整方法においても，胎土中鉱物の含有内容においても，差異が大きいことである。この違いは土器製作技法の根本的な差といっても過言ではなく，製作集団の違いを示している可能性がある。

さて，出土分布図からは，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｉ～Ｊ-７～11区周辺と，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ｉ～Ｊ-14～17区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区あ～Ｅ-７～15区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区く～さ-26～28区周辺とで広範囲ではあるが，部分的に出土していること(第371図・第372～376図参照)が指摘できる。この分布域が広範囲に拡がるという特徴は，先に述べたように，第12群土器第２類土器第２種土器と共通する特徴であり，注目できる。

最後に，非常に特異的な形態を呈する，第390図887と第397図925の２個体の土器について指摘して，この項を終えることにする。

第390図887は，口径約60cm，胴部最大径約50cmを測る，超大型の深鉢形土器である。器形的特徴として，口縁形態は平口縁を呈すること，長く直線的な外反する口縁部形態であること，口縁部内面と胴部内面との境をなす稜線は明瞭であること，胴部最大径が胴部上半にあり，胴部中央部から下半部にかけてはほぼ直線的に底部にむけてすぼまる形態であることなどが指摘できる。さらに施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部文様帯上半にかけては，貝殻腹縁による横位方向の刺突連点文もしくは押引文文様が構成されることを挙げることができる。以上のことから，この土器は第２タイプ土器に帰属する土器と判断できる。

ただし特異的であるのは，通常の深鉢形土器と比べて大きさが非常に大きいことと，外反する口縁部の先端部分が直立する形態を呈することと，口縁下部に幅約10cmを測る三日月状の突起を横位方向に貼り付けることである。この突起